

SONY

ROUTING SWITCHER SYSTEM

DIGITAL VIDEO ROUTING SWITCHER

DVS-V1616

DIGITAL VIDEO ROUTING SWITCHER

DVS-V3232B

DIGITAL VIDEO ROUTING SWITCHER

DVS-V6464B

RS-422A REMOTE ROUTING SWITCHER

DVS-RS1616

TIME CODE ROUTING SWITCHER

DVS-TC3232

DIGITAL AUDIO ROUTING SWITCHER

DVS-A3232

ANALOG VIDEO ROUTING SWITCHER

BVS-V3232

ANALOG AUDIO ROUTING SWITCHER

BVS-A3232

HD ROUTING SWITCHER

HDS-V3232

16-SOURCE CONTROL UNIT

BKS-R1601

X-Y CONTROL UNIT

BKS-R3202/R3210

32-SOURCE CONTROL UNIT

BKS-R3203

UNIVERSAL CONTROL UNIT

BKS-R3204/R1608/R3209

SOURCE AND DESTINATION CONTROL UNIT

BKS-R3205

8-DESTINATION CONTROL UNIT

BKS-R3206

MULTI DISPLAY CONTROL UNIT

BKS-R1607

ROUTING SWITCHER CONTROLLER

BKPF-R70

DIGITAL VIDEO 8 × 2 SELECTOR BOARD

BKPF-300

ANALOG VIDEO 8 × 2 SELECTOR BOARD

BKPF-301

DIGITAL AUDIO 8 × 2 SELECTOR BOARD

BKPF-350

ANALOG AUDIO 8 × 1 SELECTOR BOARD

BKPF-351

INSTALLATION MANUAL FOR SYSTEM SETUP

1st Edition

Figure 1. A schematic diagram of the experimental setup. The subject is seated in a chair, viewing a video screen. The screen displays a target (a small circle) and a starting point (a larger circle). The subject's hand is positioned at the starting point. The distance between the starting point and the target is labeled as d . The subject is instructed to move their hand from the starting point to the target.

100-112047-10

GL 100-100000 (1997) 100000
AG 100-100000 (1997) 100000

[illegible]

100-443886-107

IBM PCおよびATは米国IBM社の登録商標です。
Windowsは米国マイクロソフト社の登録商標です。
Windows NTは米国マイクロソフト社の商標です。
80486SXは米国インテル社の商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

目次

このマニュアルについて

本書の目的	5
構成	5
関連マニュアル	6

1. システム概要

1-1. デジタルルーティングスイッチャーシステムについて	1-1
1-2. システム制御	1-3
1-2-1. 制御端子の仕様と機能	1-3
1-2-2. S-BUS制御のしくみ	1-5
1-2-3. 9ピンリモート制御について	1-7
1-2-4. コントロールターミナルの接続	1-9
1-2-5. モニター系のS-BUS制御	1-9

2. 機能概説

2-1. ルーティングシステムが実現する主な機能	2-1
2-2. 内蔵コントローラ	2-2
2-3. マトリックスサイズ	2-2
2-4. レベル設定	2-2
2-5. 構成機器の台数	2-2
2-6. プロテクト機能	2-3
2-7. シークレット機能	2-3
2-8. クロスポイントを無効にする機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)	2-3
2-9. パスワード機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)	2-3
2-10. 端子名称の設定 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)	2-4
2-11. バーチャルマッピング機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)	2-6
2-12. フリーアサイメント機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)	2-7
2-13. モニター機能 (BKDS-V3292Bのみ)	2-8
2-14. タイライン管理 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)	2-10
2-15. ファントム機能	2-11
2-16. 自己診断機能	2-12
2-17. ルート機能	2-13
2-18. クロスポイント切り換え範囲の制限 (BKS-R1607/R3210のみ)	2-14

3. コントロールターミナル	
3-1. コントロールターミナルの選択	3-1
3-2. コントロールターミナルの表示画面	3-2
3-3. システムステータス画面	3-3
3-4. メニュー画面	3-4
3-4-1. 1次局のメニュー画面	3-4
3-4-2. 2次局のメニュー画面	3-5
3-4-3. モニター系1次局のメニュー画面	3-9
3-4-4. モニター系2次局のメニュー画面	3-9
3-5. 設定画面	3-11
4. システム設定の手引き	
4-1. 概要	4-1
4-2. 設置の予備知識	4-2
4-3. 事前準備	4-2
4-4. 設定の基本手順	4-3
4-5. フロー図	4-24
4-6. BKPF-300/301/350/351の設定	4-25
5. 設定項目	
5-1. 1次局の設定項目	5-1
A : DISPLAY CONTROL AREA	5-1
A : DISPLAY UNIT LOCATION	5-1
B : SET SOURCE/DEST TYPE	5-2
C : SET DESTINATION NAME	5-2
D : SET SOURCE NAME	5-4
E : SET LEVEL TABLE	5-6
F : SET ACTIVE UNIT NUMBER	5-7
G : UPDATE BACKUP CONTROLLER	5-7
H : SET GLOBAL PHANTOM	5-8
J : NAME STYLE	5-10
K : RESET TO DEFAULT TABLE	5-11
K : DEFAULT TABLE	5-11
L : SET PHYSICAL ASSIGNMENT	5-11
M : SET INHIBIT TABLE	5-13
N : SET DESCRIPTION NAME GROUP	5-14
O : SET TIE LINES	5-16
P : CHANGE PASSWORD	5-18
Q : CHANGE CROSSPOINT	5-18
R : CALL SECONDARY STATION	5-20
S : SELECT INDICATION COLOR (HDS-V3232, BKPF-R70 を除く)	5-20

T : SET CLOCK	5-21
U : SELECT CONTROL MODE	5-21
V : SELECT WARNING DISPLAY	5-22
W : SYSTEM STATUS LOG	5-23
X : DISPLAY S-BUS COMMUNICATION	5-23
Y : DISPLAY TABLE (HDS-V3232 を除く)	5-24
Z : SET UNIT DETECTABLE	5-24
5-2. 2次局の設定項目	5-25
A : SET UNIT LOCATION	5-25
G : UPDATE BACKUP CONTROLLER	5-26
H : SET PHANTOM TABLE	5-27
K : RESET TO DEFAULT TABLE	5-29
K : DEFAULT TABLE	5-29
L : COPY TABLE DATA	5-29
M : SET MONITOR FUNCTION (HDS-V3232 を除く)	5-30
N : SET PANEL TABLE (BKS-R1601/R3202/R3203)	5-30
N : SET PANEL TABLE (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210)	5-31
N : SET PANEL TABLE (BKS-R3206)	5-32
O : SET AVAILABLE DESTINATION (BKS-R3202/R3206)	5-33
O : SET AVAILABLE DESTINATION (BKS-R1607/R3210)	5-33
R : SET ROUTE (BKS-R1607/R1608/R3209/R3210)	5-36
S : DISPLAY DESCRIPTION NAME	5-37
U : SELECT REMOTE PROTOCOL	5-38
V : DISPLAY UNIT STATUS (HDS-V3232 を除く)	5-39
Y : DISPLAY TABLE DATA (HDS-V3232 を除く)	5-39
Z : SELECT SDI FORMAT (HDS-V3232 を除く)	5-40
Z : SET PANEL STATUS (BKS-R3204/R3205/R3206)	5-41
Z : SET PANEL STATUS (BKS-R1607/R1608/R3209/R3210)	5-42
Z : SELECT CONNECTION (DVS-RS1616 のみ)	5-44
Z : SWITCHING FIELD (HDS-V3232 のみ)	5-45
5-3. モニター系1次局の設定項目 (BKDS-V3292B のみ)	5-46
F : SET ACTIVE UNIT NUMBER	5-46
M : SELECT MONITOR FUNCTION	5-47
R : CALL SECONDARY STATION	5-47
5-4. モニター系2次局の設定項目 (BKDS-V3292B のみ)	5-48
M : SET AVAILABLE MONITOR LINE	5-48
L : COPY TABLE DATA <MONITOR MENU>	5-48
N : SET PANEL TABLE (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210) <MONITOR MENU>	5-49
S : DISPLAY DESCRIPTION NAME <MONITOR MENU>	5-50
Z : SET PANEL STATUS (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210) <MONITOR MENU>	5-51
5-5. テーブルデータのバックアップについて	5-53
5-6. データ消失時の対応	5-53

1. 1

2. 2

3. 3

4. 4

5. 5

6. 6

7. 7

8. 8

9. 9

10. 10

11. 11

12. 12

13. 13

14. 14

15. 15

16. 16

17. 17

18. 18

第1章

システム概要

1-1. デジタルルーティングスイッチャーシステムについて

本システムは、以下の3種類の機器から構成されます。

- ルーティングスイッチャー
(DVS-V1616/V3232B/V6464B/A3232/TC3232/RS1616, BVS-V3232/A3232, HDS-V3232)
上位の制御装置 (ホストコンピュータなど) やリモートコントロールユニットからの指示にしたがって信号を切り換えます。シリアルデジタルビデオ, デジタルオーディオ, タイムコード, RS-422A など, 扱う信号ごとに各種スイッチャーが用意されています。
- リモートコントロールユニット
(BKS-R1601/R3202/R3203/R3204/R3205/R3206/R1607/R1608/R3209/R3210/R3280/R3281)
信号の切り換え操作および選択した信号の名称表示を行います。単に「パネル」と呼ばれる場合もあります。
- コントロールターミナル
システムの構築・運用に必要な各種の設定を行います。また, 運用中のシステムを監視し, ステータスやエラーメッセージを表示します。

本システムでは, S-BUS (ソニー・シリアルバス) と呼ばれる独自のリモート制御方式を採用しています。この方式では, 1本の75Ω同軸ケーブルで全ての制御信号を伝送します。この伝送路を「S-BUSデータリンク」と呼びます。S-BUSデータリンクに接続された各機器は, ソニーがデジタル信号切り換えシステム用に開発したS-BUSプロトコルにより, 時分割の相互通信で制御データの伝送を行います。

本システムは, RS-422A インターフェースによる9ピンリモート制御にも対応します。ただし, S-BUS制御で運用する時に最高の機能を発揮します。DVS-V3232B/V6464BやHDS-V3232では, S-BUS制御と9ピンリモート制御を同時使用することも可能です。

DVS-V1616/V3232B, HDS-V3232, およびBVS-V3232/A3232以外のルーティングスイッチャーは, カスケード接続によって入出力マトリックスを拡張することができます。DVS-V6464Bの場合は, 入出力数をそれぞれ最大512系統まで増やすことが可能です。

本システムを作動させるには, コントロールターミナルを使用して, あらかじめ各種の設定 (テーブルデータの作成) を行う必要があります。

ソフトウェアバージョンについて

本マニュアルでは、次に示すバージョン以上のソフトウェアを搭載している機器について解説しています。それ以前のバージョンの機器をご使用になる場合は、コントロールターミナルの画面表示が一部異なったり、対応できない機能があります。販売担当にご相談の上、ソフトウェアのバージョンアップを行ってください。

注意

S-BUSデータリンク上の機器は、同一機種間でソフトウェアのバージョンを統一してください。異なるバージョンの機器を同一システム内で混在させると、動作不能や不具合の原因になる場合があります。

このマニュアルでサポートしているソフトウェアのバージョンは次のとおりです。

・ デジタルビデオルーティングスイッチャー DVS-V1616	: V3.00
・ デジタルビデオルーティングスイッチャー DVS-V3232B	: V2.10
・ デジタルビデオルーティングスイッチャー DVS-V6464B	: V2.10
・ デジタルオーディオルーティングスイッチャー DVS-A3232	: V3.00
・ RS-422A リモートルーティングスイッチャー DVS-RS1616	: V3.01
・ タイムコードルーティングスイッチャー DVS-TC3232	: V3.01
・ アナログビデオルーティングスイッチャー BVS-V3232	: V3.01
・ アナログオーディオルーティングスイッチャー BVS-A3232	: V3.01
・ HD デジタルビデオルーティングスイッチャー HDS-V3232	: V2.10
・ 16 ソースコントロールユニット BKS-R1601	: V3.10
・ X-Y コントロールユニット BKS-R3202	: V3.10
・ X-Y コントロールユニット BKD-R3210	: V1.10
・ 32 ソースコントロールユニット BKS-R3203	: V3.10
・ ユニバーサルコントロールユニット BKS-R3204	: V3.11
・ ユニバーサルコントロールユニット BKS-R1608	: V1.10
・ ユニバーサルコントロールユニット BKS-R3209	: V1.10
・ ソースアンドデスティネーションコントロールユニット BKS-R3205	: V3.11
・ 8 デスティネーションコントロールユニット BKS-R3206	: V3.11
・ マルチディスプレイコントロールユニット BKS-R1607	: V1.10
・ ルーティングスイッチャーコントローラ BKPF-R70	: V1.01
・ デジタルビデオ 8×2 セレクタボード BKPF-300	: V1.01
・ アナログビデオ 8×2 セレクタボード BKPF-301	: V1.01
・ デジタルオーディオ 8×2 セレクタボード BKPF-350	: V1.01
・ アナログオーディオ 8×1 セレクタボード BKPF-351	: V1.01

注意

主要構成機器のひとつであるシングルステータスディスプレイユニット BKS-R3280/R3281 の設置については、機器に付属のオペレーションアンドメンテナンスマニュアルを参照してください。

1-2. システム制御

1-2-1. 制御端子の仕様と機能

デジタルビデオルーティングスイッチャー DVS-V3232B/V6464B および HDS-V3232 は、REMOTE 1 (標準 S-BUS)、REMOTE 2 (9 ピン)、REMOTE 3 (25 ピン) および REMOTE 4 (モニター系 S-BUS) の 4 系統のリモート端子を装備しています。DVS-V3232B/V6464B、HDS-V3232 以外のスイッチャーは、REMOTE 4 を除く 3 系統のリモート端子を装備しています。

各制御端子の仕様と機能は次のとおりです。

REMOTE1 BNC 75 Ω, 47 kΩ terminated

Protocol S-BUS 制御

Data Transfer Method BI-PHASE SPACE
Data Transfer Speed 312.5 kbps/1250 bps *1
Max Cable Length 500 m/125 m *1 (5C-2V)
FCS Data HDLC CRC-CCIT $\times^{16} + \times^{12} + \times^5 + 1$ Initial all high

機能 1 次局・2 次局間の通信を行います。機器の制御はこの S-BUS データリングで実行されます。このデータリンク上にはリモートコントロールユニット、ルーティングスイッチャー、表示装置などの制御関係機器が接続されます。REMOTE 1 は、S-BUS 制御可能な機器に必ず付属しているリモート端子です。このリモート端子のみの機器では、単にリモートと呼ぶこともあります。なお、REMOTE 1 を用いる S-BUS は、後述のモニター系 S-BUS (REMOTE 4) と区別するため、「標準 S-BUS」または単に「S-BUS」と呼びます。

REMOTE2 D-sub 9-pin

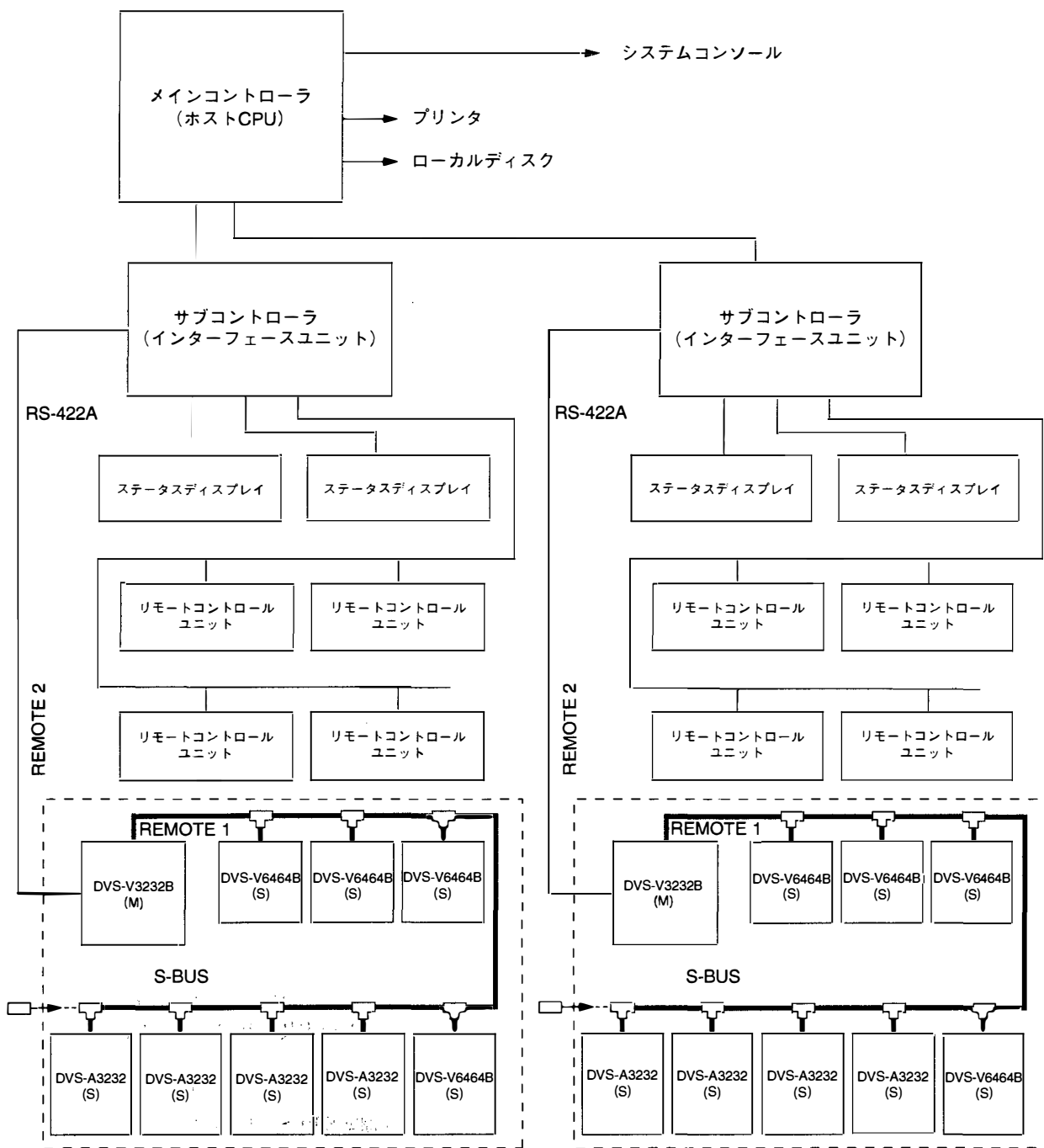
Protocol RS-422A Flow 制御 38.4 kbps 100 Ω/10 kΩ
3 種類のプロトコルに対応

機種名 プロトコル	DVS-V6464B DVS-V3232B HDS-V3232	DVS-A3232	DVS-RS1616 DVS-TC3232 BVS-V3232 BVS-A3232	DVS-V1616 BKPF-R70
CART PROTOCOL	Yes	Yes	No	Yes
AUDIO MIXER PROTOCOL*2	Yes	Yes	Yes	No
PRODUCTION SWITCHER PROTOCOL	Yes	No	No	No

機能 おもに 1 対 1 で制御機器間の通信を行います。スイッチャーや DME などがこのリモートに接続されます。ルーティングシステムでは、使用される機能が上位の制御装置によって制限されます。

*1 : BKPF-R70 の場合。ケーブル両端に終端抵抗が必要です。なお、ケーブル断線チェックはできません。
*2 : 旧称は "SWITCHER PROTOCOL"。

9 ピンリモート制御の接続例は次のとおりです。



— : S-BUS □ : 75 Ω 終端器 [] : SONYルーティングシステムの標準構成機器
 — : RS-422A ⊥ : T型ブリッジ (M) (S) : ルーティングスイッチャーの内部基板上にある M/Sスイッチの設定を示す

T : SET CLOCK	5-21
U : SELECT CONTROL MODE	5-21
V : SELECT WARNING DISPLAY	5-22
W : SYSTEM STATUS LOG	5-23
X : DISPLAY S-BUS COMMUNICATION	5-23
Y : DISPLAY TABLE (HDS-V3232 を除く)	5-24
Z : SET UNIT DETECTABLE	5-24
5-2. 2次局の設定項目	5-25
A : SET UNIT LOCATION	5-25
G : UPDATE BACKUP CONTROLLER	5-26
H : SET PHANTOM TABLE	5-27
K : RESET TO DEFAULT TABLE	5-29
K : DEFAULT TABLE	5-29
L : COPY TABLE DATA	5-29
M : SET MONITOR FUNCTION (HDS-V3232 を除く)	5-30
N : SET PANEL TABLE (BKS-R1601/R3202/R3203)	5-30
N : SET PANEL TABLE (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210)	5-31
N : SET PANEL TABLE (BKS-R3206)	5-32
O : SET AVAILABLE DESTINATION (BKS-R3202/R3206)	5-33
O : SET AVAILABLE DESTINATION (BKS-R1607/R3210)	5-33
R : SET ROUTE (BKS-R1607/R1608/R3209/R3210)	5-36
S : DISPLAY DESCRIPTION NAME	5-37
U : SELECT REMOTE PROTOCOL	5-38
V : DISPLAY UNIT STATUS (HDS-V3232 を除く)	5-39
Y : DISPLAY TABLE DATA (HDS-V3232 を除く)	5-39
Z : SELECT SDI FORMAT (HDS-V3232 を除く)	5-40
Z : SET PANEL STATUS (BKS-R3204/R3205/R3206)	5-41
Z : SET PANEL STATUS (BKS-R1607/R1608/R3209/R3210)	5-42
Z : SELECT CONNECTION (DVS-RS1616 のみ)	5-44
Z : SWITCHING FIELD (HDS-V3232 のみ)	5-45
5-3. モニター系 1 次局の設定項目 (BKDS-V3292B のみ)	5-46
F : SET ACTIVE UNIT NUMBER	5-46
M : SELECT MONITOR FUNCTION	5-47
R : CALL SECONDARY STATION	5-47
5-4. モニター系 2 次局の設定項目 (BKDS-V3292B のみ)	5-48
M : SET AVAILABLE MONITOR LINE	5-48
L : COPY TABLE DATA <MONITOR MENU>	5-48
N : SET PANEL TABLE (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210) <MONITOR MENU>	5-49
S : DISPLAY DESCRIPTION NAME <MONITOR MENU>	5-50
Z : SET PANEL STATUS (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210) <MONITOR MENU>	5-51
5-5. テーブルデータのバックアップについて	5-53
5-6. データ消失時の対応	5-53

関連マニュアル

システムの主要構成機器には、この「インストールマニュアル」(ソフトウェア用)のほかに、次のようなマニュアルが用意されています。

(富士通製)

1. DVS-V3232B/V6464B

・オペレーションマニュアル (DVS-V3232B/V6464B に付属)

DVS-V3232B/V6464Bの取り扱いに関する注意事項や仕様、各部の説明などを記載した、オペレータ向けのマニュアルです。

2. インストールマニュアル (ハードウェア用)

(DVS-V3232B/V6464B に付属)

(DVS-V3232B/V6464B に付属)

DVS-V3232B/V6464Bの納入設置時に必要な、ハードウェアの設置情報を記載したマニュアルです。

(富士通製) 3. メンテナンスマニュアル

4. メンテナンスマニュアル パート 1 (DVS-V3232B/V6464B に付属)

DVS-V3232B/V6464Bの保守に関する情報、および初期サービスに関する情報 (主要なエラーメッセージ、トラブルシューティングや基板の交換方法など) を記載したマニュアルです。

・メンテナンスマニュアル パート 2 (別途用意)

DVS-V3232B/V6464Bの部品レベルまでのサービスを前提とした情報 (調整要項、マウント図、回路図、詳細なパーツリストなど) を記載したマニュアルです。

(富士通製) 入手を希望される方は、お買い上げいただいた機器の販売担当にお問い合わせください。

・プロトコルマニュアル (別途用意)

デジタルルーティングスイッチャーシステムの制御に必要な、各種プロトコルについて説明したマニュアルです。

DVS-V3232B/V6464Bが対応するプロトコルのために、以下のマニュアルが用意されています。入手を希望される方は、お買い上げいただいた機器の販売担当にお問い合わせください。

S-BUS PROTOCOL AND COMMAND SPECIFICATIONS

(S-BUS リモート用ターミナル制御プロトコル)

ROUTING SWITCHER SYSTEM PROTOCOL AND SPECIFICATIONS

(ソニーカートプロトコル)

(富士通製) DVS/DVS Series PROTOCOL AND COMMAND SPECIFICATIONS

(富士通製) 5. プロダクションスイッチャープロトコル

DVS-V3232B/V6464B Series TECHNICAL MANUAL

(ソニーオーディオミキサープロトコル)

(富士通製) 6. シーハ

7. シーハ

・DVS-V3232B/V6464B シリーズテクニカルマニュアル (別途用意)

DVS-V3232B/V6464Bを中心に構築するデジタルルーティングスイッチャーシステムの、技術概要や各種アプリケーション情報などを記載したマニュアルです。

入手を希望される方は、お買い上げいただいた機器の販売担当にお問い合わせください。

(2) DVS-V1616/A3232/RS1616/TC3232, BVS-V3232/A3232, BKS-R1607/
R1608/R3209/R3210

- ・オペレーションマニュアル (各機器に付属)
各機器の取り扱いに関する注意事項や仕様、各部の説明などを記載したマニュアルです。

・メンテナンスマニュアル (各機器に付属)

各機器の設置や保守に関する情報、および部品レベルまでのサービスを前提とした情報 (主要部品の交換方法、ブロック図、調整要項、マウント図、回路図、詳細なパーツリストなど) を記載したマニュアルです。

(3) BKS-R1601/R3202/R3203/R3204/R3205/R3206

・オペレーションアンドメンテナンスマニュアル (各機器に付属)

各機器を運用・操作するのに必要な情報、各機器の設置や保守に関する情報、および部品レベルまでのサービスを前提とした情報 (主要部品の交換方法、ブロック図、調整要項、マウント図、回路図、詳細なパーツリストなど) を記載したマニュアルです。

(4) BKPF-R70, BKPF-300/301/350/351

・オペレーションマニュアル (各機器に付属)

各機器の取り扱いに関する注意事項や仕様、各部の説明などを記載したマニュアルです。

・インストレーションマニュアル (各機器に付属)

各機器の納入設置時に必要な、ハードウェアの設置情報を記載したマニュアルです。

・メンテナンスマニュアル (別途用意)

各機器の保守に関する情報、および部品レベルまでのサービスを前提とした情報 (ブロック図、調整要項、マウント図、回路図、詳細なパーツリストなど) を記載したマニュアルです。

(5) HDS-V3232

・メンテナンスマニュアル パート1 (HDS-V3232 に付属)

HDS-V3232の設置や保守に関する情報、および初期サービスに関する情報 (主要ブロックや基板の交換方法など) を記載したマニュアルです。

・メンテナンスマニュアル パート2 (別途用意)

HDS-V3232の部品レベルまでのサービスを前提とした情報 (マウント図、回路図、詳細なパーツリスト) を記載したマニュアルです。

入手を希望される方は、お買い上げいただいた機器の販売担当にお問い合わせください。

第 1 章

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

はじめに

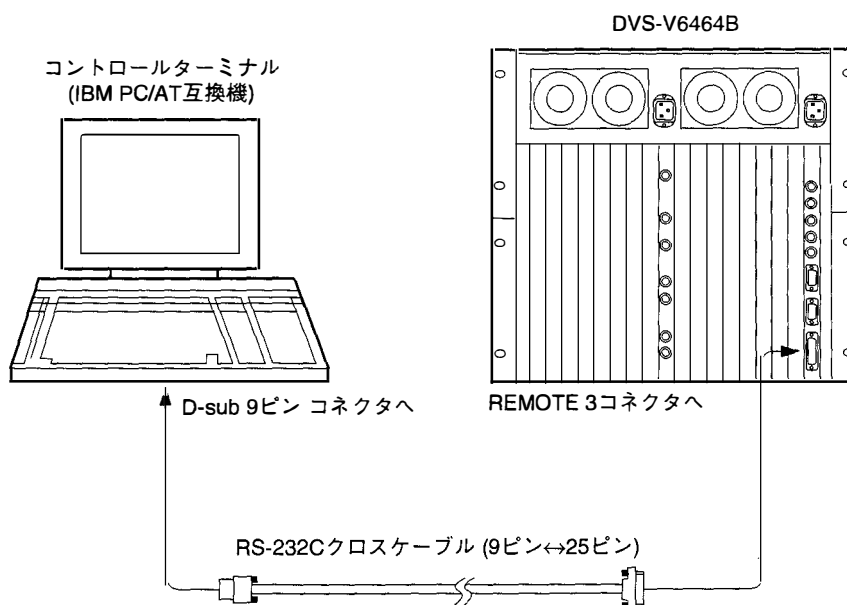
はじめに

はじめに

1-2-4. コントロールターミナルの接続

1次局のREMOTE 3 (D-sub 25ピン) コネクタに、コントロールターミナルを接続します。コントロールターミナルは、ルーティングシステムの各種設定に使用されるほか、運用中にシステム内のエラーやトラブル等の情報をモニターします。

コントロールターミナルには、ターミナルソフトウェアをインストールしたパーソナルコンピュータを使用してください。



注意

HDS-V3232 および BKPF-R70 の REMOTE3 は、D-sub 9 ピンコネクタです。

HDS-V3232 および BKPF-R70 を 1次局とするシステムでは、D-sub 9 ピンリモートケーブル (クロスケーブル) を使用してコントロールターミナルを接続してください。

なお、BKPF-300 シリーズを 1次局とするシステムには、コントロールターミナルを接続できません。

1-2-5. モニター系の S-BUS 制御

DVS-V3232B/V6464B は、別売りのモニター基板 BKDS-V3292B を装着することにより、任意の入出力信号をモニターすることができます。この基板には、本体とは別にモニター専用の CPU が実装され、REMOTE4 コネクタを介してモニター系 S-BUS データリンクを形成します。

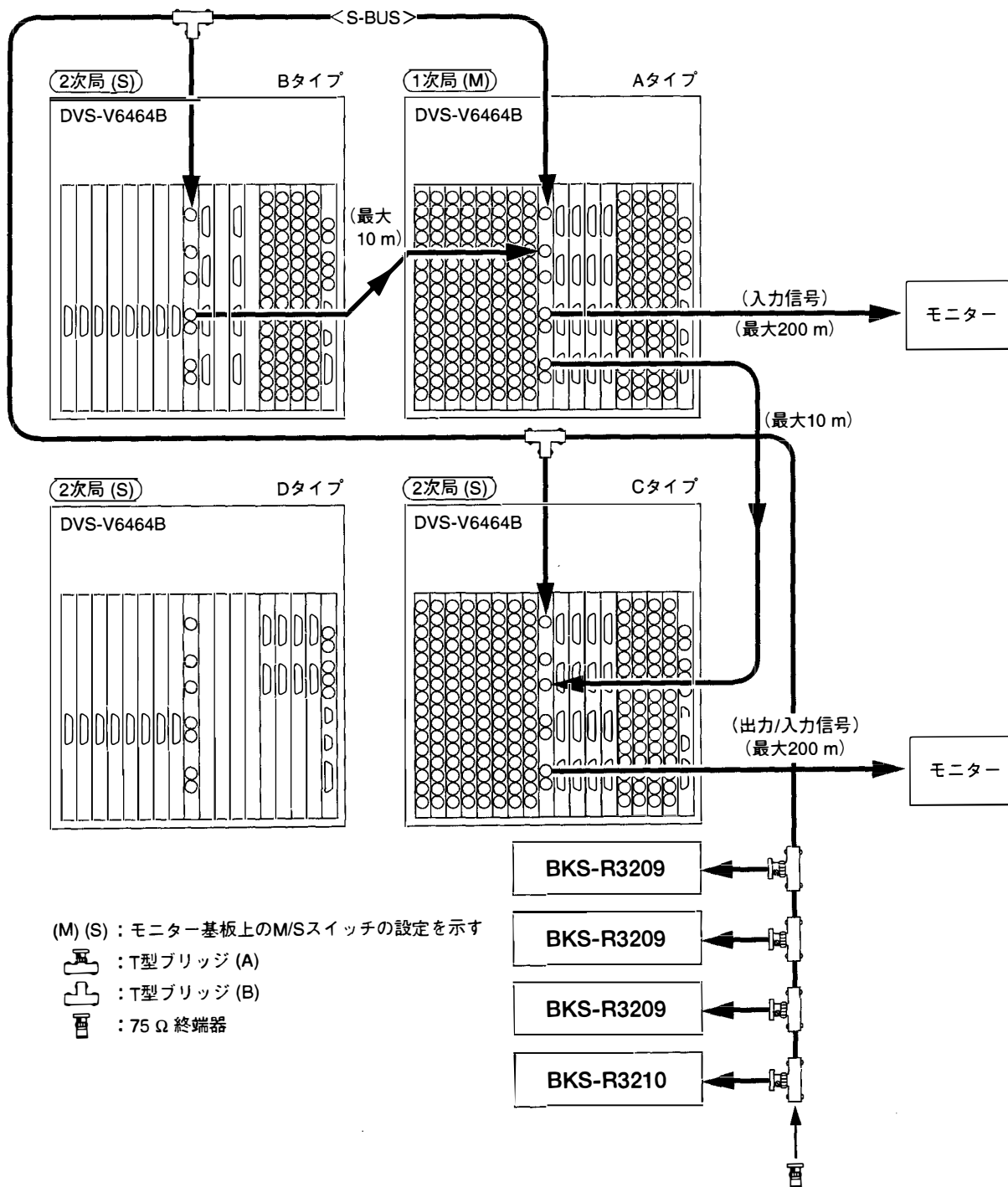
このマニュアルでは、モニター専用ラインを本体の制御系と区別するため「モニター系」と称し、制御方式を「モニター系 S-BUS 制御」と呼びます。一方、本体で用いられる S-BUS を「標準 S-BUS」または単に「S-BUS」と呼びます。

これら 2 つの S-BUS ラインは、管理系統が異なる以外、使用するプロトコルや通信様式など全て同様です。

モニター系は、入力系と出力系を分離して使用したり、入出力を直列的にカスケード接続することができます。またモニター系のクロスポイント制御は本体の制御系と完全に独立的に行うため、本体の局設定とは別にモニター系専用の 1 次局を指定する必要があります。

なおモニター系の初期設定は、標準 S-BUS の 1 次局に接続したコントロールターミナルから行います。

以下にモニター系 S-BUS システムの接続例を記載します。



第2章 機能概説

2-1. ルーティングシステムが実現する主な機能

- 1) ルーティングスイッチャーはシステムコントローラを内蔵しています。そのため、別途ルーティングシステムを管理するためのコントローラを用意する必要はありません。
- 2) カスケード接続により、入出力ラインを拡張できます。最大512系統の入力と512系統の出力の組合せから、任意のクロスポイントを選択できます。
- 3) 最大8レベルまで設定できます。
- 4) 1つのシステムで最大254台の機器を管理できます。
- 5) いったん設定した出力系統を、他のリモートコントロールユニットから切り換えられないようにすることができます。(プロテクト機能)
- 6) いったん設定した入力系統を、全てのリモートコントロールユニットから切り換えられないようにすることができます。(シークレット機能)
- * 7) 出力系統ごとに、選択できる入力系統を制限できます。(クロスポイントを無効にする機能)
- * 8) パスワード機能があります。
- * 9) 入出力端子名称として、「タイプ+番号」名称やディスクリプション名称を設定できます。
- * 10) 仮想マトリックス上に、クロスポイントマトリックスを配置できます。(バーチャルマッピング機能)
- * 11) 一つの端子名称に対し、レベルごとに異なる端子番号を割り当てることができます。(フリーアサイメント機能)
- * 12) 別売りのモニター基板 BKDS-V3292B を使って、入出力信号をモニターすることができます。(モニター機能)
- * 13) 2, 3台のルーティングスイッチャーを結ぶ信号線を自動的に選択する機能があります。(タイライン機能)
- 14) 複数のクロスポイントを同時に切り換える機能があります。(ファントム機能)
- 15) ステータスやエラー内容を、1次局に接続されたコントロールターミナルに表示します。(自己診断機能)
- 16) ルーティングスイッチャー DVS-V3232B/V6464B のデスティネーションに DVS-7000 を接続したとき、ルーティングスイッチャーのソース名称を DVS-7000 上に表示させることができます。(ルート機能)
- 17) リモートコントロールユニット BKS-R1607/R3210 は、切り換え可能なクロスポイントの範囲をユニットごとに制限することができます。

*: DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 および HDS-V3232 のみ対応。ただし、BKPF-R70 と HDS-V3232 には、12) モニター機能がありません。

なお、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 および HDS-V3232 は、1次局として優れた新機能を備えています。ルーティングシステムの機能と能力を最大限に発揮させるには、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 または HDS-V3232 を1次局に設定して、システムを構築してください。

4機種の中でも、特に BKPF-R70 は RISC CPU を搭載しているため、高速な切り換えが可能です。

各機能の概要は次のとおりです。(具体的な設定方法については「第5章 システムの設定」を参照してください。)

2-2. 内蔵コントローラ

ソニーのデジタルルーティングスイッチャーは、内部にシステムコントローラを搭載しています。したがって、別途外部の制御装置を用意する必要はありません。

複数台のルーティングスイッチャーをS-BUSラインに接続した場合、1次局に設定したスイッチャーのCPUが、システム全体の制御と管理を担当します。

2-3. マトリックスサイズ

複数台のルーティングスイッチャーをカスケード接続することにより、自在に入出力系統数を拡張し、大規模なルーティングシステムを構成することができます。

構成可能なマトリックスサイズは、スイッチャーによって異なります。

- ・ DVS-V6464B : 入力 512 系統 × 出力 512 系統
- ・ DVS-A3232 : 入力 256 系統 × 出力 256 系統
- ・ DVS-TC3232 : 入力 256 系統 × 出力 256 系統
- ・ DVS-RS1616 : 入力 128 系統 × 出力 128 系統 (16 モード時)
 入力 256 系統 × 出力 256 系統 (32 モード時)
- ・ BKPF-300/350 : 入力 112 系統 × 出力 2 系統
- ・ BKPF-301/351 : 入力 32 系統 × 出力 2 系統 (BKPF-301), 出力 1 系統 (BKPF-351)

注意

なお、DVS-V1616/V3232B、HDS-V3232 および BVS-V3232/A3232 はカスケード接続ができません。

2-4. レベル設定

ルーティングシステムでは、多種類の信号を同時に制御することができます。それを可能にするのが、レベル設定です。

ルーティングシステムで扱う信号には、ビデオ、オーディオ、タイムコード、RS-422A リモートコントロールがあり、それぞれ専用のスイッチャーで切り換えます。これらの切り換えを行う信号を各層に分けて配置します。その階層をレベルと呼びます。

ルーティングシステムでは、レベルごとに異なる入出力信号の番号を設定し、各レベルを同時に切り換えることができます。(例: ビデオはレベル 1, オーディオはレベル 2・・・のように設定します)

ルーティングシステムごとに、最大 8 種類のレベルを設定することができます。

レベルは、メニュー項目「E: SET LEVEL TABLE」で設定します。

2-5. 構成機器の台数

1本のS-BUSライン上には、合計128台までリモートコントロールユニットとスイッチャーを接続できます。全てのS-BUSラインを合わせると、254台(1次局を含む)の機器を管理することができます。

2-6. プロテクト機能

設定したクロスポイントを、他のリモートコントロールユニットから解除できないようにするための機能です。プロテクトを設定したデスティネーションのクロスポイントは、固定されます。さらにそのクロスポイントは、プロテクトを設定したリモートコントロールユニットかコントロールターミナル以外からの解除指令を受け付けません。ただし、1次局に接続したコントロールターミナルからは、自由にプロテクトの設定と解除を行うことができます。

なおコントロールターミナルには、特定の人以外操作できないようにするためのパスワード機能もあります。プロテクトは、メニュー項目「C:SET DESTINATION NAME」で設定します。

2-7. シークレット機能

設定したクロスポイントを保護するため、特定の入力系統を全てのリモートコントロールユニットから隠し、切り換えられなくするための機能です。プロテクト機能が出力系に制限をかけるのに対し、シークレット機能は入力系に制限をかけます。そして特定の入力を他のリモートコントロールユニットから選択できないようにします。

シークレットは、メニュー項目「D:SET SOURCE NAME」で設定します。

2-8. クロスポイントを無効にする機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)

出力系統ごとに、選択できる入力系統を制限するための機能です。特定の入力系統を、特定の出力系統だけにしか設定できないように、クロスポイントの選択範囲を固定します。

この機能は、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 および HDS-V3232 を 1 次局に設定した場合のみ実行できます。

無効なクロスポイントは、メニュー項目「M:SET INHIBIT TABLE」で設定します。

2-9. パスワード機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)

コントロールターミナルは、ルーティングスイッチャーシステムとその構成機器の全ての設定を管理しています。そのため、特定の人以外は操作できないように、パスワードを設定することができます。

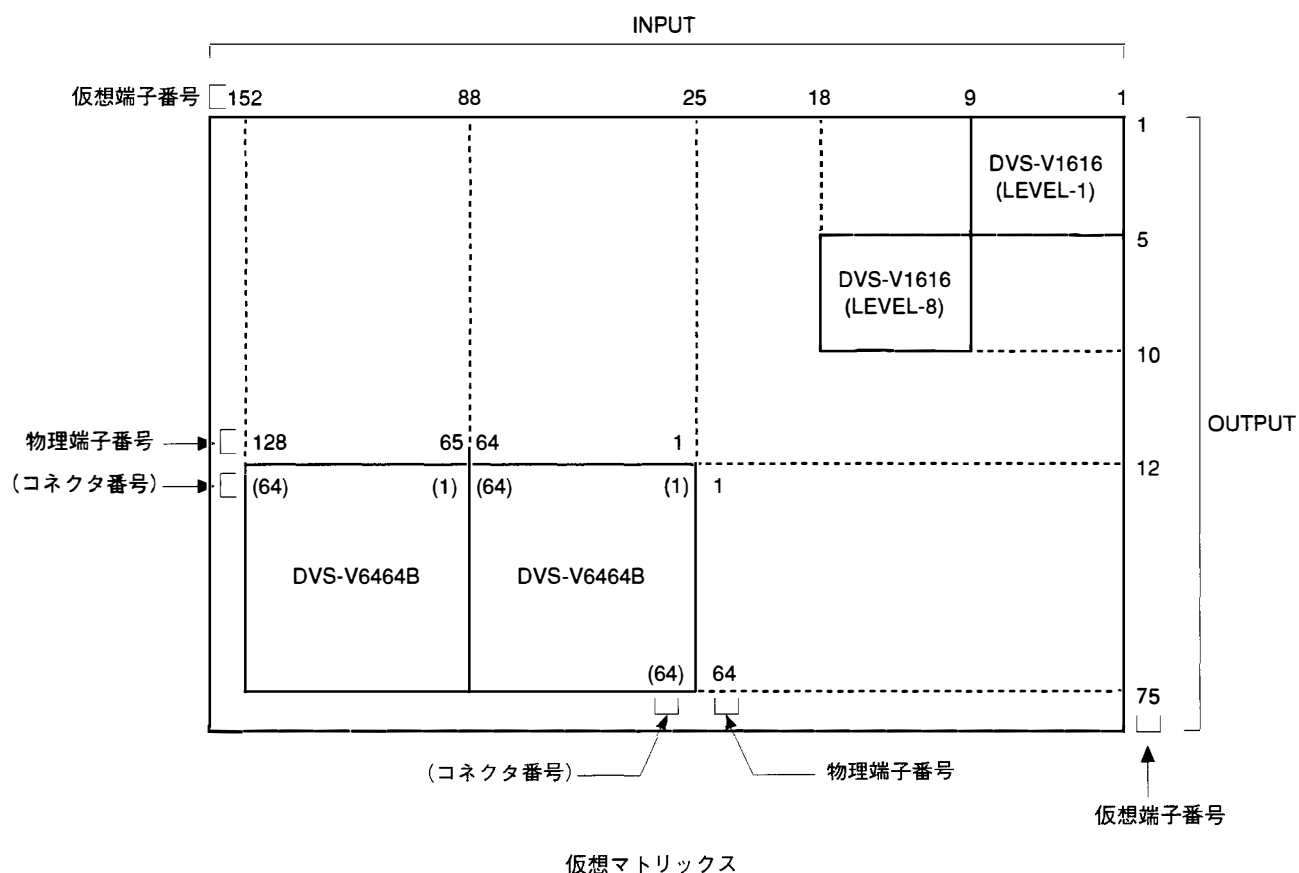
パスワードは、メニュー項目「P:CHANGE PASSWORD」で設定します。

2-10. 端子名称の設定 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)

ルーティングスイッチャーの入出力端子を表す名称としては、次の2種類があります。

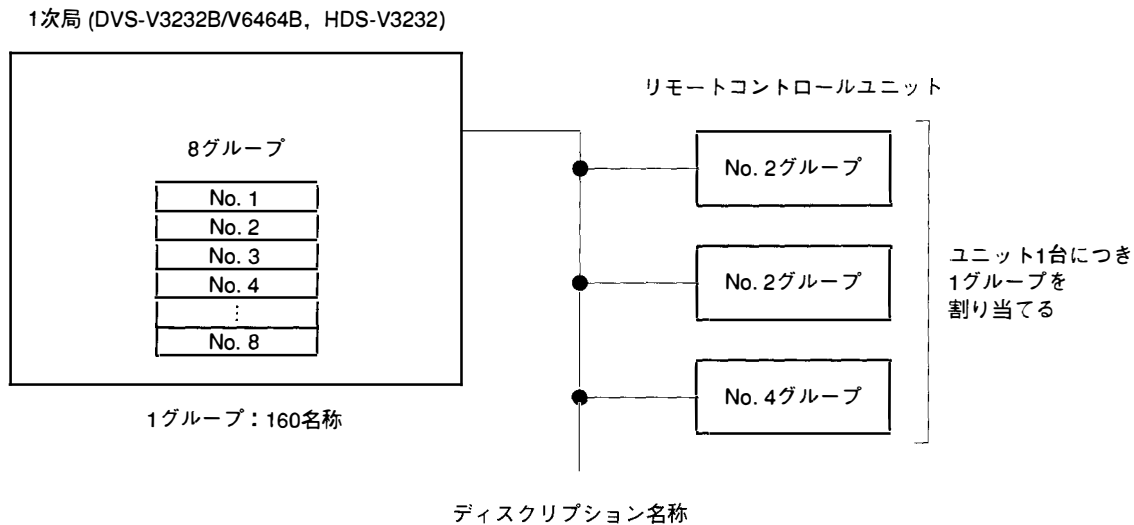
1. 「タイプ+番号」名称
2. ディスクリプション名称

また、名称を設定する端子番号として物理端子番号とコネクタ番号、仮想端子番号の3つがあります。物理端子番号とコネクタ番号は、スイッチャー本体に付いているコネクタの番号で、DVS-V6464Bでは1から64、DVS-V3232BやHDS-V3232では1から32となります。物理端子番号とコネクタ番号の違いは、コネクタ番号が個々のスイッチャーごとに固定された番号であるのに対し、物理端子番号はカスケード接続した場合にマトリックス全体を一台のスイッチャーと見なし、通し番号を付与する点にあります。通常、S-BUS リモート制御系では物理端子番号を、RS-422A 9ピンリモート制御系ではコネクタ番号を使います。仮想端子番号とは、入力512系統×出力512系統の仮想マトリックス上にスイッチャーをレイアウトした時に割り当てられる番号です。この場合、複数のスイッチャーを仮想マトリックス上にレイアウトした場合でも番号が重複することはありません。このマニュアルで「端子番号」という場合は、特にことわりがない限り、この仮想端子番号を意味します。



「タイプ+番号」名称とは、4桁のアルファベットと3桁の数字から構成される名称で、仮想端子番号に割り当てられます。アルファベットの部分は、タイプ名称として16種類まで設定できます。数字の部分は、1～999まで設定できます。(例:「CAM234」,「VTR145」)

ディスクリプション名称とは、仮想端子番号に割り当てられる任意の16桁の名称です。「Tokyo」,「Market」のように、任意の英文字と数字を用いて設定することができます。1024種類の名称が登録できますが、そのうち160種類の名称はリモートコントロールユニットへ送られ、ボタンの設定や表示に使用されます。160種類の名称を1グループとし、1次局には8グループのデータを登録しておくことができます。また、グループ単位でリモートコントロールユニットのデータを入れ換えたり、リモートコントロールユニットごとに異なるグループのデータを使う事が可能です。



ディスクリプション名称を設定するには、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 または HDS-V3232 を 1次局にした時に、メニュー項目「J:NAME STYLE」で“DESCRIP.NAME”を選択します。

その上で、メニュー項目「C:SET DESTINATION NAME」, または「D:SET SOURCE NAME」で設定します。

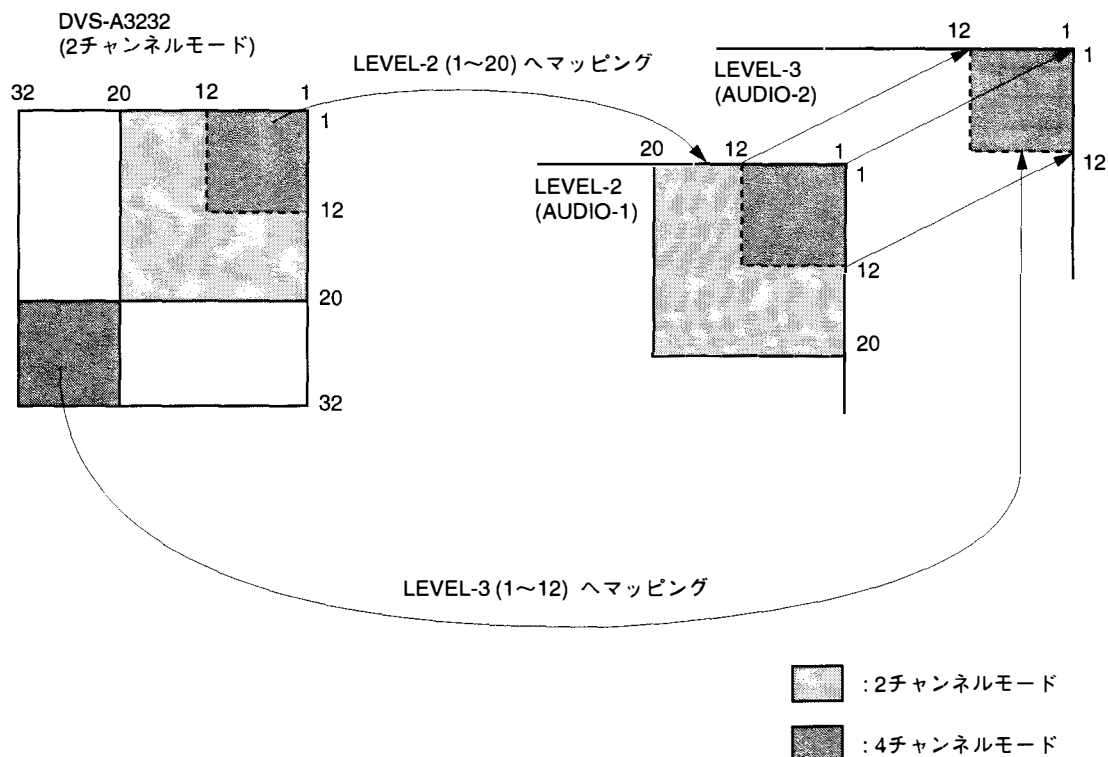
2-11. バーチャルマッピング機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)

ルーティングシステムでは、入力 512 系統 × 出力 512 系統の仮想マトリックス上に複数台のスイッチャーをレイアウトすることができます。

たとえば、4:2:2 のビデオ信号を扱うスイッチャーと 4 fsc のビデオ信号を扱うスイッチャーを同一レベル上に配置し、4:2:2/4 fsc 変換器を用いて接続すると、タイライン管理 (2-14 項 参照) ができます。

また、一台のスイッチャーのマトリックスを、複数の仮想レベルに分けて割り付けることも可能です。DVS-A3232 には 2 チャンネルモードと 4 チャンネルモードがあり、通常はどちらか一方を選択するようになっています。しかし 2 チャンネルモードのマトリックスを 2 つに分離し、それぞれ異なる仮想レベルに割り付けることにより、多重部分を 4 チャンネルモードとして使うことができます。

下図では、20 × 20 の領域中、LEVEL 2 と 3 が多重している 12 × 12 のみ 4 チャンネルモードに、それ以外は 2 チャンネルモードになっています。



このように仮想マトリックスと仮想レベルを利用して、自在にクロスポイントの割り付けを行うことをバーチャルマッピング機能と呼びます。

このバーチャルマッピング機能は、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 または HDS-V3232 を 1 次局にした時に、メニュー項目「L: SET PHYSICAL ASSIGNMENT」で設定します。

注意

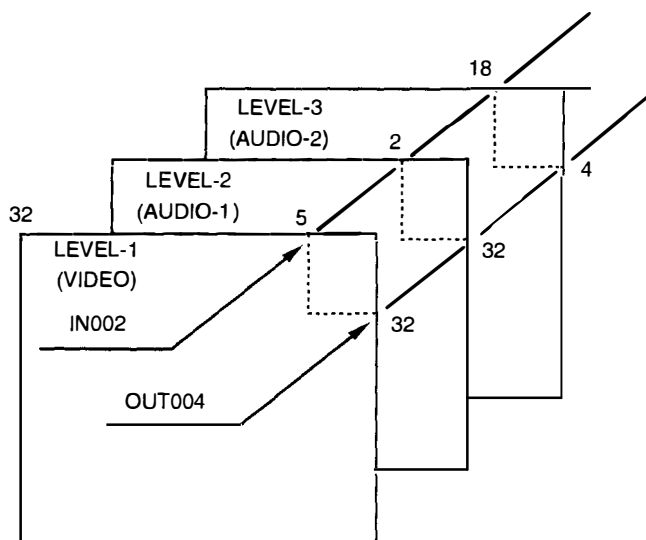
一台の DVS-V3232B/V6464B を複数の仮想レベルに割り当てた場合、入出力信号のモニター機能が正しく動作しないことがあります。

2-12. フリーアサイメント機能 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)

DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 および HDS-V3232 は、一つの端子名称に対し、従来のスイッチャーと同様にレベル1～8を通して同じ端子番号を割り当てることができます。またレベルごとに異なる物理端子番号を割り当てることも可能です。

下図は、レベル1に DVS-V6464B, レベル2と3に DVS-A3232 を用いています。このとき入力系の端子名称 IN002 に対し、レベル1は物理端子番号5, レベル2は物理端子番号2, レベル3は物理端子番号18を割り当てることができます。

出力系についても同様に端子名称 OUT004 に対し、レベル1は物理端子番号32, レベル2は物理端子番号32, レベル3は物理端子番号4を割り当てることができます。



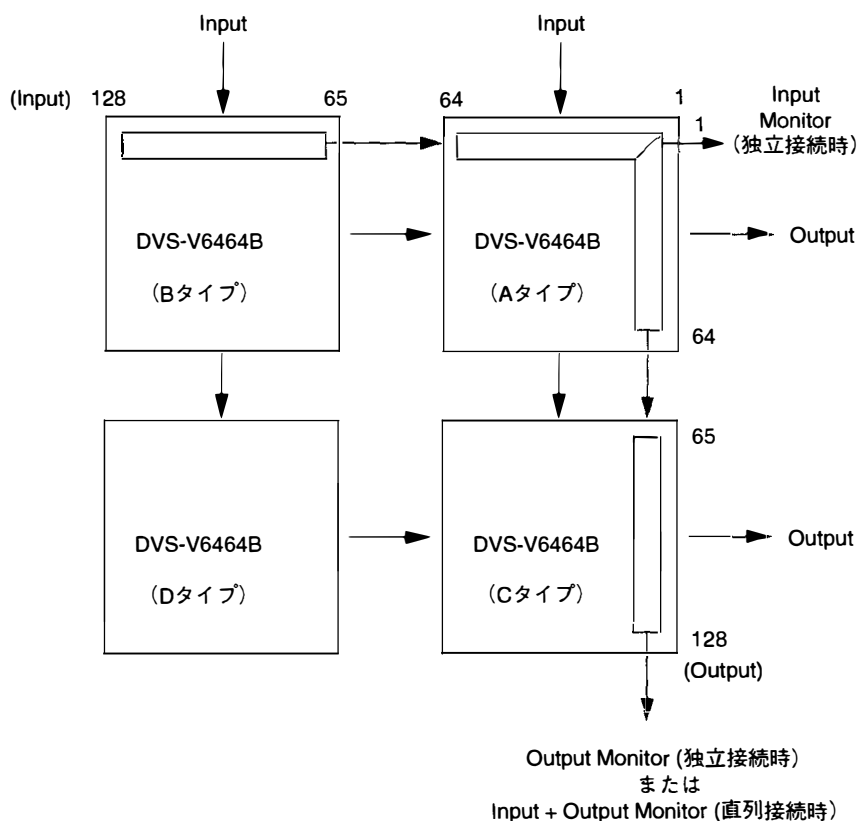
このフリーアサイメント機能は、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 または HDS-V3232 を1次局にした時に、メニュー項目「L:SET PHYSICAL ASSIGNMENT」で設定します。

2-13. モニター機能 (BKDS-V3292B のみ)

DVS-V3232B/V6464B では、別売りの BKDS-V3292B を装備することにより、任意の入出力信号をモニターすることができます。

このとき入力信号, 出力信号をそれぞれ別のモニターで見ることができ、チャンネル切り換えにより一台のモニターで見ることが可能です。

また、複数台のスイッチャーのモニター信号をカスケード接続し、一台のモニターで全ての入出力信号を見ることが可能です。



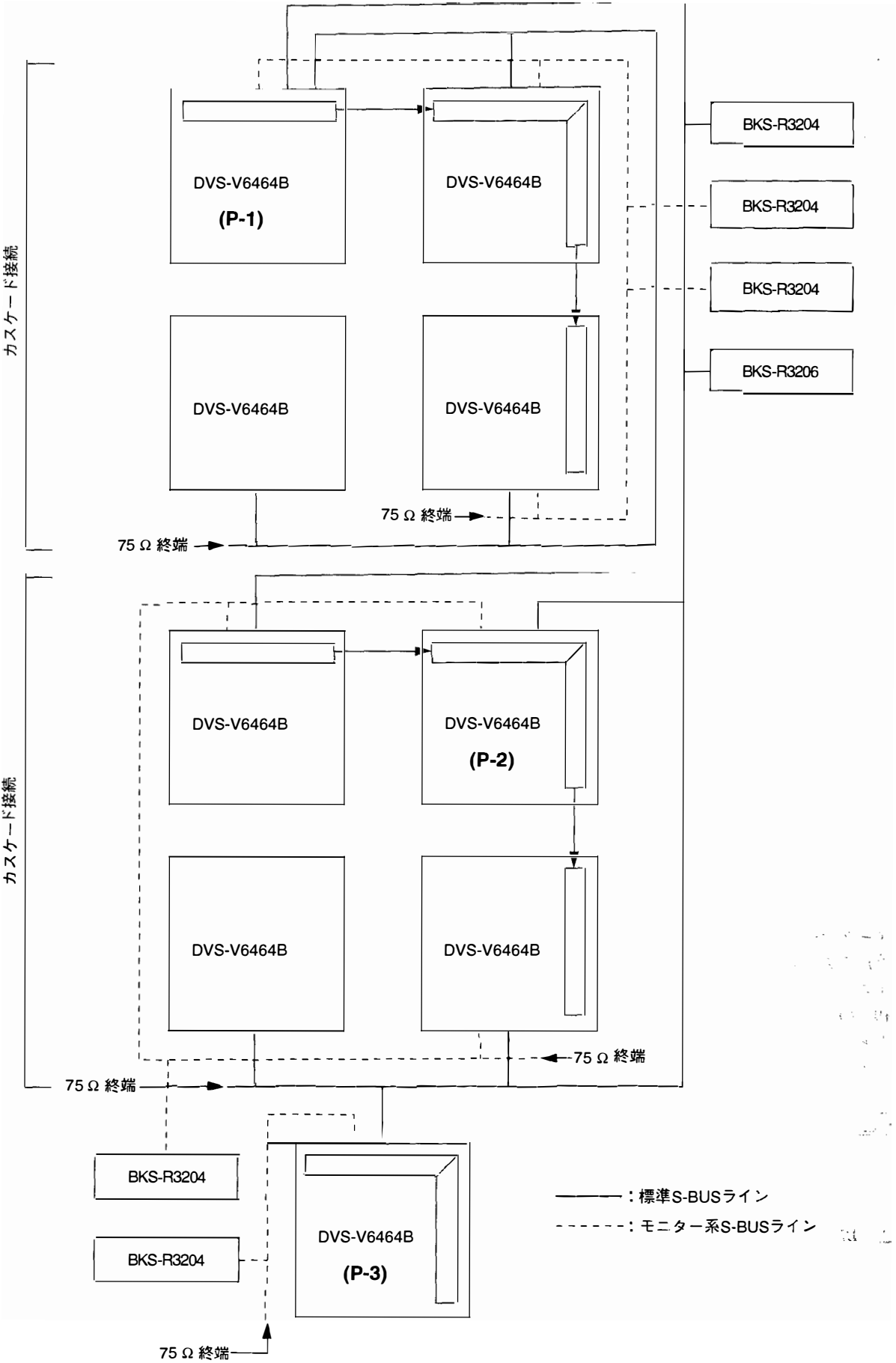
モニター信号は、モニター系 S-BUS (S-BUS と同形態のコントロールラインで、モニター系の管理のみを行う) によって制御されます。

モニター系 S-BUS の 1 次局は、標準 S-BUS の 1 次局から独立して存在します。従って、一つのシステム中に複数のモニター系 S-BUS (複数のモニター系 1 次局) を設定することも可能です。

たとえば、次ページの接続例では、スイッチャー (P-1) は標準 S-BUS とモニター系 S-BUS の 1 次局を兼ねており、(P-2) と (P-3) はそれぞれ独立したモニター系 S-BUS の 1 次局になっています。

注意

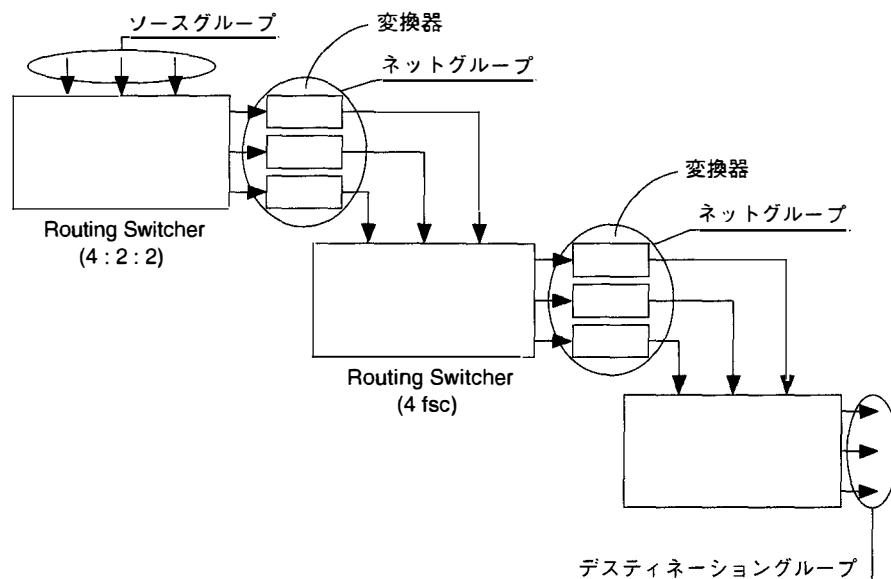
1. DVS-V3232B/V6464B を中心とするシステムでは、S-BUS の 1 次局とモニター系 S-BUS の 1 次局は必ず一致しなければなりません。ただし、S-BUS の 1 次局を含まないモニター系 S-BUS ラインでは、任意のスイッチャーを 1 次局にすることができます。
2. BKS-R1601/R3203/R3206 は、モニター系 S-BUS の 2 次局として使用することができません。



2-14. タイライン管理 (DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70, HDS-V3232)

DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 および HDS-V3232 は、特定の入出力を結ぶ信号路をあらかじめ4本設定しておくことにより、入出力端子が選択された時点で未使用の信号路を自動的に選択し、その信号路にプロテクトをかけることができます。この機能をタイラインと呼びます。タイラインは、限られた数の信号変換器 (4:2:2/4fsc, 4fsc/4:2:2等) を複数の入出力端子間で有効に利用する為に用いられます。

例えば、4:2:2のビデオスイッチャーと4fscのビデオスイッチャーがあり、それぞれの入出力数が32ある場合、タイライン機能を用いて変換器を共用し、限られた数の変換器で全ての入出力数を扱うことができます。



タイラインの設定手順

1. ソースとデスティネーション*1の各グループごとに4本の端子名称を設定します。
2. ネットグループについて、各グループごとにスイッチャー間を結ぶケーブル4本を「OUT***-IN***」のように設定します。
3. ソースグループからデスティネーションへの経路 (PATH) を設定します (これはグループ名で構成されます)。

*1: ソースは入力信号、デスティネーションは出力信号を意味します。

操作例

1. リモートコントロールユニットから IN023, OUT027 を選択します。
 2. 1次局のCPUは、IN023をソースグループから検索します。下図の例では、該当するグループはS002になります。
 3. OUT027についてもIN023と同様に検索します。下図の例ではD002になります。
 4. 1次局のCPUは、S002とD002グループを含む経路 (PATH) を検索します。下図の例では、該当する経路は「3:S002-N004-D002」になります。
 5. 使用するネットグループがN004と検出されますので、N004のグループ内に設定されている4つの「OUT-IN」の組み合わせから使用可能な (プロテクトのかかっていない) 組み合わせを選び、クロスポイントの切替を実行します。
- 下図の例で、もし「OUT033-IN230」が使用可能であれば、IN023 → OUT033 - IN230 → OUT027 のPATHが実行されます。

SOURCE GROUPS	NET GROUPS	DESTINATION GROUPS
S001: IN003	N001: OUT003-IN200	D001: OUT023
IN004	OUT004-IN201	OUT024
IN005	OUT005-IN202	OUT025
IN006	OUT006-IN203	OUT026
S002: IN010	N003: OUT023-IN007	D002: OUT027
IN015	OUT024-IN008	OUT028
IN023	OUT025-IN009	OUT029
IN027	OUT026-IN010	OUT030
:	:	:
(20 groups)	(40 groups)	(20 groups)
PATHS		
1: S001-N001-D001		
2: S002-N003-D001		
3: S002-N004-D002		
:		
(20 paths)		

2-15. ファントム機能

ルーティングスイッチャーでは、一回のボタン操作で複数のクロスポイントを同時に切り換えることができます。これをファントム機能と呼びます。

ファントム機能の設定は1次局に接続されたコントロールターミナルで行い、切り換えはリモートコントロールユニットから行います。

一度に切り換えるクロスポイントの集まりをファントムグループと呼びます。各リモートコントロールユニットには、57個のクロスポイントをファントムグループの要素として登録できます。DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 およびHDS-V3232には、通常のファントム機能以外に、1次局中に4095個のクロスポイントをファントムグループの要素として登録できます。このマニュアルではリモートコントロールユニットごとに登録するファントムを「ローカルファントム」、1次局に登録するファントムを「グローバルファントム」と呼びます。(グローバルファントムは、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70またはHDS-V3232が1次局のときのみ機能します。)

参考

BKS-R1607/R1608/R3209/R3210には、通常のローカルファントムのほかに、デスティネーションオフセット型ローカルファントム機能があり、様々な切り換えに対応します。

詳細については、機器に付属のオペレーションマニュアルを参照してください。

2-16. 自己診断機能

ルーティングスイッチャーは以下の項目について自己診断を行い、その結果を1次局に接続されたコントロールターミナルに表示します。

- 基板の有無とその種類
- コントロール基板上のROMのバージョン
- バックアップ電源／バックアップ基板の有無
- ファンの回転検出
- リファレンス信号の表示
- エラーの内容表示
 - ・ クロスポイントハードウェア不良
 - ・ 高温表示
 - ・ S-BUS 断線表示
 - ・ 2次局の未接続、またはダウン表示
 - ・ CPU および電源のバックアップ側ダウン／回復の表示

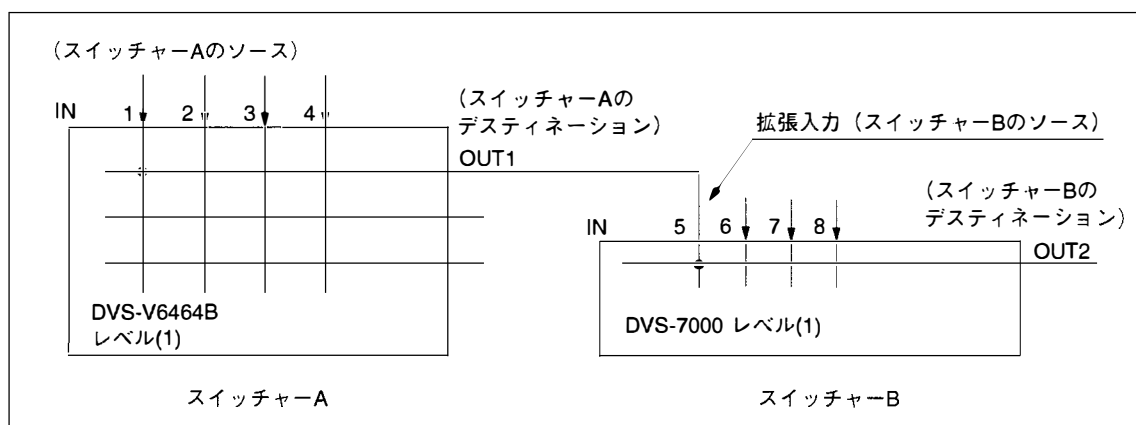
2-17. ルート機能

ルーティングシステムには、下図に示すように DVS-7000 を DVS-V6464B と接続し、DVS-7000 のソース入力を拡張する機能があります。それをルート機能と呼びます。

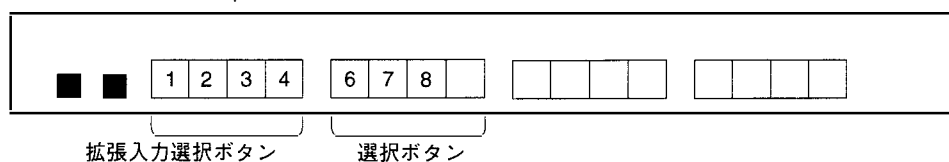
ルート機能は、DVS-7000/DME でリエントリ機能を4回繰り返した後でも、最後のプログラム終了後にソース入力を表示します。実際に選択したソース名を表示するには、コントロールターミナルからルート機能を設定しなければなりません。ルート機能に登録したクロスポイントを選択すると、スイッチャーAのソース入力を検索してそのソース名を表示します。例えば、下図に示すようにスイッチャーAのクロスポイントを切り替えた場合、通常は IN5 がソース名として表示されます。しかし、ルート機能を設定すると、スイッチャーA で選択したソース名が表示されます。ルート機能を使用する場合は、スイッチャーA のデスティネーション、スイッチャーB のデスティネーションとソース、そしてレベルの順に設定します。下図の場合は、“OUT1:OUT2<IN5” と設定してください。

ルート機能を使うと、信号の切り換えを簡単な設定で行うことができます。例えばスイッチャーAのソースに (IN1) を選び、デスティネーションに (OUT1) を選んだ場合、スイッチャーB (IN5-OUT2) のクロスポイントが自動的に切り替わります。

もしスイッチャーAのソースに (IN1) を選び、出力先に (OUT2) を選んだ場合は、IN1-OUT1 と IN5-OUT2 を含むファントム機能を前もって設定する必要があります。ファントムによりルートが設定されると、IN1-OUT2 を表示することができます。



OUT2 コントロールパネル



これらのボタンは下記ファントムが設定されています。

IN1 : OUT1 < IN1

IN2 : OUT1 < IN2

IN3 : OUT1 < IN3

IN4 : OUT1 < IN4

この場合、OUT1 があらかじめOUT1 : OUT2 < IN5と

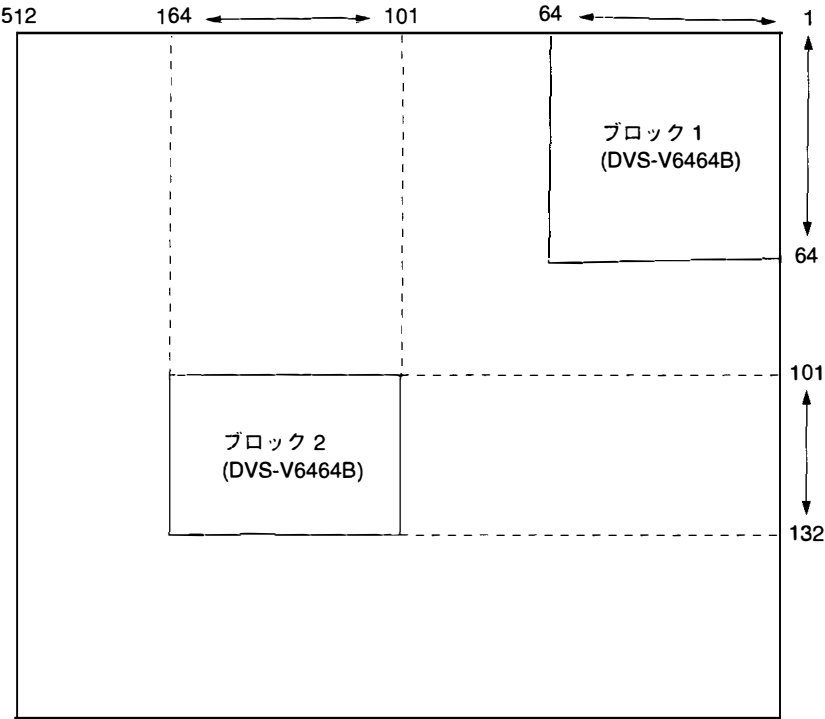
ルート設定されていれば、IN1, IN2, IN3, IN4のいずれかを選ぶと

OUT2 < IN5が連動して切り換えられます。

2-18. クロスポイント切り換え範囲の制限 (BKS-R1607/R3210 のみ)

出力数（デスティネーション）に特定の制限を加えると，入力数（ソース）を変化させることができます。
この機能は BKS-R1607 および BKS-R3210 のみ使用可能です。
最大 6 ブロックを出力数として設定可能です。

ブロック	入力として選択した範囲	出力として選択した範囲
1	1～64	1～64
2	101～164	101～132



第3章 コントロールターミナル

3-1. コントロールターミナルの選択

コントロールターミナルには、ターミナルソフトウェアをインストールしたパーソナルコンピュータ (IBM PC/AT 互換機など、CPU:486SX相当以上、クロック:25MHz以上を推奨) をご使用ください。本書では、Windows3.1のTerminal modeで設定する場合を例にとり、解説しています。
パーソナルコンピュータは、あらかじめ下表に従ってF1～F5のコードを設定してください。

	Key Name	Command
F1	F1	^[[17 ~
F2	F2	^[[18 ~
F3	F3	^[[19 ~
F4	F4	^[[20 ~
F5	F5	^[[21 ~
F6	-	-
F7	-	-
F8	-	-

F1～F5の選択は、カーソル操作とキー操作 (**[Alt]** - **[Ctrl]** - **[F*]**) のどちらでも可能です。

パーソナルコンピュータは、RS-232Cケーブルを用いて、1次局のルーティングスイッチャー (REMOTE 3) に接続します。

マニュアル中の表記について

このマニュアルでは、コントロールターミナルのキー操作について、次のように記載します。

- (1) 枠囲いはキーを示します。(**[Ctrl]**, **[Return]** など)
- (2) 文中の「数字キー」は、**[0]**～**[9]**の総称です。
- (3) 文中の「アルファベットキー」は **[A]**～**[Z]**の総称です。
- (4) 文中の「カーソルキー」は、**[↑]**, **[↓]**, **[←]**, **[→]**の総称です。
- (5) 2つのキーを同時に押す動作は、2つのキーを「-」でつないで表します。(**[Ctrl]** - **[X]** など)

設定に使用するキーの機能

文字キー : 押した文字をカーソルのある位置に挿入

[→] : カーソルを1文字右に移動

[←] : カーソルを1文字左に移動

[Ctrl] - **[L]** : カーソルを文字列の右端に移動

[Ctrl] - **[A]** : カーソルを文字列の左端に移動

[Ctrl] - **[X]** : 入力中の文字列全体を削除し、カーソルを左端に移動 (1次局メニュー画面では、システムステータス画面に移動)

[BS] : カーソルの直前の1文字を削除

[DEL] : カーソルの位置の1文字を削除

[Ctrl] - **[U]** : **[BS]** または **[DEL]** で削除した文字をカーソル位置に挿入 (16文字まで復元可能)

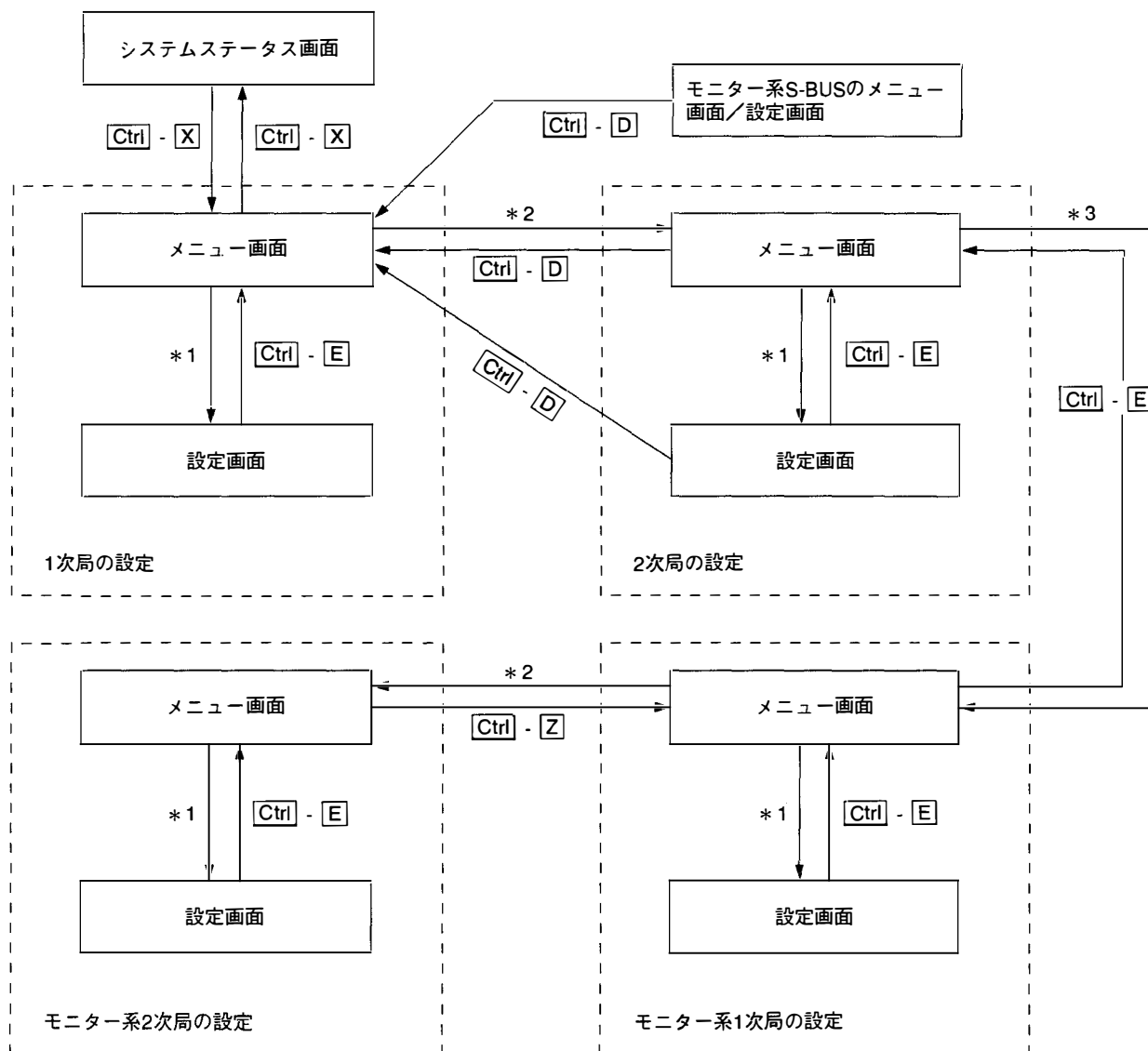
[Ctrl] - **[F]** : 文字列の入力を取り消し、入力前の状態に戻す

[Enter] : 入力したコマンドやデータを確定する (キーボードによっては **[Return]** と表示)

3-2. コントロールターミナルの表示画面

コントロールターミナルの表示画面には、下記の3種類があります。

- ・ システムステータス画面：ルーティングシステムの運用中に各種データを表示
- ・ メニュー画面：システムを設定するためのメニュー項目を表示
- ・ 設定画面：各メニュー項目の設定内容を表示



*1:メニュー項目の選択には、次の2つの方法があります。

1. カーソルキーで希望のメニュー項目を選択し、**Enter**を押します。
2. 各メニュー項目に割り当てられているアルファベットキーを押します。

*2:1次局から2次局のメニュー画面へ移行するには、1次局のメニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」を実行します。

*3:モニター系1次局のメニュー画面に移行するには、モニター系1次局に設定した2次局のメニュー項目「M:SET MONITOR FUNCTION」を実行します。

注意

モニタ機能は、BKDS-V3292Bのみ実現可能です。

3-3. システムステータス画面

1次局の電源を投入すると、自己診断の結果およびROMのチェックサム値などが表示されます。

自己診断の結果が正常であればその項目に“OK”を表示し、異常が発見された場合にはその項目が反転表示されます。

機種名		ソフトウェアのバージョン表示	
SONY Digital Routing System		DVS-V6464B	V2.10
ITEM			
ROM CHECK SUM		8A65	
RAM READ AND WRITE		OK	
REFERENCE SIGNAL		OK	
S-BUS LINK TERMINATE		OK	
REAL TIME CLOCK			
STARTED			
1993.02.03-22.15 STARTED BY DVS-V6464B Ver2.10 IN STATION 1			
1993.02.03-22.15 S-BUS LINK DISCONNECTED TO CHANNEL B			
1993.02.03-22.15 MISSING REFERENCE SIGNAL IN STATION 1			
1993.02.03-22.15 POWER SUPPLY UNIT B DOWN IN STATION 1			

電源投入時のシステムステータス画面

システムステータス画面では、S-BUSデータリンク上にメッセージが出力されたとき、そのメッセージに発生日時を付加して表示します。

```

1990.10.12-15.42 S-BUS LINK DISCONNECTED
1990.10.27-09:28 STARTED BY BKS-R1601 Ver3.10 IN STATION 11
1990.11.03-05:31 STARTED BY BKS-R3204 Ver3.11 IN STATION 32
1991.01.14-13:51 MISSING REFERENCE SIGNAL IN STATION 1
1991.02.01-11:15 POWER SUPPLY UNIT B DOWN IN STATION 4
1991.02.04-06:11 X-POINT ERROR IN STATION 1

```

システムステータス画面に表示されるメッセージ例

また、メニュー画面や設定画面の表示中にメッセージが発生すると、システムステータス画面に戻ったときにメッセージ内容が表示されます。

Ctrl - **X** を押すとメニュー画面に変わります。

システムステータス画面に戻るには、もう一度 **Ctrl** - **X** を押します。

注意

パスワードが設定されている場合は、**Ctrl** - **X** を押してメニュー画面に入るときに、パスワードを聞かれます。

正しいパスワードを入力してください。

3-4. メニュー画面

3-4-1. 1次局のメニュー画面

1次局のメニュー画面には、システム設定のためのメニュー項目がすべて表示されます。

メニュー項目を選択すると、設定画面に変わります。

参考

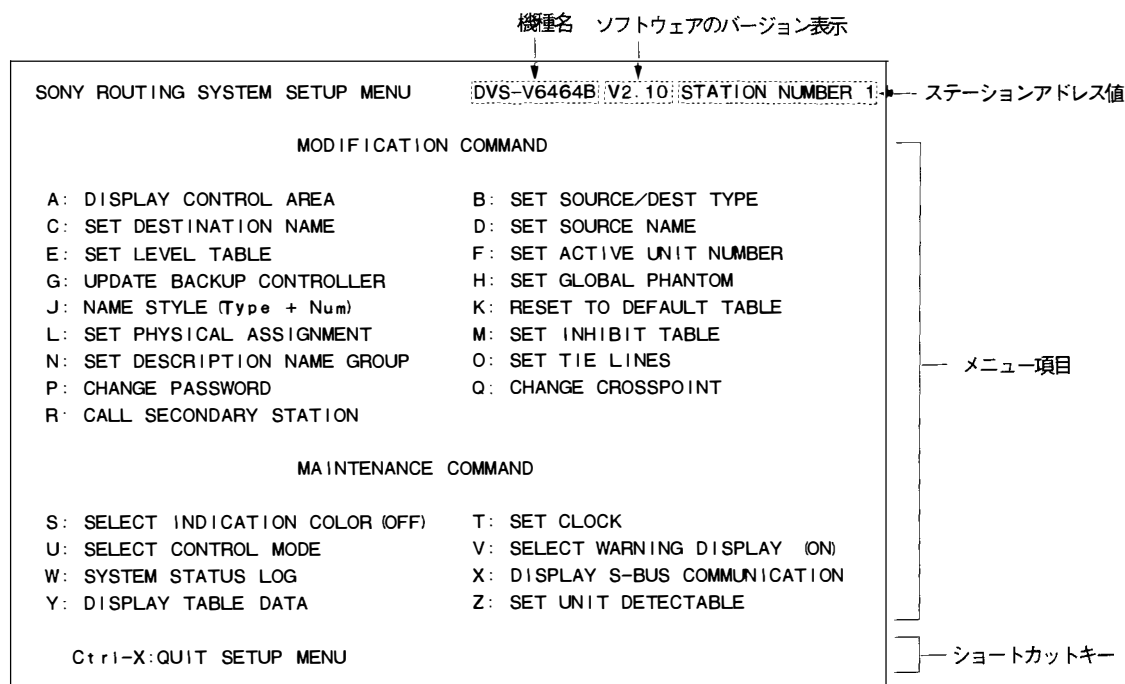
メニュー画面と設定画面の表示中は、ルーティングシステムの動作がシステムステータス画面に比べて遅くなります。そのため、設定が終了したらシステムステータス画面に戻してください。

メニュー項目の選択には、次の2つの方法があります。

1. カーソルキーで希望のメニュー項目を選択し、**Enter**を押します。(この方法が実行できない機種があります。その場合は2の方法で選択してください。)
2. 各メニュー項目に割り当てられているアルファベットキーを押します。

Ctrl - **X** を押すと、システムステータス画面に戻ります。

DVS-V3232B/V6464B、HDS-V3232 および BKPF-R70 を1次局とした場合のメニュー画面は次の通りです。



1次局のメニュー画面 (DVS-V6464B の例)

注意

- HDS-V3232のメニュー画面には、メニュー項目「S」および「Y」がありません。
- BKPF-R70のメニュー画面には、メニュー項目「S」がありません。

3-4-2. 2次局のメニュー画面

2次局のメニュー画面を呼び出す場合は、まず1次局のメニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」を選択し、続いて2次局のステーション番号を入力します。

1次局となっているルーティングスイッチャー自体の2次局機能を設定する場合は、2次局のステーション番号として“1”を入力します。

Ctrl - **D** を押すと1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

2次局の画面は、1次局のメニュー項目「S:SELECT INDICATION COLOR」を“ON”に設定しても、カラー表示を行いません。

(1) ルーティングスイッチャー

① DVS-V1616

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU   DVS-V1616 V3.00 STATION NUMBER 9

                                MODIFICATION COMMAND

A: SET UNIT LOCATION              K: DEFAULT TABLE

                                MAINTENANCE COMMAND

Y: DISPLAY TABLE

Ctrl-D: RETURN

```

2次局のメニュー画面 (DVS-V1616の例)

② DVS-V3232B, DVS-V6464B, BKPF-R70

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU   DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 2

                                MODIFICATION COMMAND

A: SET UNIT LOCATION              G: UPDATE BACKUP CONTROLLER
K: RESET TO DEFAULT TABLE        M: SET MONITOR FUNCTION
U: SELECT REMOTE PROTOCOL

                                MAINTENANCE COMMAND

V: DISPLAY UNIT STATUS            Y: DISPLAY TABLE DATA
Z: SELECT SDI FORMAT

Ctrl-D: RETURN

```

2次局のメニュー画面 (DVS-V6464Bの例)

③ DVS-RS1616, DVS-TC3232, DVS-A3232, BVS-V3232, BVS-A3232

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU  DVS-RS1616 V3.01 STATION NUMBER 7

                                MODIFICATION COMMAND

A: SET UNIT LOCATION           G: UPDATE BACKUP CONTROLLER
K: DEFAULT TABLE

                                MAINTENANCE COMMAND

Y: DISPLAY TABLE             Z: SELECT CONNECTION

Ctrl-D: RETURN
    
```

2次局のメニュー画面 (DVS-RS1616 の例)

注意

DVS-TC3232/A3232 および BVS-V3232/A3232 には、メニュー項目「Z」がありません。

④ HDS-V3232

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU  HDS-V3232 V1.00 STATION NUMBER 3

                                MODIFICATION COMMAND

A: SET UNIT LOCATION           G: UPDATE BACKUP CONTROLLER
K: DEFAULT TABLE
U: SELECT REMOTE PROTOCOL

                                MAINTENANCE COMMAND

Z: SWITCHING FIELD

Ctrl-D: RETURN
    
```

2次局のメニュー画面 (HDS-V3232の例)

⑤ BKPF-300/301/350/351

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU  BKPF-300 V1.00 STATION NUMBER 13

SOURCE No. 0001-0008    DESTINATION No: 0001    LEVEL No.: 1

SWITCHING FIELD: ASYNC   SDI FORMAT: 4:2:2

Ctrl-D: RETURN
    
```

2次局のメニュー画面 (BKPF-300の例)

(2) リモートコントロールユニット

① BKS-R3202

```
SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU    BKS-R3202 V3.10 STATION NUMBER 16

                                MODIFICATION COMMAND

H: SET PHANTOM TABLE

N: SET PANEL TABLE

O: SET AVAILABLE DESTINATION

L: COPY TABLE DATA

S: DISPLAY DESCRIPTION NAME

Ctrl-D: RETURN
```

リモートコントロールユニットのメニュー画面 (BKS-R3202 の例)

② BKS-R3204, BKS-R3205, BKS-R3206

```
SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU    BKS-R3206 V3.11 STATION NUMBER 18

                                MODIFICATION COMMAND

H: SET PHANTOM TABLE

N: SET PANEL TABLE

O: SET AVAILABLE DESTINATION

L: COPY TABLE DATA

Z: SET PANEL STATUS

S: DISPLAY DESCRIPTION NAME

Ctrl-D: RETURN
```

リモートコントロールユニットのメニュー画面 (BKS-R3206 の例)

③ BKS-R1607, BKS-R1608, BKS-R3209, BKS-R3210

```
SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU      BKS-R1607 V1.00 STATION NUMBER 3

                                MODIFICATION COMMAND

H: SET PHANTOM TABLE

N: SET PANEL TABLE

O: SET AVAILABLE SOURCE/DESTINATION

R: SET ROUTE

L: COPY TABLE DATA

Z: SET PANEL STATUS

S: DISPLAY DESCRIPTION NAME

Ctrl-D: RETURN
```

リモートコントロールユニットのメニュー画面 (BKS-R1607 の例)

注意

BKS-R1608/R3209 には、メニュー項目「O」がありません。

3-4-3. モニター系1次局のメニュー画面

モニター系1次局のメニュー画面を呼び出すには、まず標準S-BUSにおける1次局のメニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」でその局を選択します。

次に、メニュー項目「M:SET MONITOR FUNCTION」を選択します。

注意

選択した局がモニター系1次局でない場合は、「M:SET MONITOR FUNCTION」を実行してもメニュー画面は表示されません。

DVS-V3232B/V6464B + BKDS-V3292B (モニター基板)

```

SET MONITOR FUNCTION      DVS-V6464B Monitor Bus I/F V2.10

                          MODIFICATION COMMAND

F: SET SCTIVE UNIT NUMBER

M: SELECT MONITOR FUNCTION ( COMBINED )

R: CALL SECONDARY STATION

```

モニター系1次局のメニュー画面 (DVS-V6464B の例)

3-4-4. モニター系2次局のメニュー画面

モニター系2次局のメニュー画面を呼び出す場合は、まずモニター系1次局を呼び出します。

次にメニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」を選択し、2次局のステーション番号を入力します。

(1) ルーティングスイッチャー

① DVS-V3232B/V6464B + BKDS-V3292B (モニター基板)

```

SET MONITOR FUNCTION DVS-V6464B Monitor Bus I/F V2.10 STATION NUMBER 8

                          MODIFICATION COMMAND

M: SET AVAILABLE MONITOR LINE INPUT= ( ENABLE ) OUTPUT= ( ENABLE )

Ctrl-Z:RETURN

```

モニター系2次局のメニュー画面 (DVS-V6464B の例)

(2) リモートコントロールユニット

① BKS-R3202

```
MONITOR SYSTEM SETUP MENU      BKS-R3202 V3.10 STATION NUMBER 14

                                MODIFICATION COMMAND

                                S: DISPLAY DESCRIPTION NAME

Ctrl-Z:RETURN
```

モニター系2次局のメニュー画面 (BKS-R3202 の例)

② BKS-R3204, BKS-R3205

```
MONITOR SYSTEM SETUP MENU      BKS-R3204 V3.11 STATION NUMBER 18

                                MODIFICATION COMMAND

                                N: SET PANEL TABLE

                                L: COPY TABLE DATA

                                Z: SET PANEL STATUS

                                S: DISPLAY DESCRIPTION NAME

Ctrl-Z:RETURN
```

モニター系2次局のメニュー画面 (BKS-R3204 の例)

3-5. 設定画面

各項目の設定は設定画面で行います。

設定画面を呼び出す場合は、カーソルキーでメニュー項目を選ぶか、アルファベットキーで項目を入力し、**[Enter]**を押します。(設定画面の呼び出し方は、1次局メニューも2次局メニューも同様です。)

各メニュー項目の **[Ctrl] - [E]** を押すとメニュー画面に戻ります。続けて **[Ctrl] - [X]** と押すとシステムステータス画面に戻ります。

[注意]

メニュー項目「C」、「D」、「E」、「H」、「L」、「M」、「N」、「O」、「Q」の各設定画面は、メニュー項目「J」で設定するデスティネーションおよびソースの名称モードにより、表示内容が一部異なります。

「タイプ+番号」名称モード (Type + Num) の場合：

- デスティネーションまたはソースの名称が、タイプ名称+番号で表示されます。
- 名称の設定/変更は、画面下部に表示されるタイプ名称一覧から任意の名称を選択し、続いて数字キーで任意の番号を入力します。

ディスクリプション名称モード (DESCRIP. NAME) の場合：

- デスティネーションまたはソースの名称が、ディスクリプション名称で表示されます。
- 名称の設定/変更は、アルファベットキーと数字キーで任意の名称を直接入力します。

なお、このマニュアルでは特にことわりがない限り、「タイプ+番号」名称モードの設定画面例を掲載しています。

第4章

システム設定の手引き

4-1. 概要

この章では、システムのセットアップ作業を始める前に、あらかじめ理解しておいていただきたい2つの事柄について説明しています。ひとつは設定手順の概略であり、もうひとつはシステム設定の基本的な考え方です。用途に最適なシステムを構築するには、特に後者を十分理解することが重要です。

ルーティングシステムは、DVS-V3232B/V6464Bシリーズだけで信号切り換えを行なうなら、比較的容易にセットアップすることができます。しかし、AES/EBU、タイムコード、RS-422A リモート、アナログビデオやアナログオーディオなど、異なるタイプのルーティングスイッチャーを複数台接続する場合は、いろいろな設定パターンの選択が可能になります。そして、どう設定したかにより、システムの操作性や信頼性に大きな差が生じてしまいます。これは、たくさんの異なる信号を効率よく切り換えるため、ソニー独自の設定方法を採用しているからです。従って、その方法についてどれだけ理解しているかが、使いやすく無駄のないシステム構築のポイントになるのです。

信号切り換えの概念は、1種類の信号だけなら、X軸とY軸で構成される2次元マトリックスで考えることができます。しかし、異なるタイプの信号を扱う場合、Z軸を加えた3次元マトリックスとして考えると理解しやすくなります。なぜなら、各種ルーティングスイッチャーがそれぞれZ層またはZレベルを持つことにより、信号制御に大きな自由度を獲得することになるからです。(4-4項の図2を参照)
従って、この章の説明は、X-Y-Zの3次元マトリックスをイメージしながらお読みください。

この手引きでは、下記の手順に従って設定を行います。

1. すべての入／出力信号を特定し、16種類のソース／デスティネーションに分別する。
2. 入／出力それぞれの仮想端子番号に「タイプ＋番号」名称を割り当てる。
(仮想端子番号は、ソースとデスティネーションにそれぞれ001～512まであります。)
3. 各出力の「タイプ＋番号」名称を1つまたは複数のレベルに割り当てる。
4. 各「タイプ＋番号」名称を、入／出力の物理端子番号に割り当てる。
5. 必要に応じてファントムを設定する。(ファントム機能は「サルボ機能」とも呼ばれます。)
6. アクティブにするリモートコントロールユニットを決める。(アクティブにしたユニットは、自己診断結果をコントロールターミナルのシステムステータス画面に表示します。)
7. 特定の出力に対して、どの入力を利用不可にするか決定する。
8. 必要とされるすべての「タイライン」を設定する。
9. 必要に応じて、端子番号に第2の名称「ディスクリプション名称」を付与する。
10. S-BUS データリンク上のリモートコントロールユニットの設定を行う。

ステップ1～4は、ルーティングシステムの設定に不可欠な基本プロセスです。その中でも特にステップ2は、最も注意すべき重要なプロセスです。

使いやすいシステムをつくるポイントのひとつは、すべての入出力端子に適切な名称をつけることです。この作業は設定の基本であり、実際にシステムを使用する方ではなければできません。ルーティングスイッチャーの機種名や表示画面の制限内で、最適な端子名称を考えてください。

S-BUSコントロールシステムでは、入出力端子を端子名称として認識します。1次局のCPUは、この端子名称を物理端子番号に変換し、信号の切り替えを実行します。

なお、設定情報の詳細については、「第5章 設定項目」を参照してください

4-2. 設置の予備知識

各スイッチャーを1次局にした時の制御範囲は次のとおりです。

機種名	入力制御範囲	出力制御範囲	レベル管理	備考
DVS-V6464B DVS-RS1616 DVS-TC3232 DVS-A3232	1～512	1～512	1～8	拡張可
DVS-V3232B DVS-V1616 BVS-V3232 BVS-A3232 HDS-V3232 BKPF-R70	1～512	1～512	1～8	拡張不可

例：DVS-V3232B や HDS-V3232 の入出力は、単体では各 32 系統です。しかし、DVS-V3232B または HDS-V3232 を 1 次局に設定した場合は、その 2 次局のスイッチャーの入出力を最大 512 系統まで制御することができます。

- ・ 設置したルーティングスイッチャーやリモートコントロールユニットは、必ずステーション番号を設定してください。ステーション番号の設定方法については、各機器のマニュアルを参照してください。
- ・ このマニュアルでは入力信号をソースと呼び、出力信号をデスティネーションと呼びます。
- ・ BKS-R1607, BKS-R3209, BKS-R3210 を複数台組み合わせて親子関係を構成する場合は、DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70 または HDS-V3232 を 1 次局にしてください。

4-3. 事前準備

1. 1 次局を設定する

DVS-V3232B/V6464B の CPU-149 基板上的 M/S スイッチを「M」側*1に切り替えます。

1 次局のステーション ID “1” が自動的に割り当てられます。

注意

1 次局は、1 つのシステムに 1 台のみ設定することができます。複数台のステーションを 1 次局に設定すると、システムは正常に動作しません。

2. PC を接続する

MS-DOS (Ver.6.2) インストール済みの IBM 互換機を、1 次局の REMOTE 3 コネクタに接続します。この接続には、RS-232C クロスケーブル (25 ピン/オス⇄9 ピン/メス)*2を使います。

端末エミュレーションソフトを実行して、9600bps*3で通信します。

Windows 3.1 付属の [ターミナル] プログラムで、仮想ファンクションキーに制御文字列を割り当てることができます。したがって、Windows 3.1 を使用する場合には、[ターミナル] プログラムが使えます。Windows 95 と Windows NT の端末エミュレーションプログラムには、この機能はありません。Windows 95 または Windows NT を使用する場合には、キーボードのキー (通常は F1～F12 のファンクションキー) に制御文字列をマッピングできるサード・パーティ製の端末エミュレーションソフトウェアが必要です。

3. 電源投入

S-BUS データリンクを構成するすべての機器の電源を投入します。

注意

システムの電源投入後、約 1 分間経過してから設定を開始してください。

電源を入れた直後は、各機器の動作が安定しない場合があります。

*1: BKPF-R70 では、「P」側に設定する。

*2: BKPF-R70 の場合、(9 ピン/メス⇄9 ピン/メス) ケーブルを使用する。

*3: BKPF-R70 の転送速度は、38400 bps。

4-4. 設定の基本手順

1. すべての入／出力信号を、16種類のソース／デスティネーションに分別します

(1) ルーティングスイッチャー別に、入／出力リストを作成します

システムを構成するすべてのルーティングスイッチャーについて、それぞれが扱う入出力信号を網羅したリストを作成します。

この作業には、ルーティングシステムのシステム構築に関する知識が必要です。インストレーションマニュアルやテクニカルマニュアルを参照のうえ着手してください。

図1は、3台のスイッチャーで構成されるシステムの接続例です。

- DVS-V3232B デジタルビデオ (SDI) ルーティングスイッチャー
- DVS-A3232 デジタルオーディオ (AES/EBU) ルーティングスイッチャー
- BVS-A3232 アナログオーディオルーティングスイッチャー

このステップでは、入力 (ソース) や出力 (デスティネーション) に割り当てる端子名称についても設定します。

DVSシリーズのルーティングスイッチャーでは、操作効率の向上を図るため、すべての入・出力に端子名称を付与して管理します。この端子名称には、基本的に「タイプ+番号」名称と呼ばれる方式を採用しています。

「タイプ+番号」名称は、最長4文字のタイプ名称に数字を組み合わせたものを使用します。

デフォルトでは、入力系統に“IN”，出力系統に“OUT”が用意されていますが、最大16種類まで任意のタイプ名称を設定することができます。

例：CG，VT，VTR，CAM，NET，SAT，BARS，TONE など

タイプ名称の後には、3桁までの数字を付加することができます。それにより、タイプ名称一つから最大1000個の端子名称を作ることが可能です。

例：VTR000，VTR001，VTR002，.....VTR999

16種類のタイプ名称は、入力と出力の両系統で使用します。つまり、ルーティングスイッチャーの入／出力信号は、すべて「タイプ+番号」名称で表示されることになります。(図1の右上隅の例を参照してください。)

同じ「タイプ+番号」名称 (たとえばVTR001) を、入力と出力の両方に割り当てることは可能です。しかし、複数の入力、または複数の出力に同一の名称を使うことはできません。

したがってタイプ名称を決める時は、まず明確な命名ルールを慎重に検討し、端子名称として有効な名称を設定してください。この命名ルールは設定作業の最後まで適用され、リモートコントロールユニットやその他のディスプレイに表示する名称を決定する基準になります。

参考

DVSシリーズのルーティングスイッチャーには、「タイプ+番号」名称の代わりに利用できる第2の命名方法があります。それが「ディスクリプション名称」です。ただしこの名称を設定するには、あらかじめ「タイプ+番号」名称を入力しておく必要があります。なお、ディスクリプション名称を追記しても、「タイプ+番号」名称は消さないでください。

ディスクリプション名称の詳細については、ステップ9で説明します。

例：

VIDEO ROUTER SOURCE

固有のソース名称	コネクタ	スイッチャーのソース名称
CAMERA 1	17	CAM001
CAMERA 2	18	CAM002
VTR 1	1	VTR001
VTR 1	2	VTR002

VIDEO ROUTER DESTINATION

固有のディスクリプション名称	コネクタ	スイッチャーのディスクリプション名称
VTR 1	1	VTR001
VTR 2	2	VTR002
VTR 3	3	VTR003
VTR 4	4	VTR004

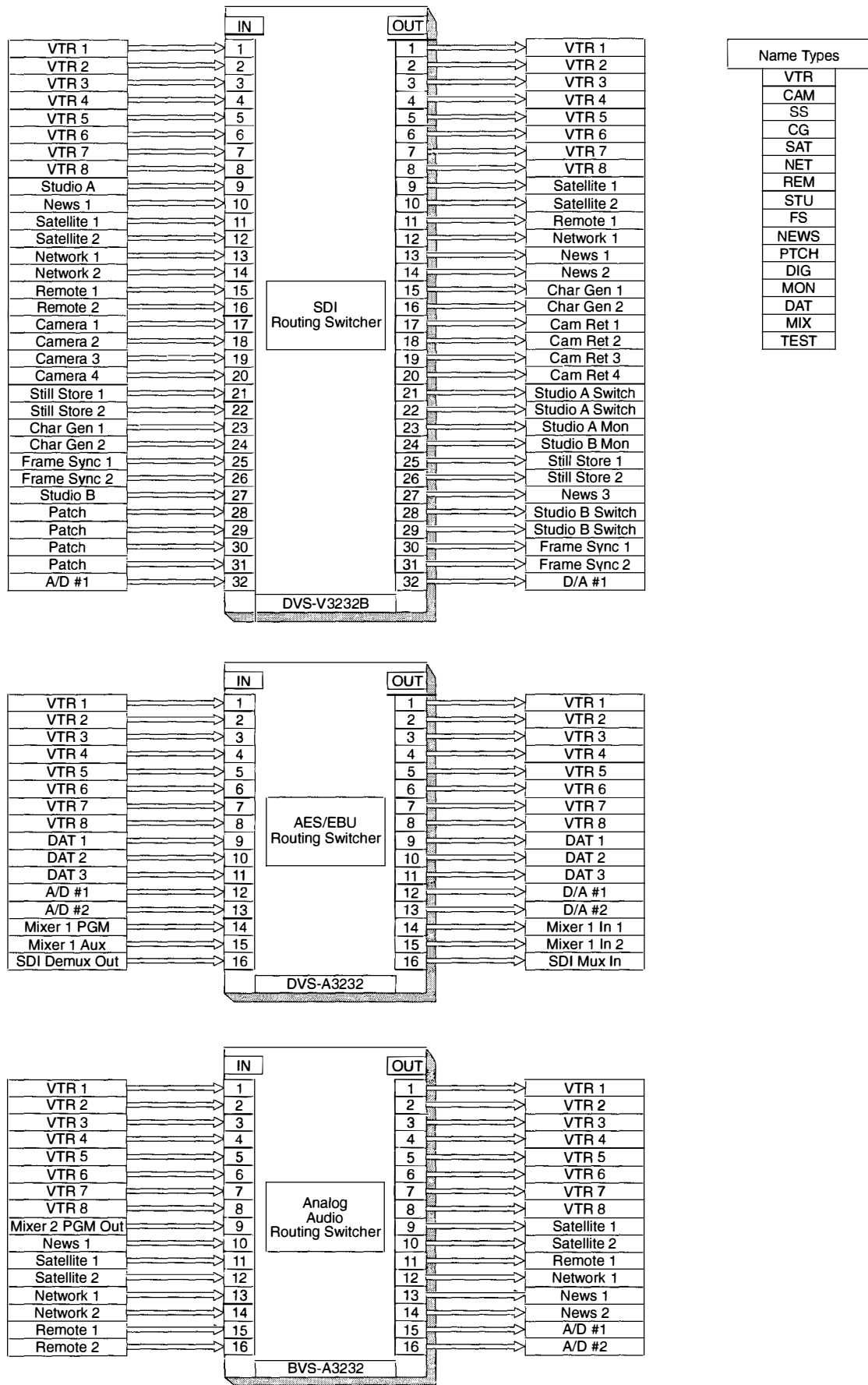


図 1

(2) タイプ名称を割り当てます (メニュー項目「B」)

ソースとデスティネーションの端子名称となる 16 種類のタイプ名称を選択し、入力します。最大 4 つの文字(“;”を除く)を組み合わせて、16 種類のタイプ名称を決めることができます。

メニュー項目「B:SET SOURCE/DESTINATION TYPE」で設定します。

例: CAM, VTR, CG, DVE, MON, PGM, BLK, DAT, STL, TONE, CD....

表示形式に整合性を求める場合には、すべてのタイプ名称を同じ文字数にしてください。

SOURCE/DEST/PHANTOM TYPE DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1							
0=VTR	1=VCR	2=AUX	3=FLM	4=TEST	5=STU	6=CAM	7=REM
8=CG	9=NETA	A=ENG	B=ED	C=FS	D=SS	E=BARS	F=PHAN
Ctrl-E: RETURN TO MENU							

2. ソース/デスティネーションの名称設定 (メニュー項目「C」および「D」)

ここでは、どのようなルーティングシステムを構成し、プログラミングし、利用できるようにするかについて、非常に重要な決定をもう一つ下さなければなりません。それにはまず、このステップがシステムの設定やシステムの操作性、柔軟性にどのような意味をもっているかを読み取り、総合的に理解する必要があります。このステップにどうアプローチするかによって、リモートコントロールユニットの操作性や、システム変更に対する柔軟性が大きく変わります。

ルーティングシステムの多くは、デジタルビデオ (SDI) ルーティングスイッチャー (DVS-V*** シリーズ) だけでなく、ほかのタイプのスイッチャーを含む構成になっています。通常は、アナログオーディオスイッチャーやアナログビデオスイッチャーが含まれます。そのほかには、デジタルオーディオ (AES)、タイムコード、RS-422A リモートコントロールシステムなどのスイッチャーが考えられます。これらのスイッチャーは、通常 1 次局の SDI スwitchャーから制御されます。

なお、DVS-V*** シリーズだけでシステムを構成する場合には、以下の説明はそれほど重要ではありません。参考程度にお読みください。

SDI 以外のスイッチャーは、1 次局が管理する 2 次局とみなすことができます。これらの 2 次局の制御は、通例 S-BUS リンクに接続したリモートコントロールユニットを介して行います。2 次局スイッチャーの種類と台数、およびリモートコントロールユニットとの組み合わせにより、1 次局・2 次局スイッチャーの各クロスポイントをすべて「マッピング」するための方法が決まります。

クロスポイントの「マッピング」には、2 つの方法があります。それぞれ独立した方法ですが、通常は両方を組合わせて使用します。

第 1 は、「レベルマッピング」と呼ばれる方法です。

ルーティングシステムのソースには、デジタルビデオ (SDI) ルーティングスイッチャーとアナログオーディオ/ビデオルーティングスイッチャーのように、しばしばペアで使われるものがあります。このような追従型ソースの場合、SDI スwitchャーをレベル 1、AES/EBU スwitchャーをレベル 2、アナログオーディオスイッチャーをレベル 3... というように、「レベル」を変えてマッピングすることができます。

図 1 をみると、VTR001 は、次のように接続できます。

- SDI 入力を DVS-V*** スwitchャーの OUT1 から出力する。
- AES/EBU オーディオ入力を DVS-A3232 スwitchャーの OUT1 から出力する。
- アナログオーディオ入力を BVS-A3232 スwitchャーの OUT1 から出力する。

図2では、各レベルのXY領域が、必ずしも同じ大きさである必要がないことを示しています。図1を例にとってみると、レベル1は 32×32 のXY領域ですが、レベル2と3の領域は 16×16 の大きさです。実際には、それぞれのレベルがすべて異なる大きさの領域を占める場合もあります。なおこの章では、3層のレベルとZ軸方向をもつシステムを例として説明しています。

クロスポイント領域の組み合わせ

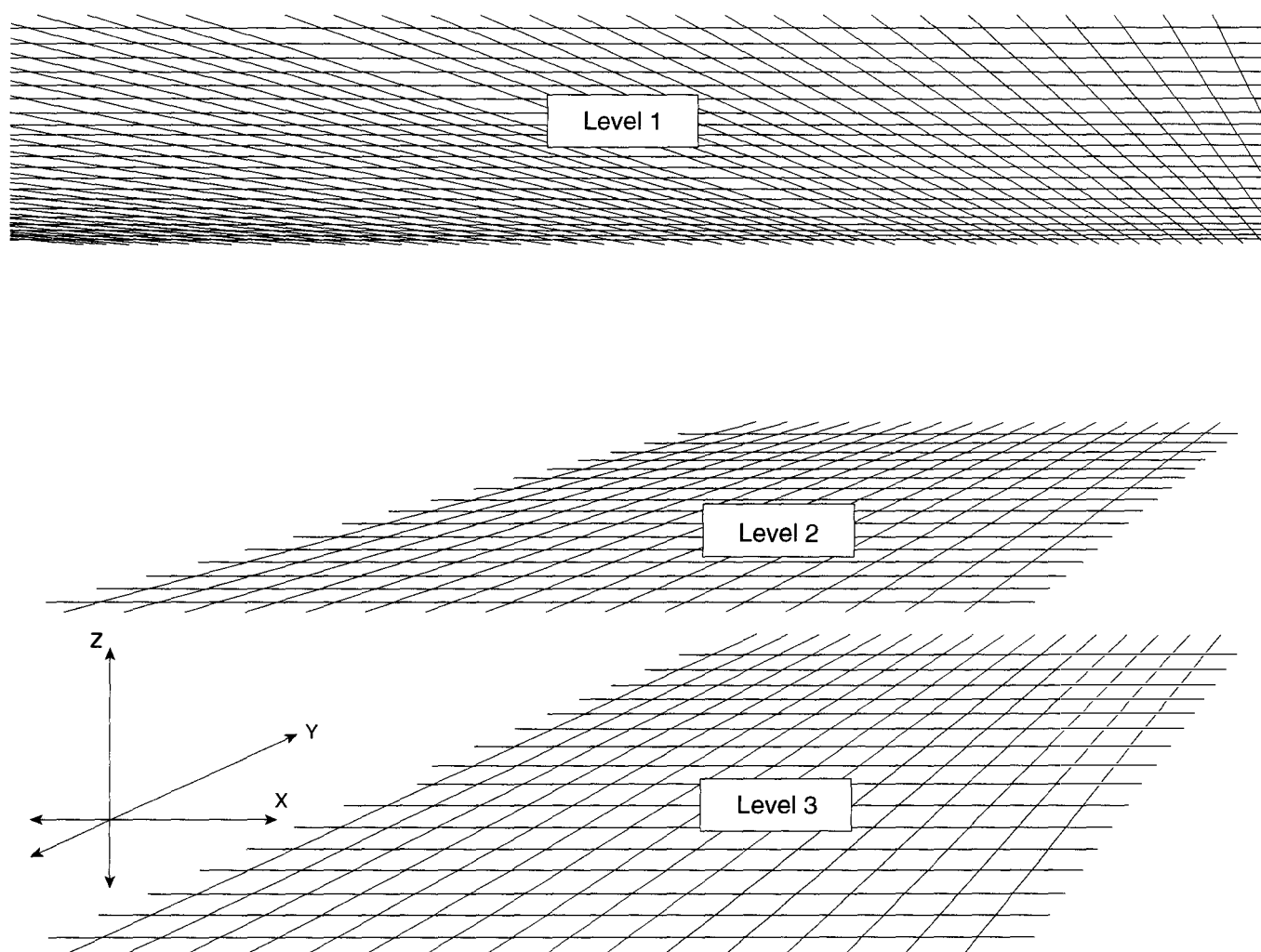


図2

VTR001の例に戻ると、3つの出力 (SDI, AES/EBU, アナログオーディオ) のそれぞれを、別々のレベルに割り当てることができます。この状態で、デスティネーションとしてVTR001を選択すると、3台の異なるルーティングスイッチャーの3つのクロスポイントが、全て同時に切り換えられることになります。この方法は設定が容易で理解しやすい反面、操作・運用面においてはマトリックスの変更や拡張に対する柔軟性に難があります。

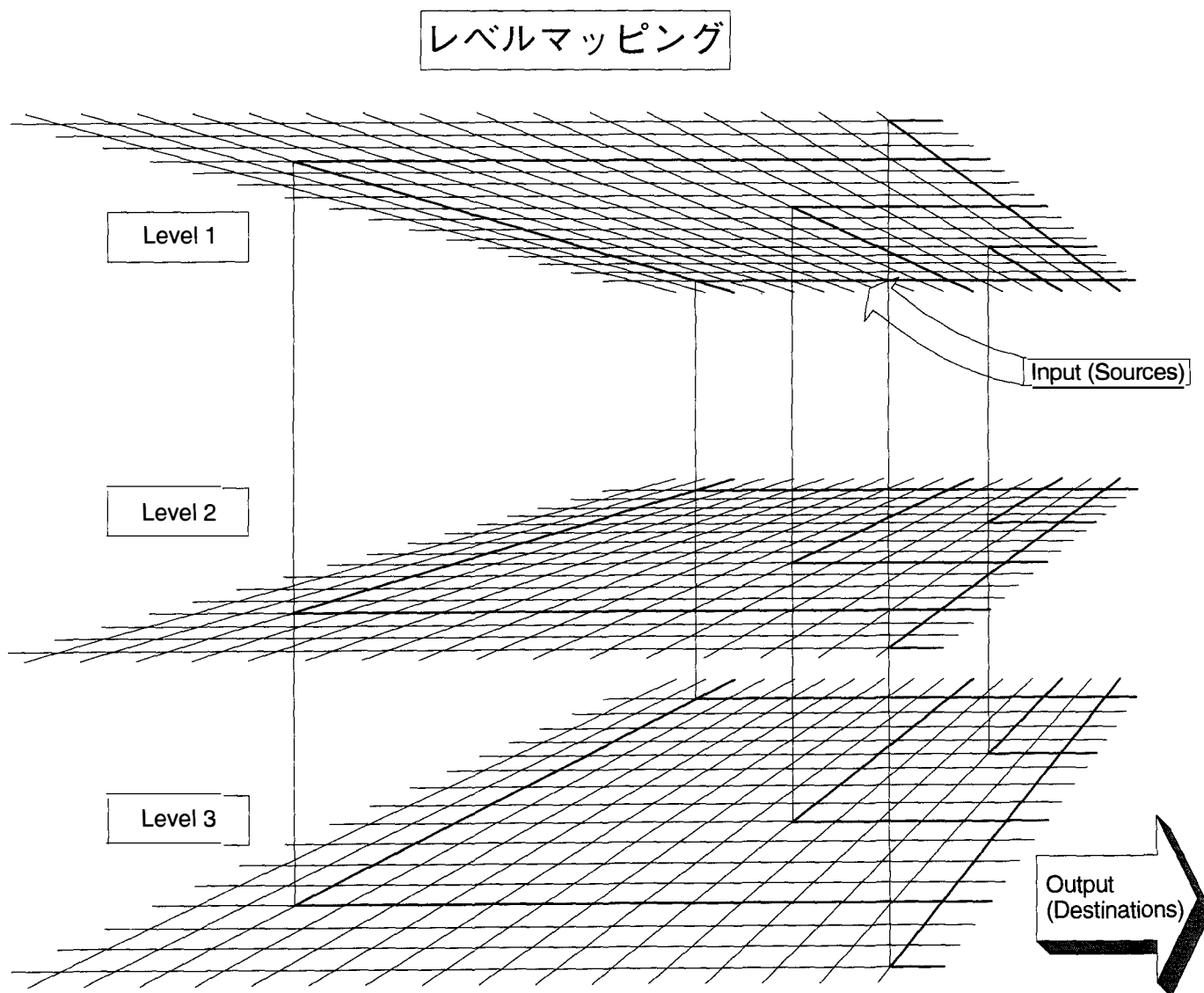


図 3

この方法では、レベルごとに異なる入力を扱いたい場合は、コントロールターミナルを1次局に接続するか、個々の「レベル」にアクセス可能なリモートコントロールユニット (BKS-R1607/R1608/R3209/R3210 など) を用意して、VTR001 の1つのレベルのみ制御できるようにする必要があります。(図4参照)

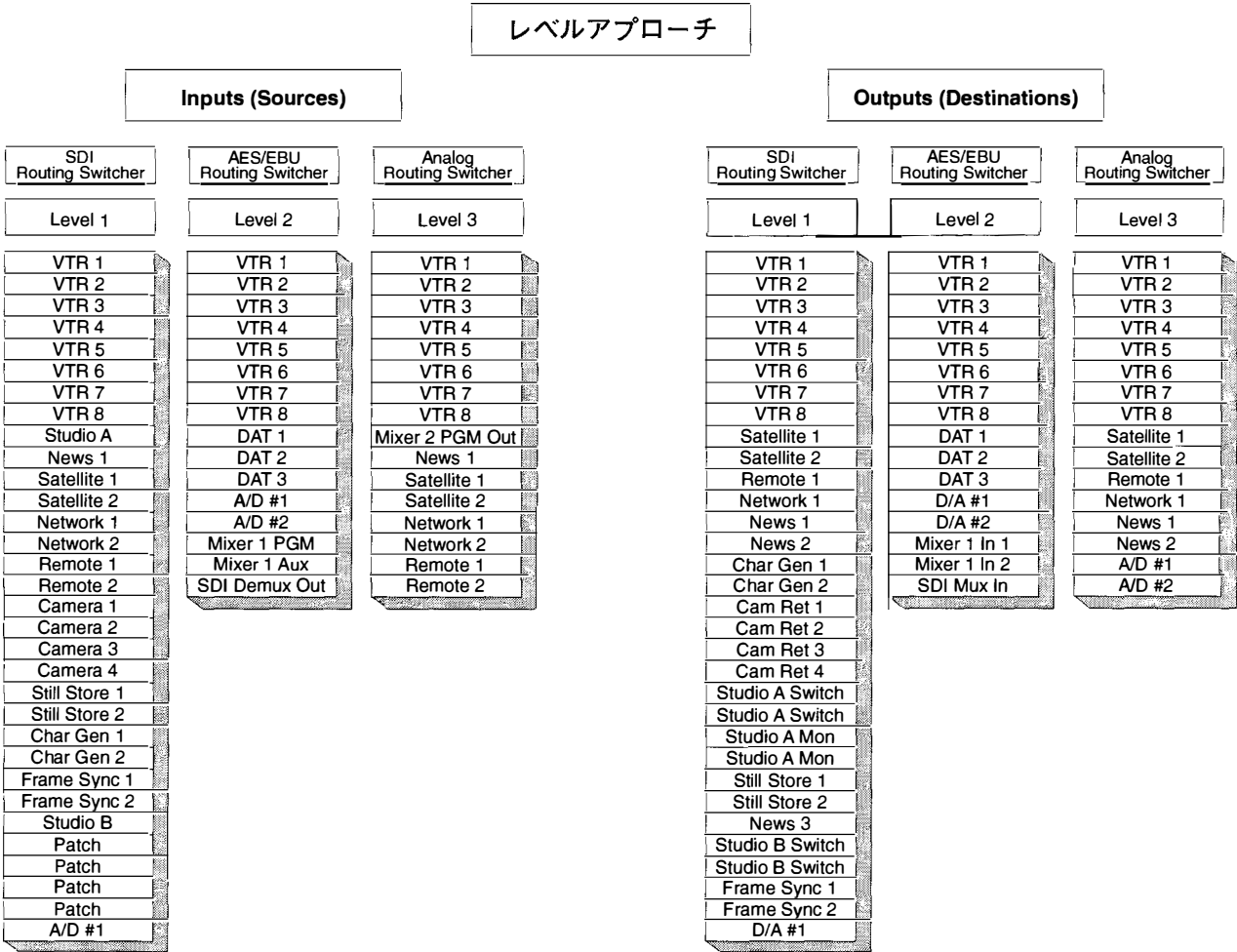


図 4

第2は、「バーチャルマッピング」と呼ばれる方法です。
図4のソース側の News 1 (Level 1), DAT 2 (Level 2) やデスティネーション側の Satellite 1 (Level 1), DAT 1 (Level 2) などは、通常レベルマッピングによる同時切り換えを行いません。こうしたケースでは、図5の方法を使うことができます。

バーチャルアプローチ

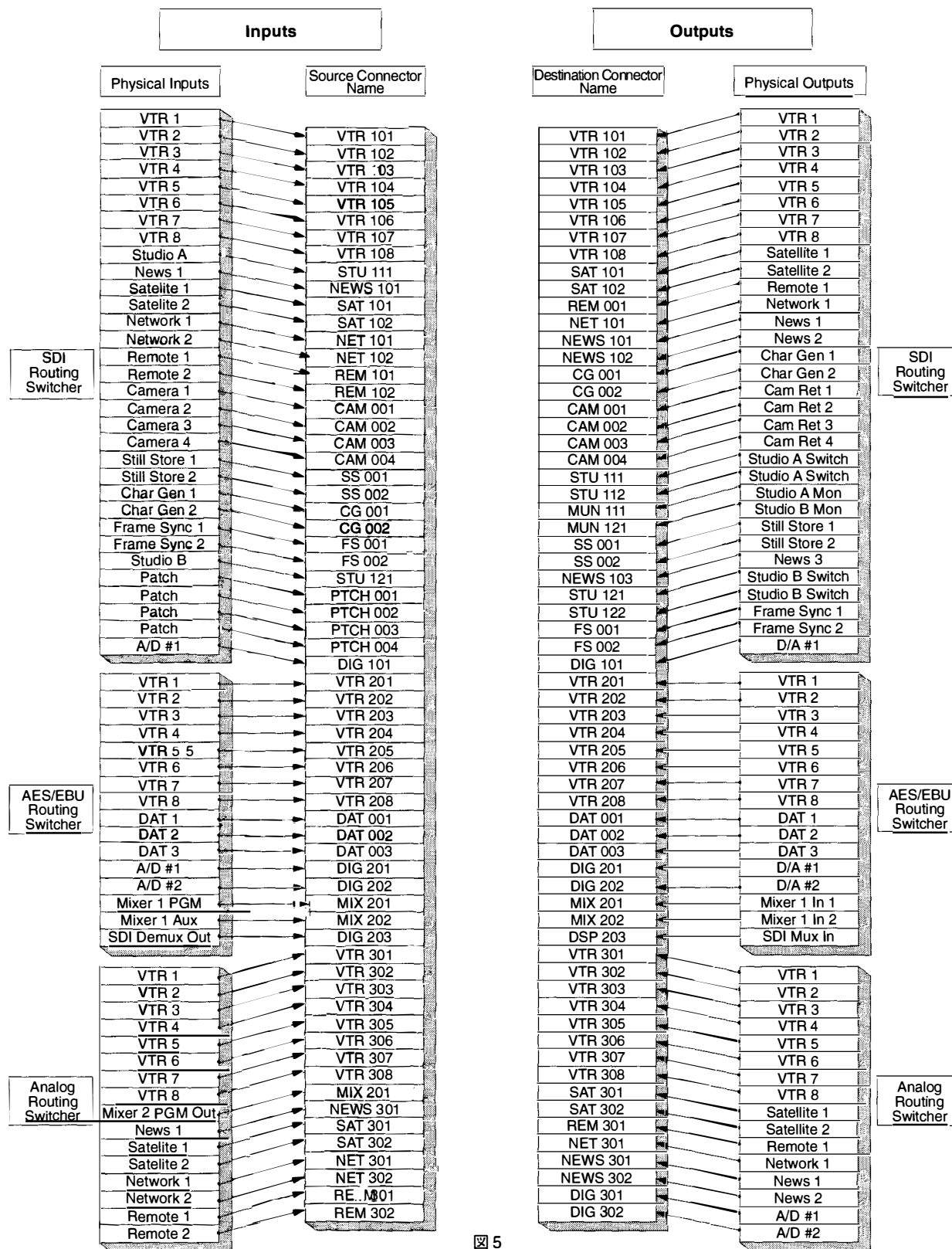


図 5

純粋なバーチャルマッピングアプローチでは、図5に示すように、すべてのデスティネーションを1つの仮想レベル上にレイアウトします (物理レベルは3層のままで変わりません)。

例：デスティネーションは下記の通り。

- ・“Satellite 1” は SDI ルーティングスイッチャーの OUT9 に接続されている。
(SDI スイッチャー：デスティネーション 001-032 の端子に設定)
- ・“DAT 1” は AES/EBU ルーティングスイッチャーの OUT9 に接続されている。
(AES/EBU スイッチャー：デスティネーション 033-048 の端子に設定)
- ・“Satellite 1” は アナログオーディオルーティングスイッチャーの OUT9 に接続されている。
(アナログオーディオスイッチャー：デスティネーション 049-64 の端子に設定)

したがって、

SDI の “Satellite 1”： (Sat001) …… 仮想レベル 1 の出力端子 9
 AES/EBU の “DAT 1”： (DAT001) …… 仮想レベル 1 の出力端子 41
 アナログオーディオの “Satellite 1”： (Sat003) …… 仮想レベル 1 の出力端子 57

リモートコントロールユニットでデスティネーションの DAT001 を変更した場合、出力ラベル 41 (AES OUT9) のみが変わります。あるレベルから別のレベルへ論理的に連結された信号がほとんどない場合は、この設定で問題ありません (DAT と camera, Mic と CG, Audio Mixer と Still Store など)。しかし、複数のルーティングスイッチャーと連結したソース／デスティネーションがある場合は、複数のクロスポイントを同時に切り換えるため、ファントムの設定が必要になります (ファントムについては別途説明します)。

バーチャルマッピングとレベルマッピングを組み合わせる混合方式では、図 6 のようになります。

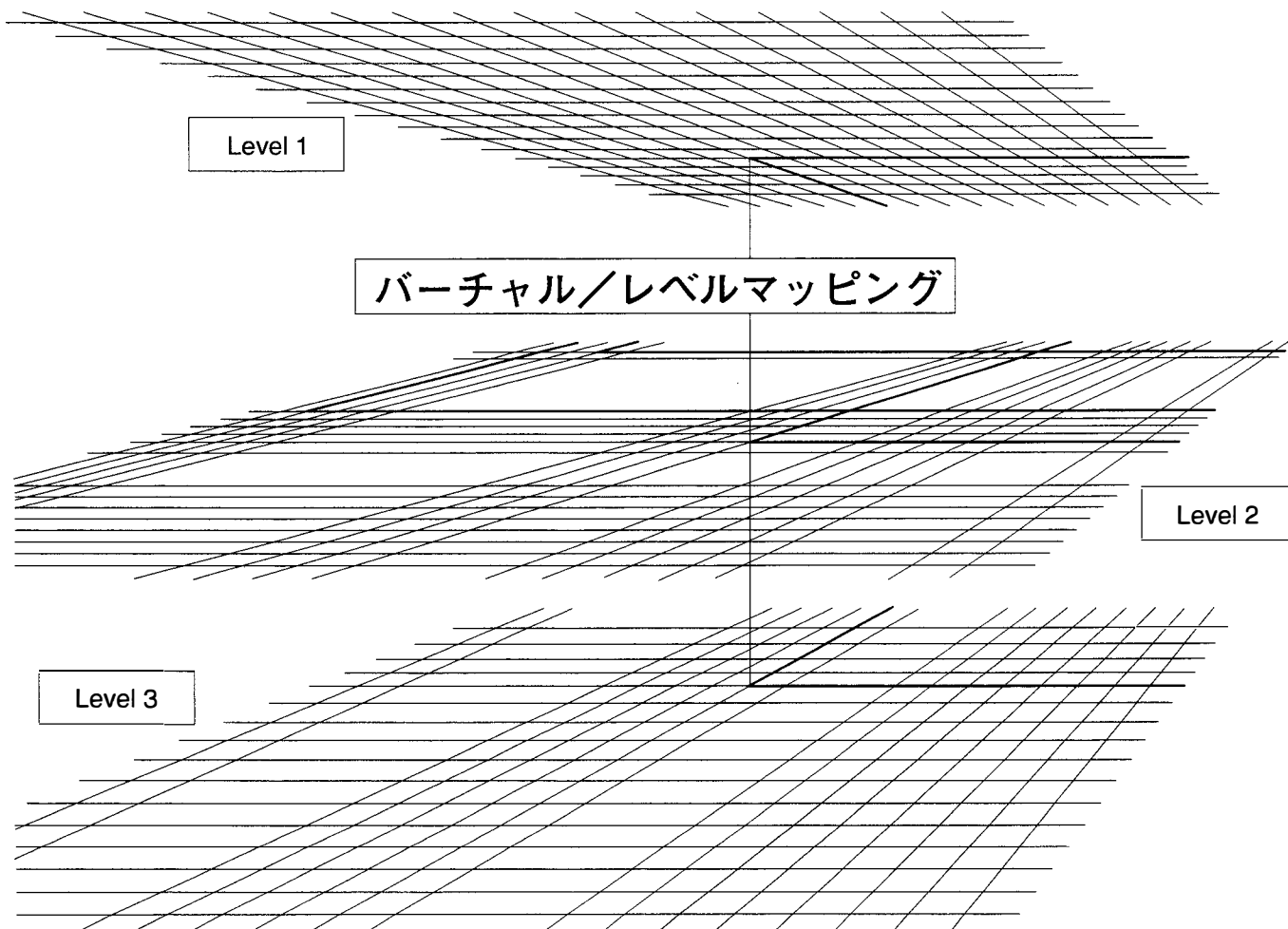


図 6

この方法の場合、VTRのようなソース／デスティネーションでは、VTR001、VTR002などの端子名称を選択すると、3種類のルーティングスイッチャーがすべて同時に切り換えを行えるように、レベルマッピングを適用します。

しかし、3種類のルーティングスイッチャーの各出力11については、レベル1 (SDI) とレベル3 (アナログオーディオ) がレベルマッピングされ、REM001 ラベルを選択すると同時に切り換わります。レベル2の出力11は、単独で簡単に切り換えできるように、ほかの2つとは別に DAT003 ラベルにバーチャルマッピングされます。

例：レベル1とレベル3の出力11は、どちらも REM001 ラベルにマッピングされます。

レベル2は、レベル1の出力11とは別に、DAT003 ラベルに単独でマッピングされます。

リモートコントロールユニットで DAT003 デスティネーションを変更すると、レベル2の出力11のクロスポイント (AES/EBU ルーティングスイッチャー) のみが切り換わります。

REM001 デスティネーションを変更した場合には、レベル1とレベル3の両方が切り換わります。このアプローチは、タイプの異なる信号が混在しており、ルーティングスイッチャーのレベル間で連結するクロスポイントもあるが、いつもそうとは限らない場合に有効です。

注意

すべてのレベルの、すべての関連するクロスポイントが連結されるソース／デスティネーションについては、レベルマッピングのみで設定します。

連結のないソース／デスティネーションは、バーチャルマッピングで設定します。

なお、純粋なレベルマッピングでは、物理入力1、物理入力2、... がそれぞれ別々のレベルで同時に切り換えられます。(図4を参照)

レベルマッピングだけの設定では、DAT3を分けて取り扱うことができません。レベルだけのアプローチを採用する場合、上記の例では、AES/EBU ルーティングスイッチャーの出力11に当たる DAT3 は、すべてのリモートコントロールユニットやディスプレイパネルに、REM001 として表示されます。

バーチャル／レベル混合アプローチを使うと、リモートコントロールユニット上のタリーランプ表示が、ビデオとオーディオで別々に点灯します。

たとえば、前述のバーチャルマッピング例から2項目を選び、1台のリモートコントロールユニットの別々のボタンに割り当てます。ボタン操作で REM001 を選択すると、REM 1 ボタンがグリーンに点灯します (図7を参照)。ボタン操作で DAT001 を選択すると、REM001 ボタンがグリーンに点灯したままで、DAT3 ボタンがアンバーに点灯します。ほかのソースを選択しても、そのソースがレベル1または3に割り当てられている限り、DAT001 ボタンは点灯したままになります。

レベル1と2をアクティブにするボタンを押すと、1次局が両方のレベルのクロスポイントを切り換えるため、DAT001 オーディオソースボタンが消えます。

逆に、REM 1 (グリーンに点灯) と DAT 3 (アンバーに点灯) を選択し、さらにレベル2からソースのみ (たとえば DAT 2) を選択すると、DAT 3 のアンバーのランプは消えて、DAT 2 ボタンがアンバーに点灯します。REM 1 は、グリーンに点灯したまま変わりません。

図7に関する注記：図7は、3次元オブジェクトを2次元で表した図です。つまり、図の上半分はX軸、下半分はY軸を表し、左から右にかけてはZ軸を表します。

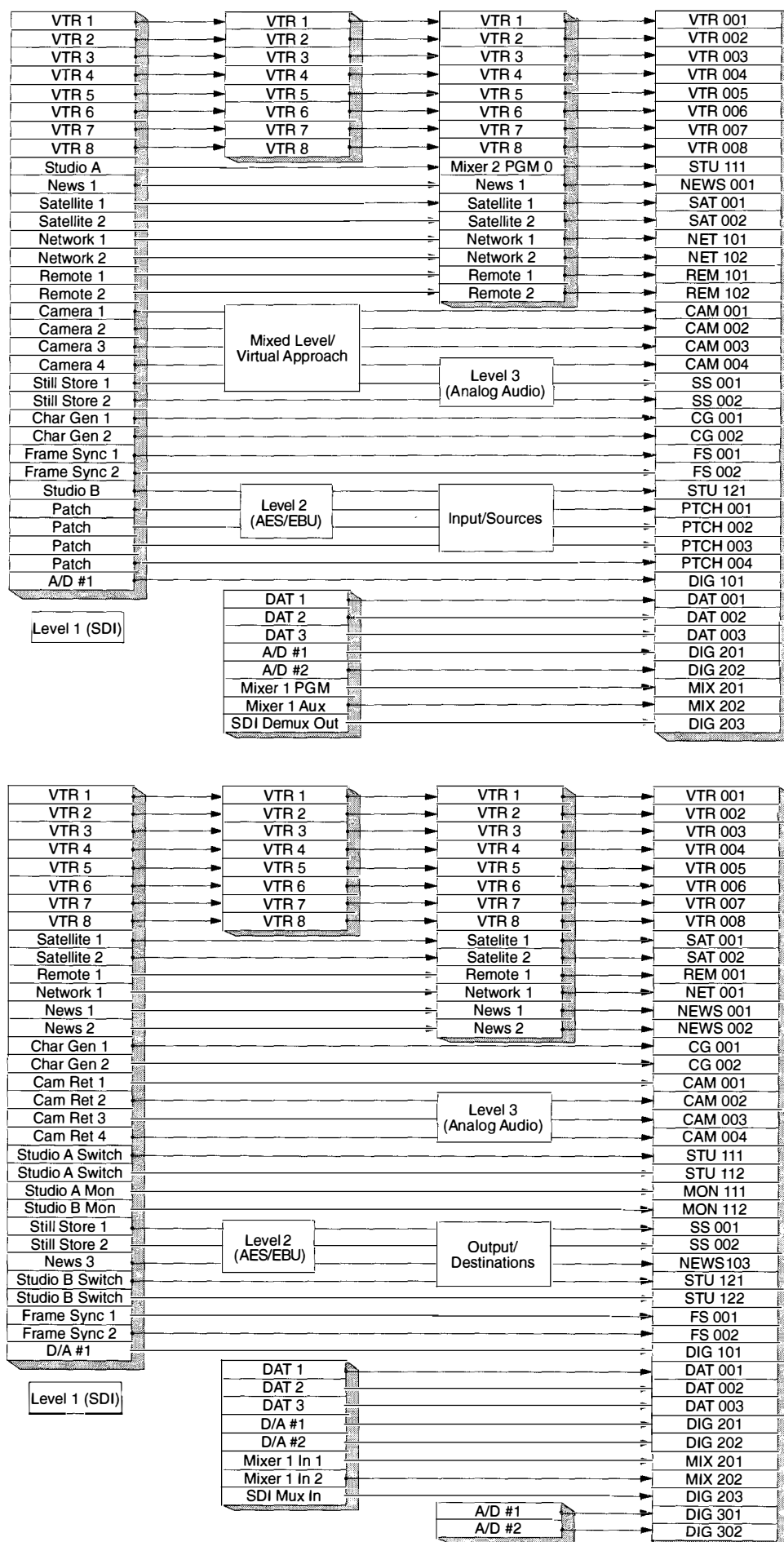


図 7

さて次の段階では、タイプ名称と番号を使って、ソース／デスティネーションの適切な名称を選択し、各ルーティングの入出力リストに入力します（メニュー項目「C」）。このリストを作成するときは、すべてのレベルについてルーティングスイッチャーの入出力に気を配ることを忘れないでください。

例：

VIDEO ROUTER SOURCE

接続先	コネクタ	ソース名称
CAMERA 1	17	017=CAM001
CAMERA 2	18	018=CAM002
VTR 1	1	001=VTR001
VTR 1	2	002=VTR002

VIDEO ROUTER DESTINATION

接続先	コネクタ	デスティネーション名称
VTR 1	1	001=VTR001
VTR 2	2	002=VTR002
VTR 3	3	003=VTR003
VTR 4	4	004=VTR004

注意

デスティネーション（クロスポイント／出力）名称を設定したあと、そのデスティネーションにプロテクトモードを設定することができます。

当該クロスポイントが、別の入力を選択できないようになります。

ソース（入力）名称を設定したあと、そのソースにシークレットモードを設定することができます。

リモートコントロールユニットから、この入力を選択できないようになります。

これらのモードの設定・取り消しは、コントロールターミナルから操作する必要があります。

3. レベルテーブルを設定します (メニュー項目「E」)

このステップでは、名称またはラベルを各レベルに割り当てます。またそれぞれのレベルに適正な名称を付与します (本項では、例として、SDI, AES, AUD を用いています)。

下記の例は、図7から抜粋した情報を入力した設定画面です。

		1=SDI	2=AES	3=AUD	4=
001	VTR001	SDI	AES	AUD	
002	VTR002	SDI	AES	AUD	
003	VTR003	SDI	AES	AUD	
004	VTR004	SDI	AES	AUD	
005	VTR005	SDI	AES	AUD	
006	VTR006	SDI	AES	AUD	
007	VTR007	SDI	AES	AUD	
008	VTR008	SDI	AES	AUD	
009	SAT001	SDI		AUD	
010	SAT002	SDI		AUD	
011	REM001	SDI		AUD	
012	NET001	SDI		AUD	
013	NEWS001	SDI		AUD	
:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:
035	DIG203		AES		
036	MIX201		AES		
037	MIX202		AES		
038	DIG203		AES		
039	DIG301			AUD	
040	DIG302			AUD	

注意

レベルを扱うリモートコントロールユニットやディスプレイ画面に表示されないように、使用しないレベルは削除します (削除されたレベルは「.....」で表示されます)。

4. 物理端子番号を設定します (メニュー項目「L」)

ここでは、ラベルまたは名称を、ルーティングスイッチャーの物理的な入出力に実際に割り付けます。メニュー項目 [L: SET PHYSICAL ASSIGNMENT] を使って、ソース/デスティネーションの物理端子番号と物理レベルを、ソース/デスティネーションの仮想名称と仮想レベルに割り当てます。(図7を参照)

PHYSICAL NUMBER ASSIGNMENT				DVS-V3232B V2.10		STATION NUMBER 1		
SOURCE		LEVEL						
No.	NAME	VID	AES	AUD	4	5	6	7
001	VTR001	001-1	001-2	001-3	...	...	...	...
002	VTR002	002-1	002-2	002-3	...	...	...	...
003	VTR003	003-1	003-2	003-3	...	...	...	...
004	VTR004	004-1	004-2	004-3	...	...	...	...
005	VTR005	005-1	005-2	005-3	...	...	...	...
006	VTR006	006-1	006-2	006-3	...	...	...	...
007	VTR007	007-1	007-2	007-3	...	...	...	...
008	VTR008	008-1	008-2	008-3	...	...	...	...
009	STU111	009-1	...	009-3	...	...	...	...
010	NEWS001	010-1	...	010-3	...	...	...	...
011	SAT001	011-1	...	011-3	...	...	...	...
:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:
017	CAM001	017-1	...	...	...	...	...	...
018	CAM002	018-1	...	...	...	...	...	...
:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:
033	DAT001	-	009-2	...	...	...	...	...
034	DAT002	-	010-2	...	...	...	...	...
035	DAT003	-	011-2	...	...	...	...	...
036	DIG201	-	012-2	...	...	...	...	...
037	DIG202	-	013-2	...	...	...	...	...
038	MIX201	...	014-2	...	...	...	...	...
039	MIX202	...	015-2	...	...	...	...	...
040	DIG203	-	016-2	...	...	...	...	...

注意

1. デスティネーション側にも同じ表を作成します (メニュー項目「L」の画面でF5を押すと、ソースとデスティネーションが交互に切り替わります)。
2. メニュー項目「L」で設定内容を削除するには、Ctl+Pを押します。

入力ラベルを物理入力ラベルに、出力ラベルを物理出力ラベルに割り付けるという作業の性質上、紛らわしさに混乱する場合があります。各出力の名称またはラベルの一点一点に、クロスポイントの物理的X行 (信号を出力に伝送するルート) と物理的Y列 (信号が入力から伝送されるルート) を、1次局に伝送する必要があります。

これらの仕組をビジュアルに表した図2, 3, 4を参照してください。

参考

BKPF-R70が1次局の場合、BZR-10に付属の「A: /CLR-DATA/SBUS_LVG_DAT」をダウンロードすると、全ての設定内容を削除することができます。
もし設定する項目数が削除する項目数よりも少ない場合は、一度すべての設定内容を削除してから設定し直すと効率的です。

個々のルーティングスイッチャーを、2台かまたはそれ以上の仮想スイッチャーに分割することも可能です。つまり、1つのレベルが2つ、あるいはそれ以上に見えるようにすることができます。

3種類のレベルのルーティングスイッチャーを使用する例では、AES/EBUルーティングスイッチャーを2台のバーチャルルーティングスイッチャーに分割することができます。この場合、3台のルーティングシステムで4つのレベルをもつことになります。

バーチャルマトリックスを使う理由は为什么呢？

1系統のデジタル信号あたり、2本のAES/EBUオーディオプログラムを扱うAES/EBUルーティングスイッチャーを想定してみましょう。ソースとして4本のチャンネルがある場合には、4チャンネルに2本のAES/EBU信号となります。これらを一度に切り換えるケースもあるでしょうし、そうでないケースもたびたびあるはずです。また、多くの場合、AES/EBUオーディオフレームは1つしかありません。そうした場合、まずAES/EBUチャンネル1/2をAES/EBUルーティングスイッチャーの任意の入力端子に接続し、AES/EBUチャンネル3/4を同じスイッチャーの別の入力端子に接続します。そこでファントム（詳細は次項を参照）を設定すれば、必要なときにこれらの入力を一本にまとめることができます。

あるいはメニュー項目「L」を使って、1台のルーティングスイッチャーに、2つの独立したレベルを構築することもできます。1つのレベルにA1/2、もう1つのレベルにはA3/4を割り当てるのが可能です。これを実行するための設定例は、下記のとおりです。

PHYSICAL NUMBER ASSIGNMENT				DVS-V3232B V2.10		STATION NUMBER 1		
SOURCE		LEVEL						
No.	NAME	VID	A12	A34	4	5	6	7
001	VTR001	001-1	001-2	016-2	...	...	...	...
002	VTR002	002-1	002-2	017-2	...	...	...	...
003	VTR003	003-1	003-2	018-2	...	...	...	...
004	VTR004	004-1	004-2	019-2	...	...	...	...
005	VTR005	005-1	005-2	020-2	...	...	...	...
006	VTR006	006-1	006-2	021-2	...	...	...	...
007	VTR007	007-1	007-2	022-2	...	...	...	...
008	VTR008	008-1	008-2	023-2	...	...	...	...

PHYSICAL NUMBER ASSIGNMENT				DVS-V3232B V2.10			STATION NUMBER 1	
SOURCE		LEVEL						
No	NAME	VID	A12	A34	4	5	6	7
001	VTR001	001-1	001-2	002-2	-	...	...	...
002	VTR002	002-1	003-2	004-2	-	...	...	...
003	VTR003	003-1	005-2	006-2	-	...	...	...
004	VTR004	004-1	007-2	008-2	-	...	...	...
005	VTR005	005-1	009-2	010-2	-	...	...	...
006	VTR006	006-1	011-2	012-2	-	...	...	...
007	VTR007	007-1	013-2	014-2	-	...	...	...
008	VTR008	008-1	015-2	016-2	-	...	...	...

PHYSICAL NUMBER ASSIGNMENT					DVS-V3232B V2.10		STATION NUMBER 1	
SOURCE		LEVEL						
No	NAME	VID	A12	A34	4	5	6	7
001	VTR001	005-1	032-2	031-2	-	...	...	...
002	VTR002	006-1	030-2	029-2	-	...	...	...
003	VTR003	007-1	028-2	027-2	-	...	...	...
004	VTR004	008-1	026-2	025-2	-	...	...	...
005	VTR005	001-1	008-2	007-2	-	...	...	...
006	VTR006	002-1	006-2	005-2	-	...	...	...
007	VTR007	003-1	004-2	003-2	-	...	...	...
008	VTR008	004-1	002-2	001-2	-	...	...	...

5. ファントムを設定します (メニュー項目「H」)

次にファントムを設定します。

まず最初に、ファントムをグローバルに定義して、個々のリモートコントロールユニットから使えるようにします。ファントムを設定すると、一回の操作で複数のクロスポイントを切り換えることができるようになります。

グローバルファントムの設定例として、出力VTR001への入力SAT001 (SDIレベルとAnalog Audioレベル) および出力VTR001への入力DIG201 (AESレベル) を選び、ファントム名称“SAT999”を入力します。

グローバルファントムとしての入力方法は、次のとおりです。

(1) メニュー項目「H」の上段メニューで、“SAT999”を番号ラベルに割り付けます。

0001 SAT999	0002	0003	0004
0005	0002	0003	0004

(2) 名称を割り付けたら、編集メニューで、実際に入力を出力に割り当てます。

	1=SDI	2=AES	3=AUD
VTR001<SAT001	1		3
VTR001<DIG201		2	

グローバルファントムには、最大4096個のクロスポイントを登録することができます。

リモートコントロールユニットからグローバルファントムを使えるようにするには、2次局を呼び出し (メニュー項目「R」)、グローバルファントムの名称をファントムテーブルにロードする必要があります。2次局 (リモートコントロールユニット) のファントムには、最大57個^{*1}のクロスポイントを登録することができます。

各リモートコントロールユニットでは、ローカルファントムを作成することができます。次に示すのは、ローカルファントム (リモートコントロールユニットのファントムテーブルに表示) の例です。なお、リモートコントロールユニットの設定を行う場合は、ステップ6を先に行ってください。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU		BKS-R3206 V3.11	STATION NUMBER 4
SET PHANTOM TABLE (PHANTOM:DESTINATION<SOURCE-LEVEL) (G. PHANTOM NAME:NUMBER)			
SAT999:0001	CAM999:CAM001<STU111	-1	CAM999:CAM002<STU111
CAM999:CAM003<STU111	-1	CAM999:CAM004<STU111	-1
:	<	-	:
:	<	-	:
:	<	-	:

設定画面例を見ると、グローバルファントム“SAT999”が最初の登録であることがわかります。SAT999の横に表示された0001はグローバルファントム番号で、このグローバルファントムがグローバルファントムテーブル (メニュー項目「H」) の最初の登録 (0001) であることを意味します。

次に、ローカルファントム“CAM999”がこのリモートコントロールユニット専用として登録されていることがわかります。このファントムを選択すると、Studio A (STU111) 入力を切り換えて、4系統のカメラのリターン出力 (CAM001など) に送信します。

“-1”は、レベル1 (SDI) の切り換えであることを意味します。

SAT999とCAM999は、ほかのソース名称と同じように、このリモートコントロールユニット上のボタンに割り当てることができます。

*1: バージョン1.10のBKS-R1607/R1608/R3209/R3210は、最大64個まで登録できます。

6. アクティブにするリモートコントロールユニットを決めます

(1) 利用したいステーションを選択します (メニュー項目「F」)

ここでは、メニュー [F:SET ACTIVE UNIT NUMBER] で、利用したい2次局に“E”マークを設定し、その2次局をアクティブにします。パネルの活性化とステータス情報更新のため、1次局はアクティブにしたステーションに対してポーリングを行います。

ENABLE ACTIVE UNIT FOR STATION NUMBER										DVS-V3232B V2.10										STATION NUMBER 1									
001-020	M	E	E	E	E	E	E	E	E																				
021-040																													

注意

この設定を行う前に、リモートコントロールユニット後面のディップスイッチで、あらかじめ2次局のIDを設定する必要があります。ステーションIDは、1次局がID=1、2次局はID=2以降となります。なお、ID=00はテスト番号、ID=255はグローバル番号です。どちらも使用できませんので注意してください。

(2) ステーションを検出します (メニュー項目「Z」)

メニュー項目「Z」でIDロケーションに“?”マークを設定すると、1次局はそのロケーションの該当するモデルコードを表示します。もし、当該ステーションとの通信が遮断されている場合は警告を表示します。

SET UNIT DETECTABLE										DVS-V3232B V2.10										STATION NUMBER 1									
001-020	M	03	?	15	04	?	?	?																					
021-040																													
01:DVS-V1616 02:DVS-V3232 03:DVS-A3232 04:BKS-R1601 05:BKS-R3202 06:BKS-R3203 07:BKS-R3281 08:DVS-V6464 09:BKS-R5000 10:DVS-RS1616 11:DVS-TC3232 12:BKDM-5080 13:BKS-R3204 14:BKS-R3205 15:BKS-R3206 16:BKS-R3280 17:BZR-1000 18:DVS-V3232B 19:DVS-V6464B 20:BKDS-7700																													

注意

- このメニューはBZR-10で使います。データ保存対象になる2次局を選択することが目的です。BZR-10は、「?」マークを設定した2次局のみ、データのバックアップを実行します。
- 2次局のメニュー項目「Z」で「?」マークを設定した場合、BZR-1000ソフトウェアは使用できません。2次局で「?」マークを設定すると、BZR-1000のGUI画面に「System Event Has Occurred」(システムイベントが発生しました)のエラーメッセージが連続的に表示されます。
- 「?」マークを設定したら、いったん終了した後、再度このメニューに入って通信結果を確認してください。「?」には、モデルコードが表示されます。

7. 無効クロスポイントテーブルを設定します (メニュー項目「M」)

1次局の「INHIBIT TABLE」を設定すると、各出力について特定のクロスポイントをどのリモートコントロールユニットからも選択できなくなります。このテーブルでは、「X」が有効なクロスポイント、「-」が無効なクロスポイントを意味します。

SET INHIBIT TABLE		DVS-V3232B V2 10						STATION NUMBER 1
DEST.	SOURCE	01--08	09--16	17--24	25--32	33--40	41--48	49--56
VTR001	-X-XXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX
VTR002	XXX-XXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX
VTR003	XXXX-XXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX
VTR004	XXXXX-XX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX	XXXXXXXX

なお、誤動作を避けるため、デスティネーションは、自身が発信源となるソースを選択できないようにします。

上記の設定画面では、たとえば出力 VTR001 は入力 1 (VTR001) を選択できません。

8. タイライン管理を設定します (メニュー項目「N」&「O」)

この手順が必要になるのは、おもに規格の異なる信号フォーマットを使用する場合です。たとえば、同じルーティングレベルに 4 fsc と 4:2:2 の2種類のデジタル信号を共存させるケースなどに適用できます。

まず、1次局のメニュー項目 [R: Call Secondary Station] で、自機の2次局を呼び出します。そこでは、最大8個までの入出力を、同じ規格の信号として扱うグループを設定することができます。同じレベルにある2次局についても同様に設定することができます。

2つのタイプの信号がある場合には、おそらく、一方の規格から他方の規格へ、頻繁な変換が必要になるでしょう。タイラインを設定することにより、一旦出力したシリアル信号を、変換後にソースとして再入力し、再度切り換えを行なった上でデスティネーションに出力することができます。こうした再帰的ルーティングシステムを設定すると、ルーティングスイッチャーの出力と入力間の信号変換器を少数にすることができます。(図8を参照)

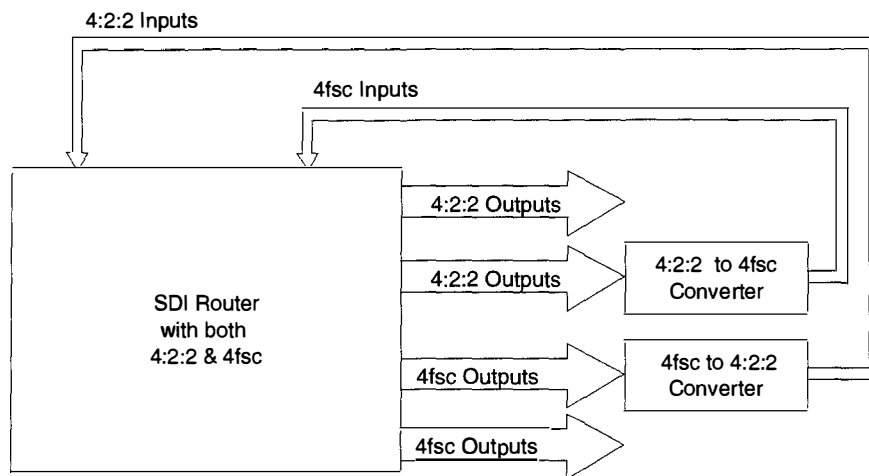


図 8

1台の大型ルーティングスイッチャーの代わりに、2台のそれぞれ独立したルーティングスイッチャーを使用するというケースがあります。その場合、一方のスイッチャーは4:2:2、他方は4 fscを扱う構成になります。4:2:2の出力は4:2:2 → 4 fsc変換器を介して接続され、4 fscルーティングスイッチャーの入力になります。4 fscから4:2:2に変換する場合は、これと逆の接続になります。

ここでは、入力グループをソース名称グループに、出力グループをディスクリプション名称グループにまとめて登録します。そのあとに、ネット（経路）グループの作成を行います。

各ネットグループは、どのスイッチャー出力とスイッチャー入力を使用するかを示すリストです。ソース名称グループから入力を1つ、デスティネーション名称グループから出力を1つ選択すると、ルーティングスイッチャーは、未使用の経路が見つかるまで経路を順番に（各ネットグループに登録されている順序）探します。

注意

ソース、デスティネーション、ネット各グループを組み合わせた登録は、最大4個まで可能です。なおソースグループとデスティネーショングループは、合わせて最大20個まで登録できます。ネットグループは最大40個まで可能です。

各ソースグループとデスティネーショングループを1つのネットグループで結びます。

最大3台のルーティングスイッチャーを組み合わせるシステム、または1台のルーティングスイッチャーに2本の再帰的経路をサポートするシステムを構築できます。

Source Group	Net Group	Destination Group
S001:IN003	N001:OUT003-IN041	D001:OUT033
:IN004	:OUT004-IN042	:OUT034
:IN005	:OUT005-IN043	:OUT035
:IN006	:OUT006-IN044	:OUT036
S002:IN010	N002:OUT023-IN051	D002:OUT056
:IN015	:OUT024-IN052	:OUT057
:IN023	:OUT025-IN053	:OUT058
:IN027	:OUT026-IN054	:OUT059
PATHS		
1:S001-N001-D001		
2:S002-N002-D001		

9. ディスクリプション名称を設定します (メニュー項目「J」)

[タイプ+番号] 名称のほかに、文字列の名称 (BKS-R3281 で16文字表示可能、ほかはほとんどが7文字表示) を使用することができます。これを「ディスクリプション名称」といいます。

[ディスクリプション名称] モードに設定するには、メニュー項目 [J: NAME STYLE] で DESCRIP.NAME を選択します。メニュー項目「J」を選択するたびに、[タイプ+番号] モードと [ディスクリプション名称] モードとが交互に切り替わります。

最初に「J」を選択した後でも、必要に応じてメニュー項目「C」や「D」を呼び出し、ディスクリプション名称を入力することができます。

SOURCE NUMBER	TRANSCODE		DVS-V3232B V2.10	STATION NUMBER 1
001=VTR001	ProgVTR		002=VTR002	SpotVTR
003=VTR003	BkupVTR		004=VTR004	Net-Diy
:	:		:	:
017=CAM001	Pete		018=CAM002	Mary
019=CAM003	Tom		019=CAM004	John

注意

ディスクリプション名称は、ソースやデスティネーションに同じ名称を何度でも使用することができます。

10. リモートコントロールユニットを設定します (メニュー項目「R」)

各リモートコントロールユニットを呼び出して必要な設定を行うには、メニュー項目「R」を選択し、目的ユニットのステーションアドレス (2~254) を入力します。

当該リモートコントロールユニットが、メニュー項目「Z: SET UNIT DETECTABLE」で有効に設定されている場合には、このメニューでステーションアドレスの確認ができます。複数のパネルから目的のリモートコントロールユニットのステーションアドレスを検索する必要がある場合は、[X: DISPLAY S-BUS COMMUNICATIONS] を選択して、目的のユニットからのクロスポイント変更を命令し、S-BUSの通信により表示されるステーションアドレスを見てください。

リモートコントロールユニットのメニュー画面が表示されたら、[Z: SET PANEL STATUS] を選択します。この画面から、リモートコントロールユニットのボタンを入力あるいは出力として設定することなど、各種モードの設定ができます。例えば、リモートコントロールユニットの動作/操作をスタンドアローンにしたリ、ほかのユニットと連携する場合も、このメニューで設定することができます。

次に、メニュー項目 [N: SET PANEL TABLE] を選択します。このメニューでは、入出力ボタン名称やファントム名称を適切なボタンに割り当てます。(X-Yコントロール時は、設定する必要がありません。)

BKS-R3202 または BKS-R3206 の場合は、メニュー項目 [O: SET AVAILABLE DESTINATION] を選択します。BKS-R3202 または BKS-R3206 のパネル上で、すべてのソースとデスティネーションを選択することができます。また、誤操作を予防するために、制御対象のデスティネーションが選択されないようにすることができます。

BKS-R3210 や BKS-R1607 では、Ctrl-F で任意のソースを選択できないように設定できます。

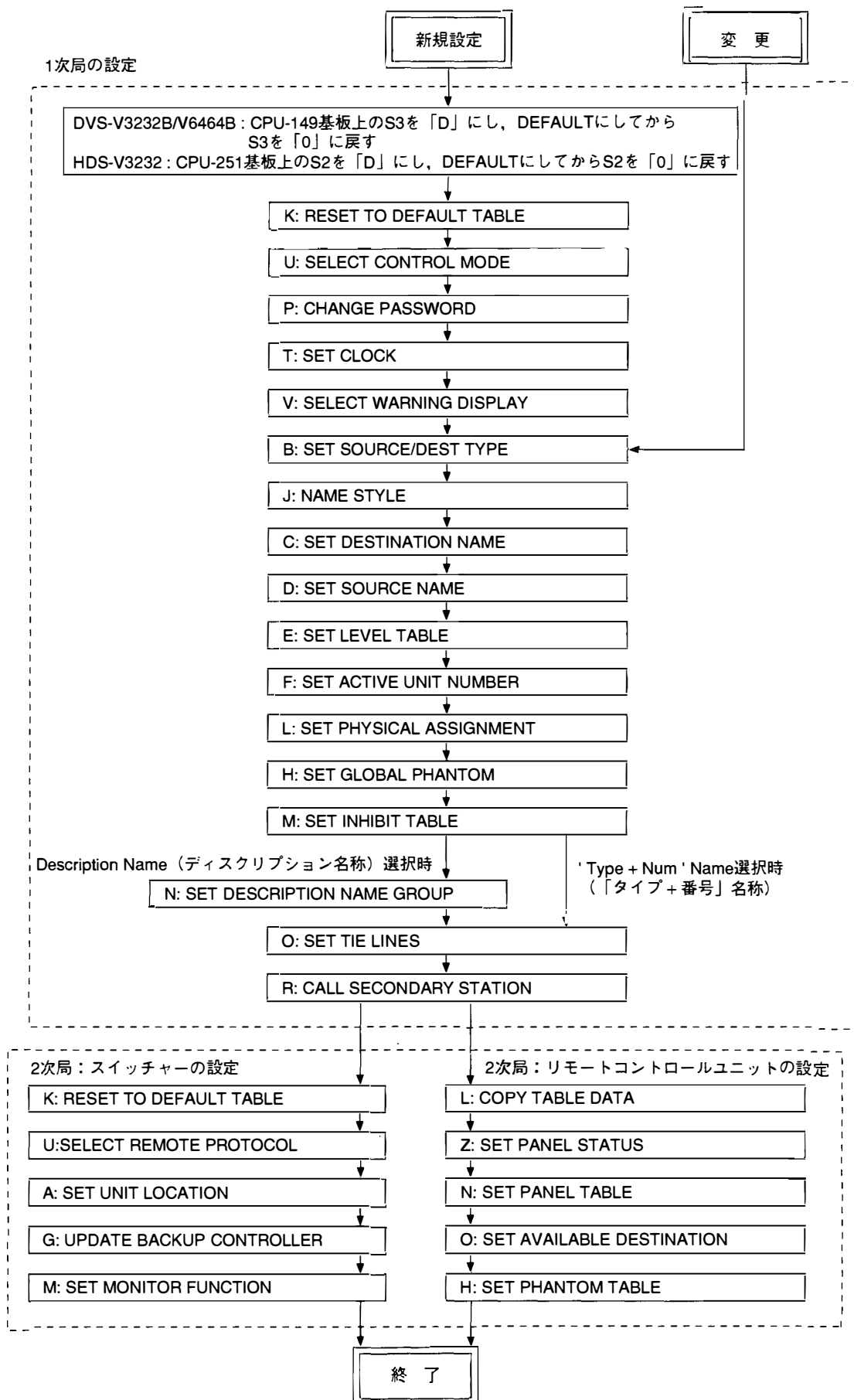
同じようなりモートコントロールユニットが複数台ある場合には、メニュー項目 [L: COPY TABLE DATA] を使って、設定データを他のユニットにコピーすることができます。

注意

データのコピー先に当るユニットから [L: COPY TABLE DATA] を選択してください。

設定データを別のユニットにコピーした後、これまで説明してきた手順で設定内容を編集することができます。

4-5. フロー図



4-6. BKPF-300/301/350/351 の設定

1. BKPF-300/301/350/351 上のスイッチ S1-3 を「OFF (TERMINAL)」に設定します。
2. 1次局のメニュー画面からメニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」を選択し、BKPF-300/301/350/351 を呼び出します。
下記に示す画面が表示されます。

機種名 ソフトウェアのバージョン表示

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU

BKPF-300 VX.XX STATION NUMBER XXX ←ステーションアドレス値

SOURCE No: 0001 - 0008 DESTINATION No: 0001 LEVEL No: 1

SWITCHING FIELD: ASYNC SDI FORMAT: 4:2:2

Ctrl-D : RETURN Ctrl-E : RETURN TO MENU

(BKPF-300 の例)

- ① 機器の SOURCE LOCATION。入力の範囲を設定します。
 - ② 機器の DESTINATION LOCATION。出力の範囲を設定します。
 - ③ 機器の LEVEL を設定します。(設定値:1~8)
 - ④ MATRIX 切り換えのタイミングを設定します。(ASYNC/FIELD のどちらかを選択。)
 - ⑤ SDI の FORMAT を設定します。(BKPF-300 のみ)
(4:2:2/4 fsc NTSC/4 fsc PAL の 3 種類から選択)
3. 設定項目 ①~⑤ を設定します。
 - (1) 項目 ①~③ は、カーソルで変更部分を選択し、コントロールターミナルのキーを操作して適当な数字を入力します。
 - (2) 項目 ④~⑤ は、カーソルで変更部分を選択し、**Enter** を押します。
Enter を押すたびに、決められた内容が順番に切り換わります。
 4. **Ctrl** - **D** で、設定画面から 1 次局のメニュー画面に戻ります。

第5章 設定項目

5-1. 1次局の設定項目

A:DISPLAY CONTROL AREA

A:DISPLAY UNIT LOCATION

目的

「A:DISPLAY CONTROL AREA」および「A:DISPLAY UNIT LOCATION」は、1次局が制御するルーティングシステム全体の入出力範囲を確認する際に使用します。

確認手順

- メニュー項目「A」を選択します。
- 下記の画面が表れます (DVS-V3232B/V6464B の場合)。
Ctrl - **E** を押すとメニュー画面に戻ります。

```
DISPLAY CONTROL AREA          DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1

SOURCE No 0001-0512  DESTINATION No 0001-0512

                                Ctrl-E:RETURN TO MENU
```

各機種ごとの制御範囲と設定範囲は以下のとおりです。

機種名称	CONTROL AREA		MAPPING AREA 設定範囲
	入力制御範囲	出力制御範囲	
DVS-RS1616	1～512	1～512	1～128
DVS-V1616	1～512	1～512	1～512
DVS-V3232B			
DVS-V6464B			
DVS-A3232			
HDS-V3232			
BKPF-R70			
DVS-TC3232	1～512	1～512	1～256
BVS-V3232			
BVS-A3232			

注意

メニュー項目「A」のコントロールエリアは、システム全体の制御範囲であり、1次局スイッチャーの入出力を意味するものではありません。

1次局の入出力端子のロケーションは、メニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」で2次局のメニュー画面を呼び出し、ステーション番号 **1** を入力してから「A:SET UNIT LOCATION」を選択すれば設定が可能になります。

B:SET SOURCE/DEST TYPE

目的

本メニューは、ソースとデスティネーション、およびグローバルファントムのタイプ名称を設定する際に使用します。

入出力信号の種類や用途にあわせてタイプ名称を設定しますと、入出力の管理が容易になります。

設定手順

1. メニュー項目「B」を選択します。
2. カーソルキーまたは文字キーを押し、画面に表示された16の文字コード(0-9およびA-F)の中からタイプ名称を登録するコードを選択します。
3. **[Ctrl] - [P]**を押すと、設定されていたタイプ名称が削除され、“……”表示になります。
4. **[Enter]**を押すと、タイプ名称の入力モードになります。タイプ名称を入力する前に**[Enter]**を押すと、入力モードはキャンセルされて“……”表示になり、次のコードにカーソルが移動します。
5. アルファベットキーと数字キーでタイプ名称(4文字以内)を入力します。
6. **[Enter]**を押すと、入力したタイプ名称が確定し、次のコードにカーソルが移動します。
確定する前に**[Ctrl] - [E]**を押すと、入力前のタイプ名称に戻ります。
7. **[Ctrl] - [E]**を押すとメニュー画面に戻ります。

SOURCE/DEST/PHANTOM TYPE DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1															
0=VTR	1=VCR	2=AUX	3=FLM	4=TEST	5=STU	6=CAM	7=REM								
8=CG	9=NETA	A=ENG	B=ED	C=FS	D=SS	E=BARS	F=PHAN								
Ctrl-E: RETURN TO MENU															

設定画面例

C:SET DESTINATION NAME

目的

本メニューは、デスティネーション名称や各出力のプロテクトを設定する際に使用します。

デスティネーション名称には、メニュー項目「B:SET SOURCE/DEST TYPE」で登録したタイプ名称と、001から999までの番号を設定することができます。また、メニュー項目「J:NAME STYLE」の名称モードを切り換えることにより、ディスクリプション名称を設定することができます。ディスクリプション名称の設定については、「J」の項目を参照してください。

プロテクトは、デスティネーションに選択されているソース信号を他のコントロールユニットから切り換えられないようにします。

(収録中やON AIR中などに設定しておく、誤操作を防ぐことができます。)

デスティネーション名称の設定手順

1. メニュー項目「C」を選択します。
2. カーソルキーまたはファンクションキーで、デスティネーションの端子番号を選択します。
3. **[Ctrl] - [P]**を押すと、設定されていたデスティネーション名称が削除され、“……”表示になります。
4. **[Enter]**を押すと、デスティネーション名称の入力モードになります。デスティネーション名称を入力する前に**[Enter]**を押すと、入力モードはキャンセルされて“……”表示になり、次の端子番号にカーソルが移動します。
5. 各タイプ名称に割り当てられているコードを選択し、次に数字キーで任意の番号を入力します。
6. **[Enter]**を押すと、入力したデスティネーション名称が確定し、次の端子番号にカーソルが移動します。
確定する前に**[Ctrl] - [F]**を押すと、入力前のデスティネーション名称に戻ります。
7. **[Ctrl] - [E]**を押すとメニュー画面に戻ります。

注意

1. デスティネーション名称を重複して設定することはできません。重複した場合は画面の下にエラーが表示されます。

表示例: ***** is used already ; ignored
 ↓
 デスティネーション名称

2. メニュー項目「J」でディスクリプション名称モードを選択すると、「タイプ+番号」名称のほかにディスクリプション名称が表示されます。その場合、本メニューの設定対象はディスクリプション名称になります。

プロテクトの設定手順

1. カーソルキーでデスティネーション名称を選択し、**[P]**を押します。デスティネーション名称の後にPが表示され、プロテクトが設定されます。
デスティネーション名称を設定していない端子番号には、プロテクトを設定できません。
2. プロテクトを解除するには、デスティネーション名称を選択して再度 **[P]** を押します。

注意

1. デスティネーション名称が反転表示されている場合は、ターミナルからプロテクトが設定されていることを示します。リモートコントロールユニットからプロテクトが設定されている場合は、デスティネーション名称は反転しません。
2. プロテクトされているデスティネーションの名称を変更する場合は、一旦プロテクトを解除してから行ってください。

DESTINATION NUMBER		TRANSCODE	DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1	
001=VTR001	P	002=VTR002	003=VTR003	P
004=VTR004		005=VTR005	006=VTR006	
007=VTR007		008=VTR008		
009=VCR101		010=VCR102	011=VCR103	012=VCR104
013=NETA001		014=NETA002	015=NETA003	016=NETA004
017=.		018=.	019=.	020=.
021=.		022=.	023=.	024=.
025=.		026=.	027=.	028=.
029=.		030=.	031=.	032=.
033=.		034=.	035=.	036=.
0=VTR 1=VCR 2=AUX 3=FLM 4=TEST 5=STU 6=CAM 7=REM				
8=CG 9=NETA A=ENG B=ED C=FS D=SS E=BARS F=PHAN				
F1:SEARCH F2:JUMP F3:PgUp F4:PgDn P:PROT Ctrl-E:RETURN TO MENU				

設定画面例

ファンクションキーの操作方法

[F1] : SEARCH(カーソルを希望するデスティネーション名称へ移動します。)

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input DEST NAME =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション名称を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的のデスティネーション名称へ移動します。

参考

メニュー項目「J」がディスクリプション名称モードに設定されている場合、**[F1]** (SEARCH) の機能は次のようになります。

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input ***** NAME =” と表示されます。
2. 検索するディスクリプション名称を、先頭から7文字以内で入力します。
3. **[Enter]** を押すと、入力した文字の範囲で該当するディスクリプション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
4. 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]** を押します。

[F2] : JUMP(カーソルを希望するデスティネーションの端子番号へ移動します。)

1. **[F2]** を押すと、画面に “Please Input DEST NUMBER =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーションの端子番号を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : Pg Up

[F3] を押すと、現在表示している16行から前の16行を表示します。

[F4] : Pg Dn

[F4] を押すと、現在表示している16行より次の16行を表示します。

D: SET SOURCE NAME

目的

本メニューは、ソース名称やシークレットを設定する際に使用します。

ソース名称には、メニュー項目「B:SET SOURCE/DEST TYPE」で登録したタイプ名称と、001から999までの番号を設定することができます。また、メニュー項目「J:NAME STYLE」の名称モードを切り換えることにより、ディスクリプション名称を設定することができます。ディスクリプション名称の設定については、「J」の項目参照してください。

シークレットは、入力信号の内容を見られないようにするときに設定します。シークレットを設定しますと、コントロールユニットからそのソース信号を選択することができなくなります。

ソース名称の設定手順

1. メニュー項目「D」を選択します。
2. カーソルキーまたはファンクションキーで、ソースの端子番号を選択します。
3. **[Ctrl] - [P]**を押すと、設定されていたソース名称が削除され、“...”表示になります。
4. **[Enter]**を押すと、ソース名称の入力モードになります。ソース名称を入力する前に**[Enter]**を押すと、入力モードはキャンセルされて“...”表示になり、次の端子番号にカーソルが移動します。
5. 各タイプ名称に割り当てられているコードを選択し、次に数字キーで任意の番号を入力します。
6. **[Enter]**を押すと、入力したソース名称が確定し、次の端子番号にカーソルが移動します。
確定する前に**[Ctrl] - [F]**を押すと、入力前のソース名称に戻ります。
7. **[Ctrl] - [E]**を押すと、メニュー画面に戻ります。

注意

1. ソース名称を重複して設定することはできません。重複した場合は画面の下にエラーが表示されます。
表示例：“***** is used already ; ignored”
 ↑
 ソース名称
2. メニュー項目「J」でディスクリプション名称モードを選択すると、「タイプ+番号」名称のほかにディスクリプション名称が表示されます。その場合、本メニューの設定対象はディスクリプション名称になります。

シークレットの設定手順

1. カーソルキーでソース名称を選択し、**[S]**を押します。ソース名称の後に“S”が表示され、シークレットが設定されます。ソース名称を設定していない端子番号には、シークレットを設定できません。
2. シークレットを解除するには、ソース名称を選択して再度**[S]**を押します。
パスワードの入力要求が表示された時はパスワードを入力し、次に**[Enter]**を押すと、シークレットを解除することができます。

注意

パスワードの設定に関しては、メニュー項目「P:CHANGE PASSWORD」を参照してください。

SOURCE NUMBER		TRANSCODE		DVS-V6464B V2.10		STATION NUMBER 1	
001=VTR001	002=VTR002	003=VTR003	004=VTR004				
005=VTR005	006=VTR006	007=VCR101	008=VCR102 S				
009=AUX001 S	010=AUX002	011=CAM001 S	012=CAM002				
013=CG001	014=NETA001	015=SS001	016=BARS001				
017=.	018=.	019=.	020=.				
021=.	022=.	023=.	024=.				
025=.	026=.	027=.	028=.				
029=.	030=.	031=.	032=.				
033=.	034=.	035=.	036=.				
0=VTR	1=VCR	2=AUX	3=FLM	4=TEST	5=STU	6=CAM	7=REM
8=CG	9=NETA	A=ENG	B=ED	C=FS	D=SS	E=BARS	F=PHAN
F1:SEARCH F2:JUMP F3:PgUp F4:PgDn				S:SECRET Ctrl-E:RETURN TO MENU			

設定画面例

ファンクションキーの操作方法

[F1] : SEARCH (カーソルを希望するソース名称へ移動します。)

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input SOURCE NAME =” と表示されます。
2. 検索するソース名称を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的のソース名称へ移動します。

参考

メニュー項目「J」がディスクリプション名称モードに設定されている場合、**[F1]** (SEARCH) の機能は次のようになります。

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input **** NAME =” と表示されます。
2. 検索するディスクリプション名称を、先頭から7文字以内で入力します。
3. **[Enter]** を押すと、入力した文字の範囲で該当するディスクリプション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
4. 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]** を押します。

[F2] : JUMP (カーソルを希望するソースの端子番号へ移動します。)

1. **[F2]** を押すと、画面に “Please Input SOURCE NUMBER =” と表示されます。
2. 検索するソースの端子番号を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : Pg Up

[F3] を押すと、現在表示している16行から前の16行を表示します。

[F4] : Pg Dn

[F4] を押すと、現在表示している16行より次の16行を表示します。

E: SET LEVEL TABLE

目的

本メニューでは、レベル名称の設定と各デスティネーション名称に対するレベルの設定を行います。最大8レベルまで設定することができます。

なお、レベルの設定は、必要なレベルのみ行ってください。実際に結線されていないレベルを設定しますと、ルーティングスイッチャーの応答速度が遅くなります。不要なレベルは削除してください。

また、この設定を行うと、リモートコントロールユニットから選択されているレベルを確認することができます。

設定手順 (レベル名称の登録)

1. メニュー項目「E」を選択します。
2. カーソルキーで、1-8のレベル番号を選択します。
3. **[Enter]**を押すと、レベル名称の入力モードになります。
2. アルファベットキーと数字キーでレベル名称 (4文字以内) を入力します。
5. **[Enter]**を押すと、入力したレベル名称が確定します。確定する前に **[Ctrl] - [F]** を押すと、入力前のレベル名称に戻ります。
6. **[Ctrl] - [Z]** を押すと、全てのデスティネーション名称に1-8のレベル名称が割り当てられます。
7. **[Ctrl] - [E]** を押すとメニュー画面に戻ります。

設定手順 (レベル設定・解除)

1. メニュー項目「E」を選択します。
2. カーソルキーでデスティネーションのレベルを選択します。
3. **[Enter]**を押すと、レベルの名称が“...”表示になり、レベルの設定が解除されます。
4. ファンクションキーでレベルの検索を行えます。

LEVEL TABLE			DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1							
			1=VID	2=A1	3=A2	4=4	5=5	6=6	7=7	8=8
No.	out	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
001	OUT001	VID	A1	A2	4					
002	OUT002	VID	A1	A2	4					
003	OUT003	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
004	OUT004	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
005	OUT005	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
006	OUT006	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
007	OUT007	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
008	OUT008	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
009	OUT009	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
010	OUT010	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
011	OUT011	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
012	OUT012	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
013	OUT013	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
014	OUT014	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
015	OUT015	VID	A1	A2	4	5	6	7	8	
0=IN			1=OUT	2=	3=.	4=.	5=.	6=.	7=.	
8=.			9=.	A=.	B=.	C=.	D=.	E=.	F=.	
F1:SEARCH			F2:JUMP		Ctrl-E:RETURN TO MENU					

ファンクションキーの操作方法

[F1]: SEARCH(カーソルを希望するデスティネーション名称へ移動します。)

1. **[F1]**を押すと、画面に“Please Input DEST NAME=”と表示され、タイプ名称が表示されます。
2. 検索するデスティネーション名称を入力します。
3. **[Enter]**を押すと、カーソルが目的のデスティネーション名称へ移動します。

参考

メニュー項目「J」がディスクリプション名称モードに設定されている場合、**[F1]** (SEARCH) の機能は次のようになります。

1. **[F1]**を押すと、画面に“Please Input * * * * NAME=”と表示されます。
2. 検索するディスクリプション名称を、先頭から7文字以内で入力します。
3. **[Enter]**を押すと、入力した文字の範囲で該当するディスクリプション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
4. 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]** を押します。

[F2]: JUMP (カーソルを希望するデスティネーションの端子番号へ移動します。)

1. **[F2]**を押すと、画面に“Please Input DEST NUMBER=”と表示され、タイプ名称が表示されます。
2. 検索するデスティネーションの端子番号を入力します。
3. **[Enter]**を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

注意

デスティネーション名称が設定されていない端子番号は、表示されません。

F:SET ACTIVE UNIT NUMBER

目的

本メニューでは、S-BUSデータリンク上に接続されている機器（2次局）を有効にし、S-BUSプロトコルによる相互通信を行えるようにします。

設定手順

1. メニュー項目「F」を選択します。
2. カーソルキーで通信を有効にする2次局を選択します。
3. **[Enter]**を押すと、表示されている設定状態が変化します（“E”→ブランク→“E”）。“E”が表示されている2次局のみが有効となります。なお、“M”の表示は1次局を示します。
4. **[Ctrl] - [E]**を押すとメニュー画面に戻ります。

注意

2次局の数が多い場合には反応速度が遅くなりますので、未接続や応答不要の2次局のステーション番号は、無効にしてください。

“*”は範囲外を示しています。

ENABLE ACTIVE UNIT FOR STATION NUMBER DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1																				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

Ctrl-E: RETURN TO MENU

設定画面例

注意

1. 1次局のステーション番号は、CPU基板上のDIPスイッチの設定にかかわらず1となります。
2. 2次局のステーション番号は、DIPスイッチの設定値となります。
標準S-BUSおよびモニター系S-BUSにおいて、ステーション番号は重複しないように設定してください。
設定可能な2次局のステーション番号は、2～254です。

G:UPDATE BACKUP CONTROLLER

目的

本メニューは、1次局の主CPU基板に保持しているテーブルデータを、副CPU基板（バックアップ用）に複写する際に使用します。

この設定は、1次局に副CPU基板が設置されている時のみ有効です。

設定手順

1. メニュー項目「G」を選択します。画面の下にメッセージ“This process requires about n minutes. Execute? (y/n)”が表示されます。
Ver. 2.00: n = 5
Ver. 1.00: n = 7
2. **[Y]**を押すとテーブルデータの複写を実行します。複写を実行しない場合は、**[N]**を押してください。
3. 複写の終了後、画面の同じ位置に“PROGRAM TABLE? (y/n)”と表示する機器をご使用の場合は、続けて**[Y]**を押します。

注意

1. 主CPU基板のROMバージョンと、副CPU基板のROMバージョンは、必ず同じものにしてください。バージョンが異なると、複写を実行した後ハングアップすることがあります。そのときは、副CPU基板を取り外してください。
これは、ソフトウェアの機能アップが図られたことにより、旧バージョンでは使用されていなかったテーブルデータが利用されるようになったためです。
2. テーブルデータの複写には、約7分間かかります。
なお、複写中は他のオペレーションの処理が遅れます。
3. RS-422AからS-BUSへの端子番号変換テーブル（2次局のメニュー項目「U」で設定）のデータは、副CPU基板に複写されません。
4. 1次局および2次局のメニュー画面[G:UPDATE BACKUP CONTROLLER]を用いて、主CPU基板から副CPU基板へデータをコピーする場合、**[Ctrl] - [D]**で操作を中断することができます。その時は、再度コピーしてください。なお、コピー操作を行わない場合でも、自動バックアップ機能により、約1時間後にはデータがバックアップされます。

H: SET GLOBAL PHANTOM

目的

リモートコントロールユニットにおける1回のキー操作で、複数のクロスポイントを同時に切り換える動作をファントム機能といいます。このとき、レベルの異なるクロスポイントも切り換え対象になります。

本メニューでは、グローバルファントムとして1次局に持たせるファントムデータの設定を行います。グローバルファントムでは、ファントムデータを1次局に管理させ、どのユニットからでも呼び出せるようにしています。グローバルファントムは、DVS-V6464B/V3232B、BKPF-R70またはHDS-V3232を1次局にした時に機能します。

ファントムデータには、最大4095個のクロスポイントを登録することができます。

設定手順

- メニュー項目「H」を選択します。グローバルファントムの一覧表が画面に表示されます。
- カーソルキーまたはファンクションキーで任意のグローバルファントム番号を選択し、**[Enter]**を押すと、編集画面に切り換ります。
メニュー画面へ戻る場合は、**[Ctrl] - [E]**を押します。

GLOBAL PHANTOM LIST				DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1 (4094 REMAIN)			
No	NAME	No	NAME	No	NAME	No	NAME
0001	GPHA001	0002		0003		0004	
0005		0006		0007		0008	
0009		0010		0011		0012	
0013		0014		0015		0016	
0017		0018		0019		0020	
0021		0022		0023		0024	
0025		0026		0027		0028	
0029		0030		0031		0032	
0033		0034		0035		0036	
0037		0038		0039		0040	
0041		0042		0043		0044	
0045		0046		0047		0048	
0049		0050		0051		0052	
0053		0054		0055		0056	
0057		0058		0059		0060	
0061		0062		0063		0064	

0=IN	1=OUT	2=.	3=.	4=.	5=.	6=.	7=.
8=.	9=.	A=.	B=.	C=.	D=.	E=.	F=GPHA

[F1]:SEARCH	[F2]:JUMP	[F3]:PgUp	[F4]:PgDn	[Ctrl]-E:RETURN TO MENU
--------------------	------------------	------------------	------------------	--------------------------------

グローバルファントムリストの画面例

ファンクションキーの操作方法

(グローバルファントム一覧画面)

[F1] : SEARCH(カーソルを希望するグローバルファントム名称へ移動します。)

- [F1]**を押すと、画面に“Please Input PHANTOM NAME=”と表示されます。
- 検索するグローバルファントム名称を入力します。
- [Enter]**を押すと、カーソルが目的の名称へ移動します。

[F2] : JUMP(カーソルを希望するグローバルファントム番号へ移動します。)

- [F2]**を押すと、画面に“Please Input PHANTOM NUMBER=”と表示されます。
- 検索するグローバルファントム番号を入力します。
- [Enter]**を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : Pg Up

[F3]を押すと、現在表示している16行から前の16行を表示します。

[F4] : Pg Dn

[F4]を押すと、現在表示している16行より次の16行を表示します。

- カーソルはグローバルファントム名称の入力位置に移動しているため、そのまま **[Enter]** を押すとグローバルファントム名称の入力モードになります。
- 各タイプ名称に割り当てられているコードを選択し、次に数字キーで任意の番号を入力します。**[Enter]** を押すとグローバルファントム名称が確定します。
[Ctrl] - [P] を押すと、グローバルファントム名称を削除できます。
- デスティネーションの入力位置にカーソルを移し、**[Enter]** を押すと入力モードになります。
- グローバルファントム名称と同じ要領で、デスティネーション名称を入力し、**[Enter]** を押して確定します。
- デスティネーション名称と同じ要領でソース名称を入力し、**[Enter]** を押して確定します。
- クロスポイントのレベルを設定します。任意のレベルにカーソルを移し、**[Enter]** を押すと設定内容が切り変わります。「H」の初期画面に戻る場合は、**[Ctrl] - [E]** を押します。

EDIT GLOBAL PHANTOM		DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1 (4094 REMAIN)									
0001	GPHA001	LEVEL: 1=VID 2=A1 3=A2 4=4 5=5 6=6 7=7 8=8									
OUT001	<IN001 VID										
OUT002	<IN002 VID	A1									
OUT003	<IN001 VID	A1	A2								
OUT004	<IN001 VID	A1	A2	4							
OUT005	<IN001 VID	A1	A2	4	5						
OUT006	<IN001 VID	A1	A2	4	5	6					
OUT007	<IN001 VID	A1	A2	4	5	6	7				
OUT008	<IN001 VID	A1	A2	4	5	6	7	8			
OUT009	<IN001 VID										
OUT010	<IN001 VID										
OUT011	<IN001 VID										
OUT012	<IN001 VID										
OUT013	<IN001 VID										
OUT014	<IN001 VID										
OUT015	<IN001 VID										
OUT016	<IN001 VID	A1	4	5	7	8					
0=IN	1=OUT	2=.	3=.	4=.	5=.	6=.	7=.				
8=.	9=.	A=.	B=.	C=.	D=.	E=.	F=.	GPHA			
[F1:SEARCH] [F2:ADD] [F3:DELETE] [F4:DstLvl] Ctrl-E:RETURN TO LAST MENU											

グローバルファントムの編集画面例

ファンクションキーの操作方法 (グローバルファントム編集画面)

[F1] : SEARCH (カーソルを希望するデスティネーション名称へ移動します。
操作方法は他の **[F1]** と同様です。

参考

メニュー項目「J」がディスクリプション名称モードに設定されている場合、**[F1]** (SEARCH) の機能は次のようになります。

- [F1]** を押すと、画面に “Please Input * * * * NAME =” と表示されます。
- 検索するディスクリプション名称を、先頭から7文字以内で入力します。
- [Enter]** を押すと、入力した文字の範囲で該当するディスクリプション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
- 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]** を押します。

[F2] : ADD (グローバルファントムとして設定するクロスポイントの列を追加します。)

[F3] : DELETE (クロスポイント列を削除します。)

- カーソルキーで削除したいデスティネーション名称を選択します。
- [F3]** を押します。

[F4] : DstLvl (カーソル位置のクロスポイントのレベルを、そのデスティネーションが持つ「E:SET LEVEL TABLE」で設定したレベルに戻します。)

- カーソルキーで初期値のレベルに戻したいデスティネーション名称を選択します。
- [F4]** を押します。

注意

メニュー項目「J」の名称設定モードの切り換えにより、グローバルファントム編集画面のデスティネーションおよびソースの名称表示が変わります。

J : NAME STYLE

目的

デスティネーションおよびソースの名称設定モードを切り換えます。「タイプ+番号」名称または、ディスクリプション名称を設定することができます。

本メニューの設定に従って、メニュー項目「C」、「D」、「E」、「H」、「L」、「M」、「N」、「O」、「Q」の各設定画面の名称表示が切り換わります。

設定手順

1. メニュー項目「J」を選択します。
2. **[Enter]** または **[J]** を押すたびに、メニュー画面中のメッセージが “Type+Num” → “DESCRIP. NAME” → “Type+Num” に切り換わります。

・デスティネーションとしてのディスクリプション名称の設定手順

3. メニュー項目「J」をディスクリプション名称モードにします。「J:NAME STYLE (DESCRIP. NAME)」
4. メニュー項目「C」を選択します。
5. カーソルキーで、設定したいデスティネーション番号を選択します。
6. **[Enter]** を押すと、入力モードになります。ディスクリプション名称が既に表示されている場合は、**[BS]** を押して消去してください。
7. アルファベットキーまたは数字キーで任意のディスクリプション名称を入力し、**[Enter]** を押して確定します。

注意

入力できる文字数は16文字ですが、BKS-R3281以外では7桁目までしか表示できません。また、名称としての識別も7桁目までしかしませんので、1～7桁目まで同一の名称を設定するとトラブルの原因となります。

ファンクションキーの操作方法

[F1] : SEARCH(カーソルを希望するデスティネーション名称へ移動します。)

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input DEST NAME =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション名称を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的のデスティネーション名称へ移動します。

[F2] : JUMP(カーソルを希望するデスティネーション番号へ移動します。)

1. **[F2]** を押すと、画面に “Please Input DEST NUMBER =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション番号を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : Pg Up

[F3] を押すと、現在表示している16行から前の16行を表示します。

[F4] : Pg Dn

[F4] を押すと、現在表示している16行より次の16行を表示します。

[F5] : PASTE (任意のディスクリプション名称をコピーします。)

1. コピー元のデスティネーション番号にカーソルを移します。
2. **[Space]** を押します。
3. カーソルをコピー先のデスティネーション番号上に置き、**[F5]** を押します。

注意

リモートコントロールユニット上のボタンに名称を設定する時は、一台の機器の中で同じ名称が重複しないように注意して下さい。

・ソースとしてのディスクリプション名称の設定手順

3. メニュー項目「J」をディスクリプション名称モードにします。
4. メニュー項目「D」を選択します。

以降の操作は、デスティネーションの場合と同じ要領で行います。

DESTINATION NUMBER TRANSCODE		DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1	
1.....7		1.....7	
001=OUT001 P	DST-012	002=OUT002	Hong Kong
003=OUT003	London	004=OUT004 P	Market
005=OUT005	New York	006=OUT006 P	Tokyo
007=OUT007	Toront	008=OUT008	OUT008
009=OUT009		010=OUT010 P	Net-1
011=OUT011	Net-2	012=OUT012	EDIT-2
013=OUT013	EDIT-5	014=OUT014	CG-A
015=OUT015	CG-B	016=OUT016	News-1
017=OUT017 P	OUT017	018=OUT018	Mountain
019=OUT019	Washington D.C.	020=OUT020	OUT020
021=OUT021	OUT021	022=OUT022	
023=OUT023	OUT023	024=OUT024	River
025=OUT025	OUT025	026=OUT026	OUT026
027=OUT027	OUT027	028=OUT028	OUT028
029=OUT029	Atlantic Ocean	030=OUT030	OUT030
031=OUT031	OUT031	032=OUT032	OUT032

[F1:SEARCH] **[F2:JUMP]** **[F3:PgUp]** **[F4:PgDn]** **[F5:PASTE]** **Ctrl-E:RETURN TO MENU**

デスティネーションの設定画面例

K:RESET TO DEFAULT TABLE

K:DEFAULT TABLE

目的

本メニューは、テーブルデータを初期化する際に使用します。テーブルデータの変更のみのときは、このプログラムを実行しないで下さい。

設定手順

1. メニュー項目「K」を選択します。画面の下にメッセージ“Reset to Default table? (y/n)”が表示されます。
2. **[Y]**を押すと、初期化が実行されます。初期化を行わない場合は、**[N]**を押します。

注意

メニュー項目「K」を実行すると、設定したテーブルデータやメモリーしているエラーメッセージの内容が全て失われますので注意してください。

L:SET PHYSICAL ASSIGNMENT

目的

仮想マトリックスのデスティネーション端子番号、ソース端子番号および仮想レベルに、各ルーティングスイッチャーの物理端子番号を割り当てます。

設定時に同じ番号が重複しないようご注意ください。

設定手順

1. メニュー項目「L」を選択します。
2. **[F5]**を押すたびに、設定画面がソース端子番号設定画面→デスティネーション端子番号設定画面→ソース端子番号設定画面と変わります。

・ソース端子番号設定手順

3. ソース端子番号設定画面にします。
4. カーソルキーで仮想マトリックスの端子番号列に割り当てられた物理端子番号と物理レベルを選択し、**[Enter]**を押すと、入力モードになります。
5. 数字キーで物理端子番号を入力し、**[Enter]**を押します。
6. 次に物理レベルを入力し、再度**[Enter]**を押すと確定します。

確定する前に**[Ctrl] - [F]**を押すと、入力前の端子番号とレベルに戻ります。もし入力したい端子番号とレベルが既に他で使われている場合は、その設定をあらかじめ削除する必要があります。

削除する端子番号とレベルにカーソルを移動して

[Ctrl] - [P]を押すと、選択した物理端子番号とレベルが削除されます。

・デスティネーション端子番号設定手順

[F5] でデスティネーション端子番号設定画面にします。以降の操作は、ソースの場合と同じ要領で行います。

PHYSICAL NUMBER ASSIGNMENT									
DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1									
DESTINATION		LEVEL							
No.	NAME	VID	A1	A2	4	5	6	7	8
001	OUT001	001-1	001-2	017-3	001-4	001-5	001-6	032-7	...
002	OUT002	002-1	...	018-3	002-4	005-5	002-6	031-7	...
003	OUT003	003-1	003-2	019-3	003-4	011-5	003-6	030-7	...
004	OUT004	004-1	004-2	020-3	004-4	...	004-6	...	...
005	OUT005	005-1	005-2	...	005-4	021-5	005-6	028-7	...
006	OUT006	006-1	006-2	...	006-4	026-5	006-6	027-7	...
007	OUT007	007-1	007-2	...	...	...	007-6	...	...
008	OUT008	008-1	008-2	...	...	036-5	008-6	025-7	...
009	OUT009	009-1	009-2	...	...	041-5	009-6	024-7	...
010	OUT010	001-8	010-2	...	...	046-5	010-6	023-7	...
011	OUT011	002-8	011-2	...	...	051-5	011-6	022-7	...
012	OUT012	003-8	012-2	...	...	...	012-6	021-7	...
013	OUT013	004-8	013-2	...	...	013-5	013-6	...	...
014	OUT014	005-8	014-2	...	...	014-5	014-6	...	...
015	OUT015	006-8	015-2	...	...	...	015-6	...	...
016	OUT016	007-8	016-2	...	...	...	016-6	017-7	...
017	OUT017	008-8	...	...	...	017-5	017-6	016-7	...
018	OUT018	009-8	...	...	...	018-5	018-6	015-7	...

F1: SEARCH F2: JUMP F3: PgUp F4: PgDn F5: SOURCE Ctrl-P: DELETE Ctrl-E: MENU

設定画面例

ファンクションキーの操作方法

[F1] : SEARCH |カーソルを希望するデスティネーション (ソース) 名称へ移動します。!

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input DEST (SOURCE) NAME =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション (ソース) 名称を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的の名称へ移動します。

参考

メニュー項目「J」がディスクリプション名称モードに設定されている場合、**[F1]** (SEARCH) の機能は次のようになります。

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input * * * * NAME =” と表示されます。
2. 検索するディスクリプション名称を、先頭から7文字以内で入力します。
3. **[Enter]** を押すと、入力した文字の範囲で該当するディスクリプション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
4. 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]** を押します。

[F2] : JUMP |カーソルを希望するデスティネーション (ソース) 番号へ移動します。!

1. **[F2]** を押すと、画面に “Please Input DEST (SOURCE) NUMBER =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション (ソース) 番号を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : Pg Up

[F3] を押すと、現在表示している16行から前の16行を表示します。

[F4] : Pg Dn

[F4] を押すと、現在表示している16行より次の16行を表示します。

[F5] : SOURCE (DEST)

[F5] を押すと、端子番号設定画面が、デスティネーション端子番号設定画面とソース端子番号設定画面の間で交互に切り換わります。

注意

1. 物理端子番号は、「A:SET UNIT LOCATION」で指定されたロケーションが物理端子番号となります。
2. リモートコントロールユニットのボタンには、仮想端子番号に付けられた端子名称および仮想のレベル名称を設定します。

M: SET INHIBIT TABLE

目的

デスティネーション名称ごとに、選択できないソースの端子番号を選択します。

シークレット機能では、個々のソース名称に対してシークレットを設定するため、設定されたソース信号は全てのデスティネーションに出力することができません。しかし、この機能の場合は、デスティネーションごとに接続できないソースの端子番号を設定することができます。

設定手順

1. メニュー項目「M」を選択します。
2. カーソルキーで各デスティネーション名称ごとにソースの端子番号を選択し、**[Enter]**を押すと、設定内容が切り換わります。

“x” 有効なクロスポイント

“-” 無効なクロスポイント

SET INHIBIT TABLE										DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1									
DEST	SOURCE																		
001	01--08	09--16	17--24	25--32	33--40	41--48	49--56	57--64											
OUT001	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT002	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT003	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xx---xx	xxxxx	xxxxx	xxxxxxx										
OUT004	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xx---xx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT005	xxx-xxxx	xxxxxxx	x-----	-----	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxx	xxxxx										
OUT006	xxxxxxx	xxx-xxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT007	xxxxxxx	xxxxxxx	x-----	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT008	xxxxxxx	xxxxxxx	xx-----	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxx	-----	xx	xxxxxxx										
DEST	SOURCE																		
009	01--08	09--16	17--24	25--32	33--40	41--48	49--56	57--64											
OUT009	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT010	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xx-----	-----	xxx	xxxxxxx										
OUT011	xxxxx-xx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xx-----	-----	xxx	xxxxxxx										
OUT012	xxxx-xxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT013	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	x---xxxx	--xxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT014	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	x---xxxx	--xxxxx	xxxxxxx										
OUT015	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										
OUT016	xxxxxxx	xxxx--xx	xxxx-xxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx	xxxxxxx										

F1:SEARCH F2:JUMP F3:LEFT F4:RIGHT Ctrl-E RETURN TO MENU

設定画面例

注意

本メニューの設定範囲は512x512ですが、使用するシステムのサイズ内でこのクロスポイントを無効にする設定を行ってください。(例えば、128x64のシステム使用時は、128x64の範囲内で設定する。)

システムサイズを越える範囲のクロスポイントは、自動的に無視されます。

ファンクションキーの操作方法

[F1] : SEARCH(カーソルを希望するデスティネーション名称へ移動します。)

1. **[F1]**を押すと、画面に“Please Input DEST NAME=”と表示されます。
2. 検索するデスティネーション名称を入力します。
3. **[Enter]**を押すと、カーソルが目的のデスティネーション名称へ移動します。

参考

メニュー項目「J」がディスクリプション名称モードに設定されている場合、**[F1]** (SEARCH) の機能は次のようになります。

1. **[F1]**を押すと、画面に“Please Input * * * * NAME=”と表示されます。
2. 検索するディスクリプション名称を、先頭から7文字以内で入力します。
3. **[Enter]**を押すと、入力した文字の範囲で該当するディスクリプション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
4. 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]**を押します。

[F2] : JUMP(カーソルを希望するデスティネーション番号へ移動します。)

1. **[F2]**を押すと、画面に“Please Input DEST NUMBER=”と表示されます。
2. 検索するデスティネーション番号を入力します。
3. **[Enter]**を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : LEFT

[F3]を押すと、画面が64ソース単位で左方向に切り換わります。

[F4] : RIGHT

[F4]を押すと、画面が64ソース単位で右方向に切り換わります。

N : SET DESCRIPTION NAME GROUP

目的

ディスクリプション名称を個々のリモートコントロールユニットに割り当てるため、ディスクリプション名称のグループを設定します。デスティネーションとソースのそれぞれにグループ1-8 (1グループ当り160名称を登録可) の範囲で設定することができます。なお、設定画面の上半分はグループ設定画面、下半分はディスクリプション名称リストです。

設定手順

1. メニュー項目「N」を選択します。
2. **[B]** を押し、カーソルをグループ番号のところへ移動します。
3. 数字キーでグループ番号を入力し、**[Enter]** を押して確定します。
4. **[F1]** (MOVE) を押し、画面下半分側にカーソルを移動します。
5. 任意の端子番号を選び、**[Enter]** を押します。そのディスクリプション名称が、グループ設定画面の最も若い空き番号にディスクリプション名称としてコピーされます。グループ設定画面のディスクリプション名称を削除する場合は、その番号にカーソルを移し、**[BS]** または **[DEL]**、**[Ctrl] - [P]** を押します。

DESCRIPTION NAME GROUP		DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1	
GROUP 1 160 REMAIN			
001		002	
003		004	
005		006	
007		008	
009		010	
011		012	
013		014	
015		016	
=====			
001=OUT001	OUT001	002=OUT002	OUT002
003=OUT003	OUT003	004=OUT004	OUT004
005=OUT005	OUT005	006=OUT006	OUT006
007=OUT007	OUT007	008=OUT008	OUT008
009=OUT009	OUT009	010=OUT010	OUT010
011=OUT011	OUT011	012=OUT012	OUT012
013=OUT013	OUT013	014=OUT014	OUT014
015=OUT015	OUT015	016=OUT016	OUT016
[F1:MOVE] [F2:JUMP] [F3:SOURCE] B:Group L:Copy S:Send Ctrl-E:RETURN TO MENU			

設定画面例

注意

1. リモートコントロールユニットでは、転送されたデータの管理と表示を全て端子番号で行います。これは、データ転送が端子名称ではなく、端子番号で行われるためです。
2. 1次局と2次局のグループデータの内容は、常に一致していなければなりません。グループデータの転送後、1次局のデータ内容を変更した場合は、必ず新しいデータを2次局に転送してください。

ファンクションキーの操作方法

[F1] : MOVE (カーソルを、画面上半分のグループ設定画面と、下半分のディスクリプション名称リストの間で移動させます。)

[F2] : JUMP (カーソルをグループ設定画面の希望する登録番号へ移動します。)

1. **[F2]** を押しと、画面に “Please Input ELEMENT NUMBER =” と表示されます。
2. 検索する登録番号を入力します。
3. **[Enter]** を押しと、カーソルが目的の番号へ移動します。

[F3] : SOURCE (DEST.)

[F3] を押しと、ディスクリプション名称リストがデスティネーションとソース間で交互に切り換わりします。

[B] : GROUP

[B] を押しと、カーソルがグループ設定画面のグループ番号へ移動します。

[L] : COPY (他のグループ番号の全データをコピーします。)

1. **[L]** を押しと、現在設定中のグループにコピーしたい、コピー元のグループ番号を尋ねるメッセージ “Please Input Original Group Number =” が表示されます。
2. コピー元のグループ番号を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。
3. 指定されたグループから設定中のグループへ、全データがコピーされます。

[S] : SEND (現在表示中のグループデータを2次局に転送します。)

1. **[S]** を押しと、グループデータを転送する2次局のステーション番号を尋ねるメッセージ “Please Input Station Number =” が表示されます。
2. 転送先のステーション番号を数字キーで入力し、**[Enter]** を押しと、その2次局にグループデータを転送します。

・ モニター系 S-BUS の 2 次局に転送する場合

モニター系 S-BUS の 2 次局へグループデータを転送する場合は、そのモニター系の 1 次局のステーション番号も指定する必要があります。

メッセージに対する転送先の指定は次のようになります。

Please Input Station Number = -

↑
モニター系の S-BUS の
1 次局のステーション番号

↑
モニター系 S-BUS の
2 次局のステーション番号

・ グループデータを全ての 2 次局に転送する場合

メッセージに対して **[A]** を入力すると、グループデータはモニター系を含むすべての 2 次局へ転送されます。

O: SET TIE LINES

目的

ルーティングスイッチャー間の結線情報を1次局に設定し、リモートコントロールユニットのボタン操作ひとつで複数のクロスポイントを切り換えるタイラインを設定します。タイラインの設定により、信号変換器等の周辺機器を効率よく利用してクロスポイントを接続することが可能になります。

タイラインは、4入出力端子を1つの単位（グループ）としてソースからデスティネーションに至る接続経路を設定します。ソースとデスティネーションは各々最大20グループ、経路情報は最大40グループの範囲でパスの指定を行なうことができます。

設定手順

2. 3台のスイッチャーを用いてタイライン管理を行う場合、次の手順でユニットの配置と各要素の設定を行ってください。

1. 2次局のメニュー画面 [A:SET UNIT LOCATION] で、入/出力端子番号を重複しないように複数台のスイッチャーのオフセット値を設定し、同一の物理レベル上に各スイッチャーを配置します。
2. 1次局のメニュー画面 [O:SET TIE LINE] で、タイラインの各要素を設定します。
メニュー項目「O」を選択します。
設定画面上半分にソースグループ設定画面、下半分にタイラインパス設定画面が表示されます。

SET TIE LINES		DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1	
SOURCE GROUPS			
S001: ... (OUT010)	S002: ... (OUT011)	S003: ... (OUT012)	S004: ... (OUT013)
S005: ... (OUT014)	S006: ... (OUT015)	S007: ... (OUT016)	S008: ... (OUT017)
=====			
P01:S -N -N -D	P02:S -N -N -D	P03:S -N -N -D	P04:S -N -N -D
P05:S -N -N -D	P06:S -N -N -D	P07:S -N -N -D	P08:S -N -N -D
P09:S -N -N -D	P10:S -N -N -D	P11:S -N -N -D	P12:S -N -N -D
P13:S -N -N -D	P14:S -N -N -D	P15:S -N -N -D	P16:S -N -N -D
P17:S -N -N -D	P18:S -N -N -D	P19:S -N -N -D	P20:S -N -N -D
F1:MOVE F2:JUMP F3:PgUp F4:PgDn F5:GROUP Ctrl-E:RETURN TO MENU			

ソースグループ設定画面例

3. カーソルキーで任意のソースグループ番号を選択し、**Enter** を押すと端子番号入力モードになります。
ここで、使用するソース名称を任意のソースグループに設定します。

4. 数字キーで端子番号を入力し、**Enter** を押して確定します。確定する前に **Ctrl** - **F** を押すと入力前のソース名称に戻ります。**Ctrl** - **P** を押すと、設定されていたソース名称が解除されて“.....”表示になります。
5. ソースグループ設定後、**F5** (GROUP) を押すと、画面上半分がデスティネーショングループ設定画面に切り換わります。

SET TIE LINES		DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1	
SOURCE GROUPS			
S001: 010 (OUT010)	S002: ... (.....)	S003: ... (.....)	S004: ... (.....)
S005: ... (.....)	S006: ... (.....)	S007: ... (.....)	S008: ... (.....)
=====			
P01:S -N -N -D	P02:S -N -N -D	P03:S -N -N -D	P04:S -N -N -D
P05:S -N -N -D	P06:S -N -N -D	P07:S -N -N -D	P08:S -N -N -D
P09:S -N -N -D	P10:S -N -N -D	P11:S -N -N -D	P12:S -N -N -D
P13:S -N -N -D	P14:S -N -N -D	P15:S -N -N -D	P16:S -N -N -D
P17:S -N -N -D	P18:S -N -N -D	P19:S -N -N -D	P20:S -N -N -D
F1:MOVE F2:JUMP F3:PgUp F4:PgDn F5:GROUP Ctrl-E:RETURN TO MENU			

デスティネーショングループ設定画面例

6. ソースグループと同じ要領で、デスティネーショングループを設定します。
7. デスティネーショングループ設定後、**F5** (GROUP) を押してネットグループ設定画面に切り換えます。

SET TIE LINES		DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1	
NET GROUPS			
N001: LEVEL= 1 2			
020 (OUT020) > 021 (IN021)	022 (OUT022) > 023 (IN023)	024 (OUT024) > 025 (IN025)	026 (OUT026) > 027 (IN027)
N002: LEVEL= 3 4			
028 (OUT028) > 029 (IN029)	030 (OUT030) > 031 (IN031)	032 (OUT032) > 033 (IN033)	034 (OUT034) > 035 (IN035)
LEVEL: 1=VID 2=A1 3=A2 4=A 5=5 6=6 7=7 8=8			
=====			
P01:S -N -N -D	P02:S -N -N -D	P03:S -N -N -D	P04:S -N -N -D
P05:S -N -N -D	P06:S -N -N -D	P07:S -N -N -D	P08:S -N -N -D
P09:S -N -N -D	P10:S -N -N -D	P11:S -N -N -D	P12:S -N -N -D
P13:S -N -N -D	P14:S -N -N -D	P15:S -N -N -D	P16:S -N -N -D
P17:S -N -N -D	P18:S -N -N -D	P19:S -N -N -D	P20:S -N -N -D
F1:MOVE F2:JUMP F3:PgUp F4:PgDn F5:GROUP Ctrl-E:RETURN TO MENU			

ネットグループ設定画面例

8. カーソルキーでネットグループ番号を選択し、**[Enter]**を押して入力モードにします。
ここで、使用するルーティングスイッチャー間のパスを(前段のスイッチャーの OUT) > (後段のスイッチャーの IN)の組み合わせで設定します。
9. 数字キーでソースとデスティネーションの端子番号を入力し、**[Enter]**で確定します。
レベルの変更は、変更したいレベルにカーソルを移し、**[Enter]**を押します。
10. **[F1]** (MOVE) を押してカーソルをタイラインパス設定画面に移します。
ここで、使用するタイラインのパスを(ソースグループ) – (ネットグループ) – (ネットグループ) – (デスティネーショングループ)の組み合わせで設定します。
(ネットグループ) は2つまで設定できますが、接続するルーティングスイッチャーが2台の時は、1つの(ネットグループ) を空欄にしてください。
11. 任意のパス番号にカーソルを移し、**[Enter]**を押すと、ソースグループの入力モードになります。
12. ソースグループの番号を入力し、**[Enter]**を押すと、カーソルがネットグループに移動します。ソースグループと同じ要領で、ネットグループとデスティネーショングループのグループ番号を入力します。1つのパスに2つまでネットグループを入れることができます。
13. 以上の操作を繰り返し、各パス番号にソース、デスティネーション、ネットの各グループを割り付けます。

ファンクションキーの操作方法

- [F1]** : MOVE
(カーソルを画面上／下の間で移動させます。)
- [F2]** : JUMP (カーソルを希望するグループ番号へ移動します。)
1. **[F2]** を押すと、画面に “Please Input GROUP NUMBER =” と表示されます。
 2. 検索するグループ番号を入力します。
 3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的の番号へ移動します。
- [F3]** : Pg Up
[F3] を押すと画面上半分の表示が変わり、前の6行を表示します。
- [F4]** : Pg Dn
[F4] を押すと画面上半分の表示が変わり、次の6行を表示します。
- [F5]** : GROUP (カーソルが上部画面にあるとき、**[F5]** を押すとソース Gp→デスティネーション Gp→ネット Gpの順で画面を切り換えます。)
- [F5]** : DISP (カーソルが下部画面にあるとき、**[F5]** を押すとパス→ソース名称→デスティネーション名称の順に画面を切り換えます。)

P: CHANGE PASSWORD

目的

本メニューは、パスワードを変更する際に使用します。

設定手順

1. メニュー項目「P」を選択します。
2. 現在設定されているパスワードを入力し、**[Enter]**を押します。
DVS-V3232B/V6464B は、パスワードが未設定で工場出荷されます。いったんパスワードを設定すると、次回からはそのパスワードが必要になります。
誤ったパスワードを入力すると、パスワードの入力要求が再表示されます。
3. 新パスワードを入力して **[Enter]** を押すと、再度確認します。
4. 新パスワードが2回確定するとメニュー画面に戻ります。
5. 確定しない時は再度要求します。

CHANGE PASSWORD	DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1
Please Input New Password = _____*	
Ctrl-E: RETURN TO MENU	

DVS-V6464B 初期設定画面例

注意

パスワードを忘れると、DEFAULTに戻さなければ設定動作に入れなくなります。もしDEFAULTに戻した場合、全てのテーブルデータが消失してしまうため、パスワードの取り扱いには充分注意してください。

Q: CHANGE CROSSPOINT

目的

本メニューは、現在のクロスポイントの状態を表示すると共に、クロスポイントの変更を行う際に使用します。

設定手順

1. メニュー項目「Q」を選択します。
2. カーソルキーでソース名称を選択します。変更はソース名称のみ可能です。
3. **[Enter]** を押すと、ソース名称の入力モードになります。ソース名称を入力する前に **[Enter]** を押すと、入力モードはキャンセルされて元の表示に戻ります。
4. アルファベットキーと数字キーでソース名称を入力します。
5. **[Enter]** を押すと確定します。
確定する前に **[Ctrl] - [F]** を押すと、入力前の設定に戻ります。
[Ctrl] - [E] を押すとメニュー画面に戻ります。

注意

1. 1次局の電源投入直後は、ソース名称には“.....”が表示されますが、クロスポイントの状態が検出され次第ソース名称が表示されます。
電源投入直後でも、変更が行われたクロスポイントはすみやかに表示されます。
2. デステイネーション名称を登録していない出力端子には“.....”が表示され、クロスポイントの変更を行うことはできません。
3. プロテクトが設定されている名称は、クロスポイントの変更を行うことはできません。
4. ディスクリプション名称を入力する時は、名称の先頭から7文字までを入力します。

CHANGE CROSSPOINT				DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1			
				LEVEL=1			
DEST	SOURCE	DEST	SOURCE	DEST	SOURCE	DEST	SOURCE
OUT001	-IN001	OUT002	-IN002	OUT003	-IN003	OUT004	-IN004
OUT005	-IN005	OUT006	-IN006	OUT007	-IN007	OUT008	-IN008
OUT009	-IN009	OUT010	-IN010	OUT011	-IN011	OUT012	-IN012
OUT013	-IN013	OUT014	-IN014	OUT015	-IN015	OUT016	-IN016
OUT017	-IN017	OUT018	-IN018	OUT019	-IN019	OUT020	-IN020
OUT021	-IN021	OUT022	-IN022	OUT023	-IN023	OUT024	-IN024
OUT025	-IN025	OUT026	-IN026	OUT027	-IN027	OUT028	-IN028
OUT029	-IN029	OUT030	-IN030	OUT031	-IN031	OUT032	-IN032
OUT033	-IN033	OUT034	-IN034	OUT035	-IN035	OUT036	-IN036
OUT037	-IN037	OUT038	-IN038	OUT039	-IN039	OUT040	-IN040
OUT041	-IN041	OUT042	-IN042	OUT043	-IN043	OUT044	-IN044
OUT045	-IN045	OUT046	-IN046	OUT047	-IN047	OUT048	-IN048
OUT049	-IN049	OUT050	-IN050	OUT051	-IN051	OUT052	-IN052
OUT053	-IN053	OUT054	-IN054	OUT055	-IN055	OUT056	-IN056
OUT057	-IN057	OUT058	-IN058	OUT059	-IN059	OUT060	-IN060
OUT061	-IN061	OUT062	-IN062	OUT063	-IN063	OUT064	-IN064
0=IN	1=OUT	2=	3=	4=	5=	6=	7=
8=	9=	A=	B=	C=	D=	E=	F=GPHA
F1:SEARCH F2:JUMP F3:PgUp F4:PgDn F5:Level Ctrl-E: RETURN TO MENU							

設定画面例

ファンクションキーの操作方法

[F1] : SEARCH (デスティネーション選択時)

1. **[F1]** を押すと、画面に “Please Input DEST NAME =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション名称を入力します。ディスクリプション名称の時は、先頭から7文字以内で入力します。
3. **[Enter]** を押すと、該当するデスティネーション名称を検索し、その名称が含まれるページを画面上に表示します。
4. 表示されたページ中に目的の名称がない場合は、再度 **[F1]** を押します。

[F1] : SEARCH (ソース選択時)

ディスクリプション名称モード時に入力選択を行う場合、**[F1]** の機能は次のようになります。

1. **[Enter]** を押し、ソース名称の入力モードにします。
2. ディスクリプション名称を先頭から7文字以内で入力します。
3. **[F1]** を押すたびに、該当するソースのディスクリプション名称を検索し、それを表示します。目的の名称がない場合は、**[F1]** を繰り返すことにより目的の名称を捜します。
4. 目的の名称が表示された時に **[Enter]** を押すと、クロスポイントが切り換わります。

[F2] : JUMP (カーソルを希望するデスティネーション番号へ移動します。)

1. **[F2]** を押すと、画面に “Please Input DEST NUMBER =” と表示されます。
2. 検索するデスティネーション番号を入力します。
3. **[Enter]** を押すと、カーソルが目的のデスティネーション番号へ移動します。

[F3] : Pg Up

[F3] を押すと、現在表示している16行から前の16行を表示します。

[F4] : Pg Dn

[F4] を押すと、現在表示している16行より次の16行を表示します。

[F5] : LEVEL

[F5] を押すとレベルの選択ができます。数字キーでレベル番号を選択し、**[Enter]** を押します。このとき、数字キーの代わりに **[A]** を入力し、**[Enter]** を押すと、全レベルの一覧が画面に表示されます。この ALL 画面におけるファンクションキー **[F1]**、**[F2]**、**[F5]** の機能は、メニュー項目「Q」の初期画面と同様です。

CHANGE CROSSPOINT				DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1							
				LEVEL=ALL							
LEVEL											
No.	out	1=V1D	2=A1	3=A2	4=4	5=5	6=6	7=7	8=8		
001	OUT001	IN001	IN001	IN017	IN001	IN001	IN001	IN001	IN001		
002	OUT002	IN002	IN002	IN018	IN002	IN002	IN002	IN002	IN002		
003	OUT003	IN003	IN003	IN019	IN003	IN003	IN003	IN003	IN003		
004	OUT004	IN004	IN004	IN020	IN004	IN004	IN004	IN004	IN004		
005	OUT005	IN005	IN005		IN005	IN005	IN005	IN005	IN005		
006	OUT006	IN006	IN006		IN006	IN006	IN006	IN006	IN006		
007	OUT007	IN007	IN007		IN007	IN007	IN007	IN007	IN007		
008	OUT008	IN008	IN008		IN008	IN008	IN008	IN008	IN008		
009	OUT009	IN009	IN009		IN009	IN009	IN009	IN009	IN009		
010	OUT010	IN010	IN010		IN010	IN010	IN010	IN010	IN010		
011	OUT011	IN011	IN011		IN011	IN011	IN011	IN011	IN011		
012	OUT012	IN012	IN012		IN012	IN012	IN012	IN012	IN012		
013	OUT013	IN013	IN013		IN013	IN013	IN013	IN013	IN013		
014	OUT014	IN014	IN014		IN014	IN014	IN014	IN014	IN014		
015	OUT015	IN015	IN015	IN015	IN015	IN015	IN015	IN015	IN015		
016	OUT016	IN016	IN016	IN016	IN016	IN016	IN016	IN016	IN016		
0=IN 1=OUT 2=... 3=... 4=... 5=... 6=... 7=...											
8=... 9=... A=... B=... C=... D=... E=... F=GPHA											
F1:SEARCH				F2:JUMP				F5:Level			
Ctrl-E: RETURN TO MENU											

設定画面例

R:CALL SECONDARY STATION

目的

本メニューを使用して、1次局のS-BUSに接続している2次局のメニュー画面を呼び出します。

手順

1. メニュー項目「R」を選択します。画面上にメッセージが表示されます。
2. 設定する2次局のステーション番号を数字キーで入力し、次に **Enter** を押します。これにより、呼び出された2次局のメニュー画面に変わります。
3. **Ctrl** - **D** を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

1. 指定した2次局がS-BUSデータリンク上に存在しない場合は、エラーが表示されます。
表示: "Station dose not exist"
2. 指定した2次局が通信の対象外の場合には、エラーが表示されます。
メニュー項目「F:SET ACTIVE UNIT NUMBER」で確認してください。
表示: "Disable Station"

CALL STATION NUMBER ?

Ctrl-E:RETURN TO MENU

設定画面

S:SELECT INDICATION COLOR (HDS-V3232, BKPF-R70 を除く)

目的

本メニューを“ON”に設定すると、ソニーコントロールターミナル BAC-1200 使用時にカラー表示となります。

設定手順

1. メニュー項目「S」を選択します。
2. **S** または **Enter** を押すと、表示されている設定状態が切り換わります (“ON” → “OFF” → “ON”)。

注意

ソニーコントロールターミナル BAC-1200 以外のコントロールターミナルを使用しているときは、メニューの文字の前後に不要な表示が出ますので、“OFF” に設定してください。

T:SET CLOCK

目的

本メニューは、時刻の設定を行います。ここで設定した時刻は、エラーの発生時刻を記録する際に使用します。

設定手順

1. メニュー項目「T」を選択します。
2. 数字キーで時刻を入力し、**Enter**を押すと確定します。画面は自動的にメニュー画面に戻ります。

注意

Enterを押さないで **Ctrl** - **E** でメニュー画面に戻ると、時刻の変更は無効になります。

```
1993.02.03-22:24 (Y.M.D-H:M) READ TIME
CHANGE TO = 1993.02.03-22:24
```

Ctrl-E:RETURN TO MENU

設定画面例

U:SELECT CONTROL MODE

目的

ルーティングスイッチャーを9ピンリモートコントロール (REMOTE 2) で制御する場合、本メニューで制御モードをDIRECTモードかS-BUS変換モードのどちらかに設定します。

設定手順

1. メニュー項目「U」を選択します。
2. カーソルキーでCHANNELを選択します。
3. **Enter**を押すと、表示されている設定状態が変化します。

DIRECT <=> CONVERT RS422 (CART+) to S-BUS

```
SELECT CONTROL MODE          DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1

CHANNEL A --- REMOTE FUNCTION = CONVERT RS422 (CART+) to S-BUS

CHANNEL B --- REMOTE FUNCTION = DIRECT

Ctrl-E:RETURN TO MENU
```

設定画面例

DIRECT:

RS-422Aで受信したコマンドをREMOTE 1のS-BUSに変換せず、受信局内部を対象として制御するモード。DIRECTを選択した場合は、2次局側でプロトコルを選択する必要があります。

CONVERT RS-422 (CART+) to S-BUS:

RS-422Aで受信したコマンドをS-BUSに変換するモードです。

参考

UA2の使い方:

RS-422AにおけるUA2コードの本来の使い方は、ループスルーによって接続された複数の機器を区別してコントロールすることにあります。

それぞれの機器のユニット・アドレスに対応したUA2を持つコントロール・コマンドによって、各機器を制御します。一方、ルーティングスイッチャーにおいては、RS-422AコマンドからS-BUSに変換する際に、UA2をレベル・コントロール・コマンドに置き換えています。

すなわち、UA2を用いて、以下のようにレベルを表わしています。

UA2 = 01 → 00000001 → S-BUS level 1
 UA2 = 02 → 00000010 → S-BUS level 2
 UA2 = 04 → 00000100 → S-BUS level 3
 UA2 = 08 → 00001000 → S-BUS level 4
 UA2 = 10 → 00010000 → S-BUS level 5
 UA2 = 20 → 00100000 → S-BUS level 6
 UA2 = 40 → 01000000 → S-BUS level 7
 UA2 = 80 → 10000000 → S-BUS level 8
 UA2 = FF → 11111111 → S-BUS All levels

また、

UA2 = 03 → 00000011 → S-BUS level 1, and 2
 UA2 = 07 → 00000111 → S-BUS level 1, 2 and 3

のような組み合わせも可能です。

注意

S-BUS変換モードは、1次局の9ピンリモートコントロールで制御する場合のみ有効です。従って2次局の9ピンリモートコントロールは、常にDIRECTモードです。

V: SELECT WARNING DISPLAY**目的**

本メニューは、システムステータス画面に表示される警告表示を選択する際に使用します。

設定手順

1. メニュー項目「V」を選択します。
2. **[V]** または **[Enter]** を押すと、表示されている設定状態が“ON” ↔ “OFF” 間で切り換ります。

“OFF”: 重要なメッセージのみを表示

《参考》

“X-POINT ERROR IN STATION **”

“X-POINT RECOVERED IN STATION **”

“TEMPRATURE RISE IN STATION **”

“TEMPRATURE RECOVERED IN STATION **”

“FAN STOP IN STATION **”

“FAN RECOVERED IN STATION **”

“S-BUS LINK DISCONNECTED TO CHANNEL”

“S-BUS LINK CONNECTED TO CHANNEL”

“ON”: すべてのメッセージを表示

上記以外に下記のものを表示します。

《参考》

“BACKUP POWER SUPPLY DOWN IN STATION **”

“BACKUP POWER SUPPLY RECOVERED IN STATION **”

“MISSING REFERENCE SIGNAL IN STATION **”

“REFERENCE SIGNAL CORRECTLY FED TO STATION **”

“VALID INPUT OR OUTPUT BOARD IN STATION **”

“INVALID INPUT OR OUTPUT BOARD IN STATION **”

“BACKUP CPU DOWN IN STATION **”

“BACKUP CPU RECOVERED IN STATION **”

“STATION ** FAILURE (DISCONNECTED OR POWER DOWN)”

“STARTED BY DVS-V6464B Ver1.00 IN STATION **”

“DIFFERENT CHECK SUM = 35DB IN STATION **”

注意

機種により表示されないメッセージもあります。

W:SYSTEM STATUS LOG

目的

本メニューは、各ステーションの自己診断時のエラーおよびS-BUS回線の状態や、状態が変化した時刻を確認する際に使用します。

SYSTEM STATUS LOG	DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1
1990.10.12-15:42 S-BUS LINK DISCONNECTED	
1990.10.27-09:28 STARTED BY BKS-R1601 Ver3.10 IN STATION 11	
1990.11.03-05:31 STARTED BY BKS-R3204 Ver3.11 IN STATION 32	
1991.01.14-13:51 MISSING REFERENCE SIGNAL IN STATION 1	
1991.02.01-11:15 POWER SUPPLY UNIT B DOWN IN STATION 4	
1991.02.04-06:11 X-POINT ERROR IN STATION 1	
-- end --	
	Ctrl-E: RETURN TO MENU

表示画面例

操作手順

1. メニュー項目「W」を選択します。
2. すべてのステータスを1画面に表示できない場合は、表示画面の下に“-- more --”が表示されます。
[SPACE]を押すと、次のステータスが表示されます。すべてのステータスが表示されると、“-- end --”が表示されます。
3. **[Ctrl] - [E]**を押すとメニュー画面に戻ります。

システムステータス表示の詳細は、「第6章 動作確認」を参照してください。

注意

DVS-V3232B/V6464Bでは、CPU-149基板上のS3スイッチを“C”(Clear)の位置に設定し、RESET (S5)を押すとLOG内容が消去されます。消去後は、必ずS3スイッチを“0”の位置に戻して、再度RESET (S5)を押してください。

HDS-V3232では、CPU-251基板上のS2スイッチを“C”(Clear)の位置に設定し、RESET (S8)を押すとLOG内容が消去されます。消去後は、必ずS2スイッチを“0”の位置に戻して、再度RESET (S8)を押してください。

X:DISPLAY S-BUS COMMUNICATION

目的

本メニューは、1次局で受信したS-BUSデータを表示する際に使用します。

設定手順

1. メニュー項目「X」を選択します。
2. 表示のスクロールを中断する場合は、**[Ctrl] - [E]**を押します。(画面に“TRACE OFF”が表示されます。)
3. 再度**[Ctrl] - [E]**を押すとメニュー画面に戻ります。

S-BUS COMMUNICATION	TRACE ON
STATION No. 011 01 01 0B 03 0E 00 08	
STATION No. 015 01 09 0F 03 0E 00 08	
STATION No. 011 01 01 0A FF 01 00 01	
STATION No. 011 01 01 0F FF 01 00 01	
TRACE OFF	
	Ctrl-E: RETURN TO MENU

表示画面例

注意

表示内容については、S-BUSプロトコルマニュアルを参照してください。

Y : DISPLAY TABLE (HDS-V3232 を除く)

目的

本メニューは、コントロールターミナルで設定したテーブルデータを表示する際に使用します。

操作手順

1. メニュー項目「Y」を選択します。画面の下にメッセージが表示されます。
表示: “DISPLAY TABLE DATA ? (y/a/n)”
2. **[Y]** を押すと、各端子に設定された信号フォーマット (4: 2:2/4fsc) が16進数で表示されます。
(DVS-V****シリーズのみです。) **[Y]** の代わりに **[A]** を押すと、すべてのテーブルデータが16進数で表示されます。
[N] を押すと、テーブルデータの表示を実行しません。
3. 表示中に **[SPACE]** を押すと、表示を中断します。再度 **[SPACE]** を押すと、表示を再開します。
4. **[Ctrl] - [E]** を押すと表示を中断し、メニュー画面に変わります。

```

DISPLAY TABLE DATA                                DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1

0000:49 4E 00 00 00 00 00 00 4F 55 54 00 00 00 00 00 : IN.....OUT.
0010:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0020:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0030:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0040:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0050:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0060:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0070:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
0080:56 49 44 00 00 00 00 00 41 31 00 00 00 00 00 : VID.....A1..
0090:41 32 00 00 00 00 00 00 34 00 00 00 00 00 00 : A2.....4....
00A0:35 00 00 00 00 00 00 00 36 00 00 00 00 00 00 : 5.....6....
00B0:37 00 00 00 00 00 00 00 38 00 00 00 00 00 00 : 7.....8....
00C0:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
00D0:00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 : .....
00E0:00 00 00 00 00 00 00 00 02 FF FF 10 00 00 02 : .....

```

表示画面例

注意

テーブルデータの内容は、S-BUSプロトコルマニュアルを参照してください。

Z:SET UNIT DETECTABLE

目的

本メニューは、S-BUSデータリンク上に接続された2次局が通信可能な状態にあるかどうかを定期的に検査できるように、2次局の設定を行います。

検査時は“?”が表示されますが、検査終了後は各構成機器の種類を示す番号が表示されます。

また、2次局が一定時間通信不可能になった場合は、下記メッセージが表示されます。

“STATION *** FAILURE (DISCONNECT OR POWER DOWN)”
 ↳ ステーション番号

設定手順

1. メニュー項目「Z」を選択します。
2. カーソルキーで、検査したい2次局を選択します。
3. **Enter** を押すと、“?”が表示されます。
“?”表示を取り消す場合は、再度 **Enter** を押してください。
4. **Ctrl** - **E** を押すと、メニュー画面に変わります。
5. 約10秒後、メニュー項目「Z」を選択すると、通信可能な状態にある2次局は“?”表示から機種番号表示に切り換わります。

注意

この検査を行う2次局は、あらかじめメニュー項目「F:SET ACTIVE UNIT NUMBER」で通信可能状態にしておく必要があります。

SET UNIT	Detectable	DVS-V6464B V2.10	Station Number	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
										+														
001-020	M	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
021-040	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
041-060	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
061-080	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?
081-100																								
101-120																								
121-140																								
141-160																								
161-180																								
181-200																								
201-220																								
221-240																								
241-254																*	*	*	*	*	*	*	*	*
01: DVS-V1616	02: DVS-V3232	03: DVS-A3232	04: BKS-R1601	05: BKS-R3202	06: BKS-R3203	07: BKS-R3281	08: DVS-V6464	09: BKS-R5000	10: DVS-RS1616	11: DVS-TC3232	12: BKDM-5080	13: BKS-R3204	14: BKS-R3205	15: BKS-R3206	16: BKS-R3280	17: BZR-1000	18: DVS-V3232B	19: DVS-V6464B						

Ctrl-E: RETURN TO MENU

設定画面例

5-2. 2次局の設定項目

A: SET UNIT LOCATION

目的

本メニューは、ルーティングスイッチャーのレベルや、入出力端子のロケーションを設定する際に使用します。

設定手順

1. メニュー項目「A」を選択します。
2. カーソルキー（←, →）で設定項目を選択します。
3. **[Enter]**を押すと、ソース側（入力端子）とデスティネーション側（出力端子）のオフセット値や、ルーティングスイッチャーのレベル設定が可能になります。
4. 数字キーでロケーションの先頭値を入力します。
5. **[Enter]**を押すと、設定値が確定します。
確定する前に **[Ctrl] - [F]** を押すと、入力前の設定値に戻ります。
ロケーションは、設定したオフセット値から連続番号が割り当てられます。下表に先頭値から割り当てられる入力範囲と出力範囲、及び設定範囲を示します。

機種名	入力範囲	出力範囲	設定範囲	同等機種名
DVS-V6464B	64	64	1～512	
DVS-V3232B HDS-V3232	32	32	1～512	
DVS-A3232	256	32	1～256	DVS-TC3232 BVS-V3232 BVS-A3232
DVS-V1616	16	16	1～512	
DVS-RS1616	128	16	1～128	

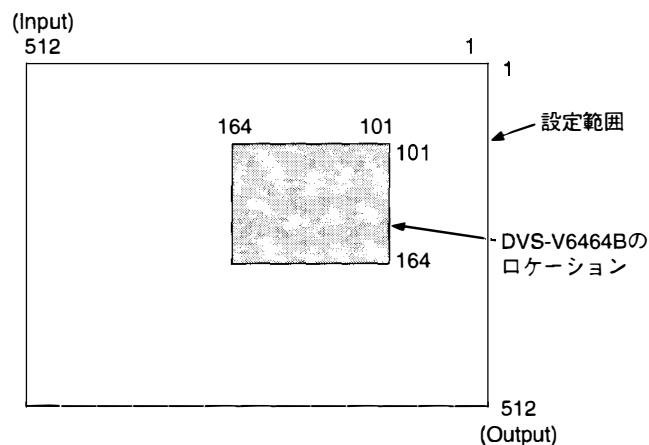
6. **[Ctrl] - [E]** を押すと2次局のメニュー画面に戻ります。

SET UNIT LOCATION		DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1	
SOURCE No 0001-0064	DESTINATION No 0001-0064	LEVEL No 1	
Ctrl-E: RETURN TO MENU			

設定画面例

注意

1. 初期状態では、先頭値は1に設定されています。
2. DVS-V3232B/V6464B, BKPF-R70またはHDS-V3232を1次局にした場合は、メニュー項目「L: SET PHYSICAL ASSIGNMENT」でより自由なロケーションの設定ができます。本メニューの設定値は、物理端子番号です。一方、リモートコントロールユニットからのクロスポイントの選択は、PHYSICAL ASSIGNMENTで設定された仮想端子番号で行います。PHYSICAL ASSIGNMENTの初期状態では、
(物理端子番号) = (仮想端子番号) となっています。



G: UPDATE BACKUP CONTROLLER

目的

本メニューは、2次局の主CPU基板に保持しているテーブルデータを、副CPU基板（バックアップ用）に複写する際に使用します。

この設定は、2次局に副CPU基板が設置されている時のみ有効です。

設定手順

1. メニュー項目「G」を選択します。画面の下にメッセージ “This process requires about 1 minutes. Execute ? (y/n)” が表示されます。
2. **[Y]** を押すとテーブルデータの複写を実行します。複写を実行しない場合は、**[N]** を押してください。
3. 複写の終了後、画面の同じ位置に “PROGRAM TABLE? (y/n)” と表示する機器をご使用の場合は、続けて **[Y]** を押します。

注意

1. 主CPU基板のROMバージョンと、副CPU基板のROMバージョンは、必ず同じものにしてください。バージョンが異なると、複写を実行した後ハングアップすることがあります。そのときは、副CPU基板を取り外してください。
これは、ソフトウェアの機能アップが図られたことにより、旧バージョンでは使用されていなかったテーブルデータが利用されるようになったためです。
2. テーブルデータの複写には、約1分間かかります。
3. RS-422A から S-BUS への端子番号変換テーブル（2次局のメニュー項目「U」で設定）のデータは、副CPU基板に複写されません。
4. 1次局および2次局のメニュー画面 [G: UPDATE BACKUP CONTROLLER] を用いて、主CPU基板から副CPU基板へデータをコピーする場合、**[Ctrl] - [D]** で操作を中断することができます。その時は、再度コピーしてください。なお、コピー操作を行わない場合でも、自動バックアップ機能により、約1時間後にはデータがバックアップされます。

-

—

[illegible][illegible]

5-27

5. **[Enter]** を押すと、ファントムテーブルの設定が確定します。
6. **[Ctrl] - [E]** を押すと、2次局のメニュー画面に変わります。
[Ctrl] - [D] を押すと1次局のメニュー画面に戻ります。

・ファントムの実行

各リモートコントロールユニットから、ファントムを実行する際、このファントムテーブルに従って動作します。

また、レベルを指定しての切り換えが可能です。レベル“0”が指定されたときのレベル値は、ファントムテーブルに設定したデスティネーション名称のレベル設定に従います。

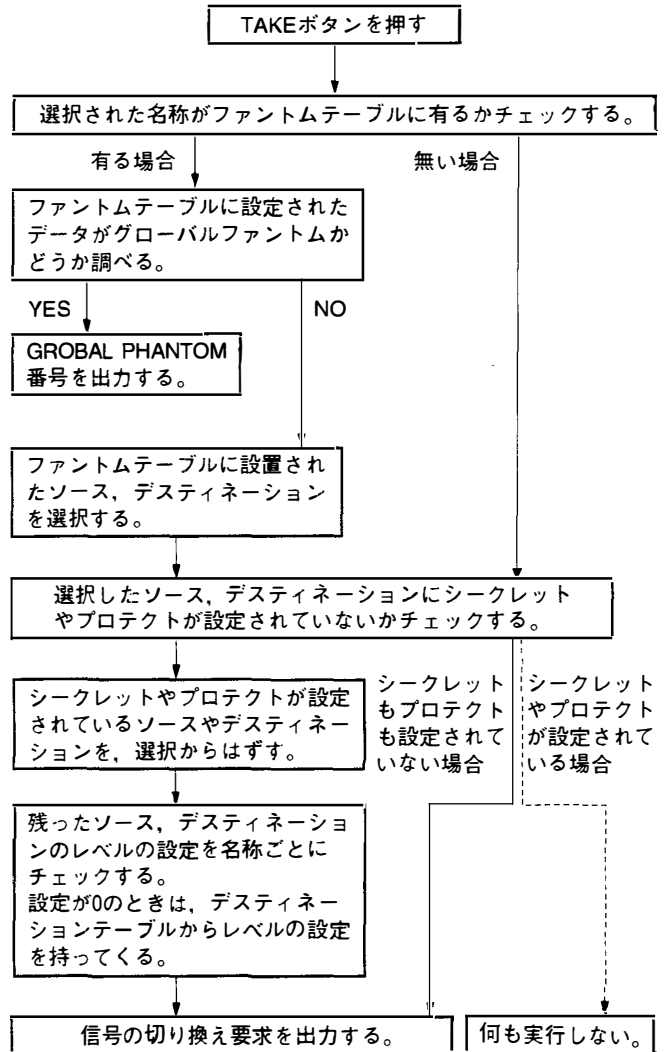
(1次局のメニュー項目「E:SET LEVEL TABLE」で設定) 表示は次のとおりです。

[ファントム名称:出力端子名称<入力端子名称-レベル値]

TAKE ボタンを押したときの内部処理について：

ソースまたはファントムを選択した後にTAKEボタンを押すと、内部では次ような処理を行います。

BKS-R1607/R1608/R3209/R3210 においては、ソース選択ボタンを押すことにより、TAKE がただちに実行されます。



K: RESET TO DEFAULT TABLE K: DEFAULT TABLE

目的

本メニューは、テーブルデータを初期化する際に使用します。テーブルデータの変更のみのときは、このプログラムを実行しないで下さい。

設定手順

1. メニュー項目「K」を選択します。画面の下にメッセージ“Reset to Default table? (y/n)”が表示されます。
2. **[Y]**を押すと、初期化が実行されます。初期化を行わない場合は、**[N]**を押します。

注意

メニュー項目「K」を実行すると設定したテーブルデータの内容は全て失われますので注意してください。

L: COPY TABLE DATA

目的

本メニューは、既に設定されたりリモートコントロールユニットから設定内容を複製する時に使用します。

Ver.3.00以上のBKS-R1601/R3202/R3203/R3204/R3205、およびR3206およびBKS-R1607/R1608/R3209/R3210が対象です。

設定手順

1. **[L]**を押します。このキーは、メニュー画面から入ることとは勿論、他の設定状態で押しても有効です。
2. 画面にメッセージ“Station Number?”が表示されますので、コピー元のステーション番号を入力します。コピーするテーブル名をA, P, B, Dの中から選択し、アルファベットキーで入力します。
3. **[Enter]**を押すとコピーが実行され、設定画面に戻ります。
[Ctrl] - [E]を押すと、2次局のメニュー画面に戻ります。
[Ctrl] - [D]を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU   BKS-R3202 V3.10 STATION NUMBER 6

A:Copy All table
P:Copy PHANTOM table
B:Copy PANEL table
D:Copy Available Destination table
Inputs A, P, B, D, 0-9 Selected = A
Station Number ?

Ctrl-E: MENU Ctrl-D: RETURN

```

設定画面例

Selected = A 全ての設定データがコピーされます。

Selected = P 「SET PHANTOM TABLE」で設定されたデータがコピーされます。

Selected = B 「SET PANEL TABLE」で設定されたデータがコピーされます。

Selected = D 「SET AVAILABLE DESTINATION」で設定されたデータがコピーされます。

注意

リモートコントロールユニット BKS-R****のコピー機能は、上位互換のみ保証しています。

BKS-R1607/R1608/R3209/R3210 以外のリモートコントロールユニットでは、Ver.3.**から Ver.1.**へのコピーを実行すると、データの一部（グローバルファントムなど）が失われることがあります。

Ver.1.**から Ver.3.**へデータをコピーする場合は有効です。

M: SET MONITOR FUNCTION (HDS-V3232 を除く)

目的

モニター系S-BUSの設定を行います。このモニター系はローカルCPUで制御されるため、本体のS-BUSデータリンクとは別に、独立したモニター系ラインを構成します。従って、モニター系ライン上における1次局および2次局を設定する必要があります。

設定手順 (モニター系 S-BUS の 1 次局の場合)

1. メニュー項目「M」を選択します。
2. モニター系 S-BUS のメニュー画面が表示されます。

このメニュー項目の設定については、「5-3. モニター系1次局の設定項目」を参照してください。

SET MONITOR FUNCTION	DVS-V6464B Monitor Bus I/F V2.10
MODIFICATION COMMAND	
F: SET SACTIVE UNIT NUMBER	
M: SELECT MONITOR FUNCTION (COMBINED)	
R: CALL SECONDARY STATION	

設定画面例

N: SET PANEL TABLE (BKS-R1601/R3202/R3203)

目的

本メニューは、それぞれのソース選択ボタンに、ソース名称を設定します。

設定手順

1. メニュー項目「N」を選択します。
2. カーソルキーでボタン番号を選択します。
3. **[Enter]** を押すと、ソース名称の入力モードになります。ソース名称を入力する前に **[Enter]** を押すと、入力モードがキャンセルされます。
4. タイプ名称に割り当てられているコードを選択し、次に数字キーでソース名称を入力します。
5. **[Enter]** を押すと、入力したソース名称が確定します。
6. **[Ctrl] - [E]** を押すと2次局のメニュー画面に戻ります。**[Ctrl] - [D]** を押すと1次局のメニュー画面に戻ります。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU BKS-R1601 V3.10 STATION NUMBER 11							
SET PANEL TABLE (SOURCE)							
01 KEY=IN001	02 KEY=IN002	03 KEY=IN003	04 KEY=IN004				
05 KEY=IN005	06 KEY=IN006	07 KEY=SONY007	08 KEY=SONY008				
09 KEY=SONY009	10 KEY=SONY010	11 KEY=IN011	12 KEY=IN012				
13 KEY=SONY013	14 KEY=SONY014	15 KEY=SONY015	16 KEY=IN016				
0=SONY	1=VTR	2=SUP	3=CB	4=AIR	5=ME	6=PGM	7=CL
8=SL	9=L	A=RET	B=MIX	C=JEEP	D=OSC	E=L/A	F=REN
Ctrl-E: MENU				Ctrl-D: RETURN			

設定画面例

N: SET PANEL TABLE (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210)

目的

本メニューは、それぞれのソース/デスティネーション選択ボタンに、どのソース/デスティネーション名称を選択するかを設定します。

設定手順

1. メニュー項目「N」を選択します。
2. カーソルキーでボタン番号を選択します。
3. **[Enter]**を押すと、名称の入力モードになります。名称を入力する前に**[Enter]**を押すと、入力モードがキャンセルされます。
4. a) 1次局メニューが「J:NAME STYLE (Type+Num)」(「タイプ名称+番号」名称モード)のときは、タイプ名称(0～Fの番号で選択)→番号の順でソースとデスティネーション名称を入力します。
b) 1次局メニューが「J:NAME STYLE (DESCRIP. NAME)」(ディスクリプション名称モード)のときは、**[Ctrl]** - **[N]**を押すたびに入力モードを切り換えます。

画面に“Ctrl-N:Type+Num”と表示されている場合は、**[Ctrl]** - **[N]**で「タイプ名称+番号」名称モードに移ることを意味します。

ディスクリプション名称入力モード:

アルファベットキーと数字キーでディスクリプション名称を文頭から7文字まで直接入力します。

「タイプ+番号」名称入力モード:

a) と同様に行います。

注意

端子番号にディスクリプション名称が設定されている場合は、「タイプ+番号」名称で入力しても、ディスクリプション名称を優先的に表示します。

5. **[Enter]**を押すと、入力した名称が確定します。
6. **[Ctrl]** - **[E]**を押すと2次局のメニュー画面に戻ります。
[Ctrl] - **[D]**を押すと1次局のメニュー画面に戻ります。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU				BKS-R1607 V1 00	STATION NUMBER 3
SET PANEL TABLE (SOURCE)		CONTROL DESTINATION = OUT001			
01 KEY=IN001	02 KEY=IN002	03 KEY=IN003	04 KEY=IN004		
05 KEY=IN005	06 KEY=IN006	07 KEY=IN007	08 KEY=IN008		
09 KEY=.	10 KEY=.	11 KEY=.	12 KEY=.		
13 KEY=.	14 KEY=.	15 KEY=.	16 KEY=.		
17 KEY=IN009	18 KEY=IN010	19 KEY=IN011	20 KEY=IN012		
21 KEY=IN013	22 KEY=IN014	23 KEY=IN015	24 KEY=IN016		
25 KEY=.	26 KEY=.	27 KEY=.	28 KEY=.		
29 KEY=.	30 KEY=.	31 KEY=.	32 KEY=.		
SET PANEL TABLE (DESTINATION)					
01 KEY=.	02 KEY=.	03 KEY=.	04 KEY=.		
05 KEY=.	06 KEY=.	07 KEY=.	08 KEY=.		
09 KEY=OUT001	10 KEY=OUT002	11 KEY=OUT003	12 KEY=OUT004		
13 KEY=OUT005	14 KEY=OUT006	15 KEY=OUT007	16 KEY=OUT008		
17 KEY=.	18 KEY=.	19 KEY=.	20 KEY=.		
21 KEY=.	22 KEY=.	23 KEY=.	24 KEY=.		
25 KEY=OUT009	26 KEY=OUT010	27 KEY=OUT011	28 KEY=OUT012		
29 KEY=OUT013	30 KEY=OUT014	31 KEY=OUT015	32 KEY=OUT016		
0=IN	1=OUT	2=.	3=.	4=.	5=.
8=.	9=.	A=.	B=.	C=.	D=.
				E=.	F=.
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-N:Type + Num					

設定画面例

注意

1. BKS-R3204/R3205/R3206の設定では、8ボタンを1組として、あらかじめメニュー項目「Z:SET PANEL STATUS」で設定します。“KEY=----”が表示されているボタンには、名称を入力することができません。
2. BKS-R1607/R1608/R3209/R3210の設定では、各ボタン(KEY)にソースかデスティネーションのどちらか一方のみ設定してください。
一つのボタンに重複して設定すると、誤動作の原因となります。
3. ソース/デスティネーション選択ボタンにディスクリプション名称を設定するときは、あらかじめ当該リモートコントロールユニットに割り当てられたディスクリプション名称グループの中から選択してください。
グループ中に存在しない名称を入力すると、**[Enter]**を押しても確定されません。その場合は、1次局から希望するディスクリプション名称を含んだグループを転送してください。

参考

V1.10 以上の BKS-R1607 では、16 個のボタンのうち任意のボタンを TAKE ボタンとして設定することができます。

これにより前面パネルの SELECTOR つまみで選んだ名称を TAKE することができます。

(最大入力 512× 出力 512)

設定方法は、ソース側で TAKE にしたい KEY を選び、
T ボタンを押します。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU BKS-R1607 V1 10 STATION NUMBER 12															
SET PANEL TABLE (SOURCE)								CONTROL DESTINATION = OUT244							
01 KEY=SRC004	02 KEY=SRC005	03 KEY=SRC006	04 KEY=SRC001	05 KEY=SRC002	06 KEY=SRC003	07 KEY=SRC007	08 KEY=SRC008	09 KEY=SRC009	10 KEY=SRC010	11 KEY=SRC013	12 KEY=SRC014	13 KEY=	14 KEY=	15 KEY=	16 KEY=TAKE
SET PANEL TABLE (DESTINATION)															
01 KEY=.	02 KEY=.	03 KEY=.	04 KEY=.	05 KEY=.	06 KEY=.	07 KEY=.	08 KEY=.	09 KEY=.	10 KEY=.	11 KEY=.	12 KEY=.	13 KEY=OUT001	14 KEY=OUT012	15 KEY=OUT003	16 KEY=.
0=SRC	1=OUT	2=2	3=3	4=4	5=5	6=6	7=7	8=8	9=9	A=A	B=B	C=C	D=D	E=E	F=F
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-N:DESCRIP NAME T:TAKE															

設定画面例

N:SET PANEL TABLE (BKS-R3206)

目的

本メニューは、ソース名称とデスティネーション名称を設定します。

設定手順

設定手順は、メニュー項目「N:SET PANEL TABLE」(BKS-R3204/R3205) に同じ。

注意

1. 設定画面の“SET PANEL TABLE (SOURCE)”はソース名称の設定を行い、“SELECT DESTINATION”はデスティネーション名称を設定します。
2. デスティネーション名称は、前面のボタンからでも設定できます。設定方法についてはオペレーションマニュアルを参照して下さい。
3. メニュー項目「Z:SET PANEL STATUS」の設定で TYPE + NUMBER SELECT MODE が選択されている時、Type および Number はあらかじめボタンに設定されていますので (BKS-R3206 のオペレーションマニュアルを参照してください)、“SET PANEL TABLE (SOURCE)”は表示されません。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU BKS-R3206 V3 10 STATION NUMBER 18															
SET PANEL TABLE (SOURCE)															
01 KEY=IN001	02 KEY=IN002	03 KEY=IN003	04 KEY=IN004	05 KEY=IN005	06 KEY=IN006	07 KEY=SONY007	08 KEY=SONY008	09 KEY=SONY009	10 KEY=SONY010	11 KEY=IN011	12 KEY=IN012	13 KEY=SONY013	14 KEY=SONY014	15 KEY=SONY015	16 KEY=IN016
SELECT DESTINATION															
01 OUT001	02 OUT002	03 OUT003	04 OUT004	05 OUT005	06 OUT006	07 OUT007	08 OUT008	09 OUT009	10 OUT010	11 OUT011	12 OUT012	13 OUT013	14 OUT014	15 OUT015	16 OUT016
0=SONY	1=VTR	2=SUP	3=CB	4=AIR	5=ME	6=PGM	7=CL	8=SL	9=L	A=RET	B=MIX	C=JEEP	D=OSC	E=L/A	F=REN
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-N:DESCRIP. NAME															

設定画面例

O: SET AVAILABLE DESTINATION (BKS-R3202/R3206)

目的

本メニューは、選択可能なデスティネーションを設定します。

設定手順

1. メニュー項目「R」で設定をするリモートコントロールユニットのメニュー画面を呼び出し、メニュー項目「O」を選択します。
2. カーソルキーで設定するデスティネーションを選択します。
カーソルが上端・下端にあるとき、さらに $\uparrow$ 、 $\downarrow$ を押すと、次の端子番号画面に移行します。出力端子番号は、001～512です。
3. **[Enter]**を押すと、カーソルが示すデスティネーションの選択・非選択が変化します。

注意

- ・ 名称が表示されているデスティネーションは、このリモートコントロールユニットからの選択が可能です。
- ・ “.....”が表示されている所では、デスティネーション・テーブルに名称が登録されていません。
- ・ 空白のデスティネーションは、前面パネルより選択することができません。

4. **[Ctrl] - [E]**を押すと、2次局のメニュー画面に変わります。
[Ctrl] - [D]を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU BKS-R3202 V3.10 STATION NUMBER 7			
SELECT DESTINATION NAME			
001=OUT001	002=OUT002	003=OUT003	004=OUT004
005=OUT005	006=OUT006	007=OUT007	008=OUT008
009=OUT009	010=OUT010	011=OUT011	012=OUT012
013=OUT013	014=OUT014	015=OUT015	016=OUT016
017=OUT017	018=OUT018	019=OUT019	020=OUT020
021=OUT021	022=OUT022	023=OUT023	024=OUT024
025=OUT025	026=OUT026	027=OUT027	028=OUT028
029=OUT029	030=OUT030	031=OUT031	032=OUT032
033=OUT033	034=OUT034	035=OUT035	036=OUT036
037=OUT037	038=OUT038	039=OUT039	040=OUT040
041=OUT041	042=OUT042	043=OUT043	044=OUT044
045=OUT045	046=OUT046	047=OUT047	048=
049=	050=OUT050	051=OUT051	052=OUT052
053=OUT053	054=OUT054	055=OUT055	056=OUT056
057=	058=	059=	060=
061=OUT061	062=OUT062	063=OUT063	064=OUT064

Ctrl-E: MENU Ctrl-D: RETURN

設定画面例

O: SET AVAILABLE DESTINATION (BKS-R1607/R3210)

目的

本メニューは、選択可能なデスティネーションと、その範囲に対応する選択可能なソースの範囲を設定します。

設定手順

1. メニュー項目「R」で設定をするリモートコントロールユニットのメニュー画面を呼び出し、メニュー項目「O」を選択します。
2. カーソルキーで設定するデスティネーションを選択します。
カーソルが上端・下端にあるとき、さらに $\uparrow$ 、 $\downarrow$ を押すと、次の端子番号画面に移行します。出力端子番号は、001～512です。
3. **[Enter]**を押すと、カーソルが示すデスティネーションの選択・非選択が変化します。

注意

- ・ 名称が表示されているデスティネーションは、このリモートコントロールから選択可能です。
- ・ “.....”表示は、デスティネーションテーブルに名称が登録されていないことを意味します。
- ・ 空白のデスティネーションは、パネルから選択することができません。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU BKS-R1607 V1.00 STATION NUMBER 3			
SELECT DESTINATION NAME			
001=OUT001	002=OUT002	003=OUT003	004=OUT004
005=OUT005	006=OUT006	007=OUT007	008=OUT008
009=OUT009	010=OUT010	011=OUT011	012=OUT012
013=OUT013	014=OUT014	015=OUT015	016=OUT016
017=OUT017	018=OUT018	019=OUT019	020=OUT020
021=OUT021	022=OUT022	023=OUT023	024=OUT024
025=OUT025	026=OUT026	027=OUT027	028=OUT028
029=OUT029	030=OUT030	031=OUT031	032=OUT032
033=OUT033	034=OUT034	035=OUT035	036=OUT036
037=OUT037	038=OUT038	039=OUT039	040=OUT040
041=OUT041	042=OUT042	043=OUT043	044=OUT044
045=OUT045	046=OUT046	047=OUT047	048=OUT048
049=OUT049	050=OUT050	051=OUT051	052=OUT052
053=OUT053	054=OUT054	055=OUT055	056=OUT056
057=OUT057	058=OUT058	059=OUT059	060=OUT060
061=OUT061	062=OUT062	063=OUT063	064=OUT064

Ctrl-E: MENU Ctrl-D: RETURN Ctrl-F: SELECT SOURCE

選択可能なデスティネーションの設定画面例

4. **[Ctrl] - [F]**を押して、選択可能なソースの設定画面に切り換えます。

[Ctrl] - [E]を押すと、2次局のメニュー画面に変わります。

[Ctrl] - [D]を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

・ SELECT SOURCE NAME の設定手順

1. カーソルキーで設定したい項目を選択します。
2. **[Enter]** を押すと、ソース名称の入力モードになります。
3. 「タイプ+番号」名称かディスクリプション名称を入力します。
4. **[Enter]** を押すと、入力した内容が確定します。

設定例

ブロック (使用領域)	ソース (入力範囲)		デスティネーション (出力範囲)	
	TOP	END	TOP	END
1	1	64	1	64
2	101	164	101	164

入／出力の選択範囲を上表のように制限した場合、設定画面と仮想マトリックスは次のようになります。

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU   BKS-R1607 V1 00   STATION NUMBER 3
SELECT SOURCE NAME
SRC TOP -SRC END =DST TOP -DST END
001 IN001  -IN064  =OUT001  -OUT064
002 IN101  -IN164  =OUT101  -OUT164
003          =      =
004          =      =
005          =      =
006          =      =
007          =      =
008          =      =

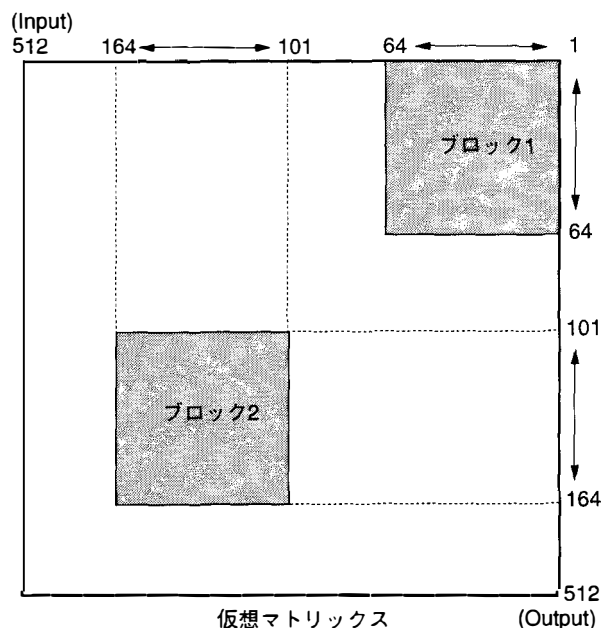
0=IN   1=OUT   2=.   3=.   4=.   5=.   6=.   7=
8=.   9=.   A=   B=   C=   D=   E=   F=
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-N:Type + Num Ctrl-F:SELECT DESTINATION

```

選択可能なソース範囲の設定画面例

注意

V1.10 以上の BKS-R1607/R3210 は、メニュー項目「H」であらかじめデスティネーション型オフセットファントムを設定した場合でも、SELECT SOURCE NAME で設定したデスティネーションの範囲を超える場合は、信号切り換えを実行できません。デスティネーションにオフセットを加算・減算した値が、SELECT SOURCE NAME の 8 ブロックの範囲内に収まるように設定してください。なお、オフセット値がゼロ (DST+0) の場合は、実行可能です。



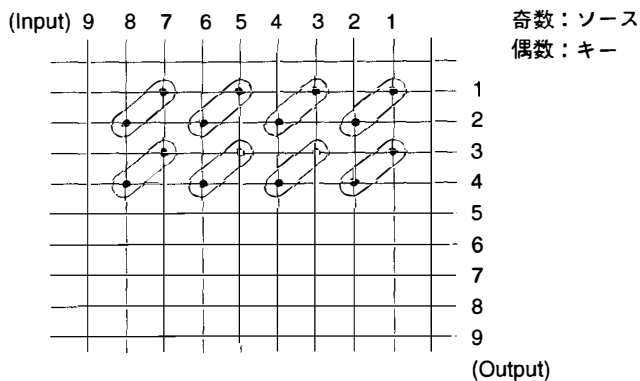
仮想マトリックス

■ : 使用領域
□ : 未使用領域

注意

範囲制限のないデスティネーションを選択する場合、選択可能なソースの範囲は 001 から 512 となります。

V1.10 以上の BKS-R1607/R3210 は、オフセット型ファントムを使用して 1 組のソース信号とキー信号を連動させて出力することができます (下図の OUT1~4)。



設定例：

設定画面例の SRC TOP-SRC END=DST TOP-DST END はオフセット型ファントムの適用範囲を示し、IN001 から IN008 および OUT001 から OUT004 を範囲とするとき、

IN001-IN008=OUT001-OUT004

のように設定します。

ここで、OUT001<IN001 および OUT002<IN002、または OUT003<IN001 および OUT004<IN002 の組み合わせを実行したい場合、

ファントム：

IN001 : DST+0<IN001 -10000000

IN001 : DST+1<IN002 -10000000

のように設定します。

ここで10000000はレベル-1を意味し、レベル-2なら0100000となります。

この状態でOUT001、IN001の順にボタンを押すと、OUT001は DST+1 で OUT002 に置き換えられ、レベル -1 の OUT001<IN001

OUT002<IN002

が切り換えられます。

OUT003、IN001の順にボタンを押すと、レベル -1 の OUT003<IN001

OUT004<IN001

が切り換えられます。

OUT005、IN001を押した場合は、適用範囲外なので DST+0<IN001 -10000000 (すなわち OUT005<IN001) だけが切り換えられます。

同様に、IN003、IN005、IN007についてもファントムを設定します。

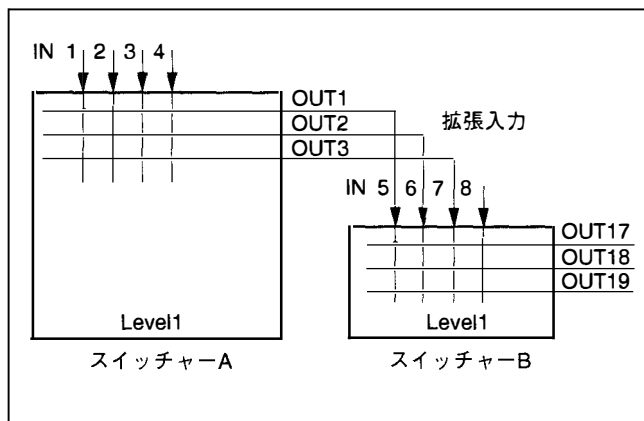
R: SET ROUTE (BKS-R1607/R1608/R3209/R3210)

目的

2台のスイッチャーを組み合わせると入力拡張した場合、拡張されたソースの名称を表示する機能です。

ルート設定を行うと、ルートデスティネーションに接続されたソースを自動的にさかのぼり、実際に選択されているソース名称を表示します。下図の場合、スイッチャーBのOUT17を選択すると、ソース名称としてはスイッチャーAのIN1が表示されます。

また、拡張先のデスティネーションを含む切り換えを要求すると、自動的にルートデスティネーション側のクロスポイントの切り換えを実行する機能もあります。たとえば、スイッチ A の IN1-OUT1 を切り換えると、スイッチ B の IN5-OUT17 も同時に切り換えられます。



ルート機能

設定手順

1. 2次局のメニュー項目「R」を選択します。
2. カーソルキーで項目を選択します。
3. **Enter**を押すと、ルート設定モードに入ります。データを入力する前に**Enter**を押すと、登録はキャンセルになります。
4. 「タイプ+番号」名称かディスクリプション名称を入力します。
(設定方法はファントムと同じです。詳細については、2次局のメニュー項目「H: SET PHANTOM TABLE」の解説を参照してください。ただし、このメニューでは、ファントム名称の代わりに、スイッチャーBのソースが接続されているスイッチャーAのデスティネーション名称を入力します。)
5. **Enter**を押すと、入力した内容が確定します。
6. **Ctrl** - **E**を押すと、2次局のメニュー画面に変わります。
- Ctrl** - **D**を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

[illegible]

設定画面例

上記の設定例では、OUT001を含むクロスポイント（IN002-OUT001など）を切り換えた場合、IN005-OUT017も同時に切り換えられます。このとき、スイッチャーBのOUT017に対して、スイッチャーAのOUT001のソース（IN002）が表示されます（IN002-OUT017）。

以上の操作は、OUT001とIN002をリモートコントロールユニットから選択することによって実行されます。ただし、OUT017に対して、IN002を取るためにOUT001を選択するという操作が不自然に思われる場合は、あらかじめリモートコントロールパネル上にIN002:OUT001<IN002のファントムを設定しておくことを推奨します。

S: DISPLAY DESCRIPTION NAME

目的

1次局より転送されたディスクリプション名称のグループ及び名称の確認を行います。

確認手順

1. 次ページを見る場合は **[Enter]** または **[SPACE]** を押します。
2. 前ページを見る場合は **[BS]** または **[DEL]** を押します。
3. **[Ctrl] - [E]** を押すと、2次局のメニュー画面に戻ります。
[Ctrl] - [D] を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU				BKS-R3206 V3.10 STATION NUMBER 16			
GROUP No. = 1							
No.	Terminal Name	Description Name	No.	Terminal Name	Description Name	No.	Terminal Name
1	DST- 001	OUT001	London	2	DST- 002	OUT002	NewYork
3	SRC- 001	IN001	Berlin	4	SRC- 002	IN002	Moscow
5	SRC- 003	IN003	Tokyo	6	SRC- 004	IN004	Cairo
7	SRC- 005	IN005	Berling	8	SRC- 006	IN006	Madrid
9	SRC- 007	IN007	Tpronto	10	DST- 005	OUT005	Paris
11	DST- 008	OUT008	Rome	12	DST- 012	VTR012	OUT012
13	DST- 013	VTR013	OUT013	14	DST- 014	VTR014	OUT014
15	DST- 015	VTR015	OUT015	16	DST- 016	SONY016	OUT016
17	DST- 017	VTR017	OUT017	18	DST- 018	VTR018	OUT018
19	DST- 019	VTR019	OUT019	20	DST- 020	VTR020	OUT020
21	DST- 021	VTR021	OUT021	22	DST- 022	VTR022	OUT022
23	DST- 023	VTR023	OUT023	24	DST- 024	VTR024	OUT024
25	DST- 025	VTR025	OUT025	26	DST- 026	VTR026	OUT026
27	DST- 027	VTR027	OUT027	28	DST- 028	VTR028	OUT028
29	DST- 029	VTR029	OUT029	30	DST- 030	VTR030	OUT030
31	DST- 031	VTR031	OUT031	32	DST- 032	VTR032	OUT032
33	DST- 033	VTR033	OUT033	34	DST- 034	VTR034	OUT034
35	DST- 035	VTR035	OUT035	36	DST- 036	VTR036	OUT036
37	DST- 037	VTR037	OUT037	38	DST- 038	VTR038	OUT038
39	DST- 039	VTR039	OUT039	40	DST- 040	VTR040	OUT040

Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-H:Pg-Up Ctrl-M:Pg-Dn

設定画面例

注意

V1.10以上のBKS-R1607/R1608/R3209/R3210は、1次局から転送された160個のディスクリプション名称を、ブロック番号とは無関係に、端子番号順に入力512×出力512の範囲で登録することができます。160個以上の名称を使用する場合は、複数のブロックに分けて1次局から送信してください。

画面操作は次のとおりです。

- ソース側からデスティネーションを見る： **[→]** キー
 デスティネーション側からソースを見る： **[←]** キー
 前ページへ送る： **[↑]** キー
 次ページへ送る： **[↓]** キー

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU				BKS-R3210 V1 10 STATION NUMBER 6			
SOURCE							
name	Description	name	Description	name	Description	name	Description
1 IN001	CAM001	2 IN002	CAM002	3 IN003	CAM003	4 IN004	CAM004
5 IN005	VTR005	6 IN006	VTR006	7 IN007	VTR007	8 IN008	VTR008
9 IN009	ONAI001	10 IN010	ONAI002	11 IN011	ONAI003	12 IN012	ONAI004
13 IN013	STADI01	14 IN014	STADI02	15 IN015	STADI03	16 IN016	STADI04
17 IN017	MONI001	18 IN018	MONI002	19 IN019	IN019	20 IN020	IN020
21 IN021	IN021	22 IN022	IN022	23 IN023	IN023	24 IN024	IN024
25 IN025	IN025	26 IN026	IN026	27 IN027	IN027	28 IN028	IN028
29 IN029	IN029	30 IN030	IN030	31 IN031	IN031	32 IN032	IN032

Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Right:DESTINATION Left:SOURCE

設定画面例

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU				BKS-R3210 V1 10 STATION NUMBER 6			
DESTINATION							
name	Description	name	Description	name	Description	name	Description
1 OUT001	DST001	2 OUT002	DST002	3 OUT003	DST003	4 OUT004	DST004
5 OUT005	DST005	6 OUT006	DST006	7 OUT007	DST007	8 OUT008	DST008
9 OUT009	OUT009	10 OUT010	OUT010	11 OUT011	OUT011	12 OUT012	OUT012
13 OUT013	OUT013	14 OUT014	OUT014	15 OUT015	OUT015	16 OUT016	OUT016
17 OUT017	OUT017	18 OUT018	OUT018	19 OUT019	OUT019	20 OUT020	OUT020
21 OUT021	OUT021	22 OUT022	OUT022	23 OUT023	OUT023	24 OUT024	OUT024
25 OUT025	OUT025	26 OUT026	OUT026	27 OUT027	OUT027	28 OUT028	OUT028
29 OUT029	OUT029	30 OUT030	OUT030	31 OUT031	OUT031	32 OUT032	OUT032

Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Right:DESTINATION Left:SOURCE

設定画面例

U : SELECT REMOTE PROTOCOL

目的

本メニューは、REMOTE 2 (D-sub 9ピン) のAチャンネルとBチャンネルをループスルーにするかしないかの選択を行います。またREMOTE 2のコントロールモードがDIRECTモード時に、プロトコルおよび端子番号の変換テーブルの設定を行います。

プロトコルには次の3種類があります。

- PRODUCTION SWITCHER PROTOCOL
- AUDIO MIXER PROTOCOL
- CART PROTOCOL

注意

AUDIO MIXER PROTOCOLは旧称SWITCHER PROTOCOLです。

端子番号の変換テーブルは、外部コントローラーで定義される端子番号と、ルーティングスイッチャーのコネクターの端子番号を対応させるために設定します。

なお、THROUGHモード時には、Bチャンネルの選択画面はありません。

またDIRECTモードについては、1次局のメニュー項目「U: SELECT CONTROL MODE」を参照してください。

設定手順

1. メニュー項目「U」を選択します。
2. “SELECT RS-422 CHANNEL? (A-B) A”を表示します。
アルファベットキーでAかBを入力し、**[Enter]**を押すと、選択したチャンネルの設定画面になります。

SELECT REMOTE PROTOCOL	DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1
SELECT RS-422 CHANNEL? (A--B) A	
Ctrl-E: RETURN TO MENU	

3. “SET DESTINATION TRANSCODE”の“1=001”にカーソルが表示されます。
ここで**[Enter]**を押すと“1=”となり、端子番号入力モードとなります。
左の番号はコネクターの端子番号を示し、右はREMOTE 2から送られてくる端子番号を示しています。コネクターの端子番号ごとに、受信したコマンドの何番を対応させるかを設定します。
4. 数字キーで1~128の番号を入力します。**[Enter]**を押すと確定し、次のコネクターの端子番号位置にカーソルが移動します。
“00”を入力すると“001”となり129以上では、もとの値に戻ります。未入力のまま**[Enter]**を押すと無効クロスポイントが設定され、“……”表示となり、次のコネクターの端子番号位置にカーソルが移動します。確定する前に**[Ctrl] - [F]**を押すと入力前の値に戻り、次のコネクターの端子番号位置にカーソルが移動します。

注意

同じ番号を2ヶ所に設定することはできません。

重複した時は、画面下部に“*** is used already ; Ignored”が表示され、カーソル位置も停止します。

SELECT REMOTE PROTOCOL				DVS-V6464B V2.10 STATION NUMBER 1			
CHANNEL = A		REMOTE = CART+		UA2 = 10000000			
SET DESTINATION TRANSCODE (CN NUM = REMOTE NUM)							
1=001	2=002	3=003	4=004	5=005	6=006	7=007	8=008
9=009	10=010	11=011	12=012	13=013	14=014	15=015	16=016
17=017	18=018	19=019	20=020	21=021	22=022	23=023	24=024
25=025	26=026	27=027	28=028	29=029	30=030	31=031	32=032
33=033	34=034	35=035	36=036	37=037	38=038	39=039	40=040
41=041	42=042	43=043	44=044	45=045	46=046	47=047	48=048
49=049	50=050	51=051	52=052	53=053	54=054	55=055	56=056
57=057	58=058	59=059	60=060	61=061	62=062	63=063	64=064
SET SOURCE TRANSCODE (CN NUM = REMOTE NUM)							
1=001	2=002	3=003	4=004	5=005	6=006	7=007	8=008
9=009	10=010	11=011	12=012	13=013	14=014	15=015	16=016
17=017	18=018	19=019	20=020	21=021	22=022	23=023	24=024
25=025	26=026	27=027	28=028	29=029	30=030	31=031	32=032
33=033	34=034	35=035	36=036	37=037	38=038	39=039	40=040
41=041	42=042	43=043	44=044	45=045	46=046	47=047	48=048
49=049	50=050	51=051	52=052	53=053	54=054	55=055	56=056
57=057	58=058	59=059	60=060	61=061	62=062	63=063	64=064
CAS=065							
F1: REMOTE		F2: DEFAULT		F3: DEST.		F4: SOURCE	
Ctrl-E: RETURN TO MENU							

設定画面例

ファンクションキーの操作方法

[F1] : REMOTE (プロトコルを切り換えます)

1. **[F1]**を押すと、REMOTEの項目にカーソルが移動します。
2. **[Enter]**を押すと、プロトコルが切り換わります。
UA2=*** **の“***...”を変更する場合は、カーソルキーで所定の場所を選択し、**[Enter]**を押します。

注意

ここで設定するUA2の「***...」は、DIPスイッチに合わせて左がLSBになっています。(上記設定画面例を参照)

[F2] : DEFAULT (画面内容を初期設定値に戻します)

1. **[F2]**を押すと、画面下部にメッセージ“DEFAULT OK? (y/n)”が表示されます。
2. **[Y]**を押すとプログラムを実行し、**[N]**を押すと実行しません。

[F3] : DEST

[F3]を押すと、カーソルがデスティネーション側に移動します。

[F4] : SOURCE

[F4]を押すと、カーソルがソース側に移動します。

Z: SELECT SDI FORMAT (HDS-V3232 を除く)

目的

本メニューは、DVS-V3232BおよびDVS-V6464Bにおける入出力基板の扱う信号フォーマットを、コントロールターミナルから設定するときに使用します。

この設定は各入出力基板のMANUAL(マニュアル)スイッチがOFFのときに、設定可能になります。

設定手順

1. メニュー項目「Z」を選択します。
2. カーソルキーで、設定するチャンネル列を選択します。
(チャンネルは8チャンネルごとに切り換わります)。
“(4:2:2)”のようにかっこでくくられた信号フォーマット表示の出たチャンネル列は、基板上で信号フォーマットの設定がされていますので、コントロールターミナル上からは設定変更ができません。
3. **[Enter]** を押すと、設定状態が変化します。(“4:2:2” → “4fsc NTSC” → “4fsc PAL”)
4. **[S]** (Table Set) を押すと、現在表示している内容がSDIFORMAT TABLE領域に書き込まれます。
5. **[Ctrl] - [F1]** を押すと表示を終了し、2次局のメニュー画面に変わります。

SELECT SDI FORMAT		DVS-V6464B V2 10 STATION NUMBER 1	
DESTINATION UNIT		SOURCE UNIT	
01 - 08 :	4:2:2	01 - 08 :	4:2:2
09 - 16 :	4fsc NTSC	09 - 16 :	4:2:2
17 - 24 :	4fsc PAL	17 - 24 :	4:2:2
25 - 32 :	4:2:2	25 - 32 :	4:2:2
33 - 40 :	4:2:2	33 - 40 :	4:2:2
41 - 48 :	4:2:2	41 - 48 :	4:2:2
49 - 56 :	(4:2:2)	49 - 56 :	(4:2:2)
57 - 64 :	4:2:2	57 - 64 :	4:2:2
SWITCHING FIELD		FIELD	
[F1]:FORMAT [F2]:FIELD S:Table Set Ctrl-E:RETURN TO MENU			

設定画面例

注意

もし**[S]**を押さないと、電源をOFFにしたとき、データが消去されます。

ファンクションキーの操作方法

[F1] : FORMAT (8チャンネル単位で信号フォーマットを設定するモードです。)

[F2] : FIELD (クロスポイント切り換えフィールドを設定するモードです。)

1. **[F2]** を押すと、画面上の“SWITCHING FIELD”の項目にカーソルが移動します。
2. **[Enter]** を押すと、設定状態が変化します。
(ODD → EVEN → FIELD → ASYNC → ODD …)
本体内の全ての信号切り換えフィールドは、ここで設定された内容になります。

注意

RS-422AとS-BUSを同時使用する場合は、以下の点に注意して、SWITCHING FIELDの設定を行ってください。

- ① S-BUSとCARTプロトコルの同時使用時: ODD
- ② S-BUSとPRODUCTION SWITCHERプロトコルの同時使用時: FIELD

なお、CARTプロトコルとPRODUCTION SWITCHERプロトコルを同時に使用する場合は、CART側の切り換えタイミングが正しく行われませんのでご注意ください。

また、その他の組み合わせにおいても、SWITCHING FIELDの設定が混在する場合は、切り換えタイミングが保証できません。

信号の切り換えタイミングについては、「5-8.信号の切り換えタイミング」を参照してください。

Z: SET PANEL STATUS (BKS-R3204/R3205/R3206)

目的

リモートコントロールユニットは、単体で使う以外に、複数台を組み合わせてあたかもソース／デスティネーション数を拡張した1台のユニットのように使うことができます。複数台を組み合わせて使う場合、1台が親機、残りは子機となります。

本メニューでは、この使用モードを設定します。

モードは、単体／親機／子機を選択と、前面パネルのボタンにソース／デスティネーションを割り付ける設定を行います。また親機に設定された時は、親機のブロック番号を設定します（親機は、10台まで登録できます）。

設定手順

- メニュー項目「Z」を選択します。
- “PANEL MODE = 1” にカーソルが表示されます。ここで **[Enter]** を押すと、入力モードに入ります。選択は下記の番号により選択します。
BKS-R3204 :1. STAND ALONE 2. MOTHER
3. DAUGHTER
BKS-R3205 :1. STAND ALONE 2. MOTHER
BKS-R3206 :1. STAND ALONE 2. MOTHER
変更の必要が無いときは再度 **[Enter]** を押します。
- “KEY 1-8=S” にカーソルが移動します。**[Enter]** を押すと入力モードになります。選択は **[S]** (SOURCE) と **[D]** (DESTINATION) で行います。
ボタンの番号は、セット前面から見て左上より 1, 2, 3...15, 16 と数え、17 から左下に送ります。
[Enter] を押して確定し、次の設定に移動します。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32

- “PANELMODE = 2” (親機) を選択した時は、手順3の次に “SET BLOCK NUMBER =*” にカーソルが移動します。**[Enter]** を押し、ブロック番号を入力します。再度 **[Enter]** を押すと設定内容が確定し、次の設定項目に移ります。既に親機が設定されている時は、それらのID番号が表示されます。

- BKS-R3204 の設定において、“PANEL MODE = 3” (子機) を選択した時は、MOTHER ID 番号が “MOTHER SATATION ID = xx” と表示されます。
MOTHER ID 番号の設定は、リアパネルのスイッチで設定します。スイッチの設定が 0, 1, 255 の時は、“Incorrect ID (0, 1, 255) is designated” と表示されます。
親機の ID がブロック内に登録されていない時は、“Thedesignated ID is not found.” と表示されます。
- BKS-R3206 では、BKS-R3204/R3205 とは異なり “SET SOURCE OR DESTINATION ASSIGNMENT” がありません。そのためソース名称の指定は、タイプ名称+番号またはソースダイレクトのどちらかから選択します。
“PANEL LAYOUT =*” が表示され、**[Enter]** を押して入力モードにし、数字キーで番号を入力します。
- [Ctrl] - [E]** を押すと、2次局のメニュー画面に戻ります。
[Ctrl] - [D] を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

BKS-R3204, BKS-R3205 の “PANELMODE = 1” (単体) を選択した時は、KEY 1-32 全てをデスティネーションにすることはできません。全てをデスティネーションにした時は、KEY 1-8 が強制的に “KEY 1-8 = S” となります。

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU BKS-R3204 V3 10 STATION NUMBER 14
SET PANEL STATUS

PANEL MODE = 1
      1:STAND ALONE      2:MOTHER      3:DAUGHTER

SET SOURCE OR DESTINATION ASSIGNMENT
KEY 1- 8 = S              KEY 9-16 = S
KEY 17-24 = S            KEY 25-32 = S
S:SOURCE                  D:DESTINATION

MOTHER STATION ID=12 (BKS-R3206)
MOTHER STATION BLOCK LIST
BLOCK 1 = STATION 12 | BLOCK 6 =
BLOCK 2 = STATION 5  | BLOCK 7 =
BLOCK 3 = STATION 2  | BLOCK 8 =
BLOCK 4 = STATION 3  | BLOCK 9 =
BLOCK 5 =             | BLOCK10 =

Ctrl-E:MENU              Ctrl-D:RETURN

```

設定画面例 (BKS-R3204)

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU   BKS-R3205 V3 10 STATION NUMBER 11
SET PANEL STATUS

PANEL MODE = 1
    1: STAND ALONE    2: MOTHER

SET SOURCE OR DESTINATION ASSIGNMENT
KEY  1- 8 = S    KEY  9-16 = S
KEY 17-24 = S    KEY 25-32 = S
S: SOURCE        D: DESTINATION

SET BLOCK NUMBER=3
MOTHER STATION BLOCK LIST
BLOCK 1 = STATION 11 | BLOCK 6 =
BLOCK 2 = STATION 5  | BLOCK 7 =
BLOCK 3 = STATION 2  | BLOCK 8 =
BLOCK 4 = STATION 3  | BLOCK 9 =
BLOCK 5 =             | BLOCK10 =

Ctrl-E: MENU    Ctrl-D: RETURN

```

設定画面例 (BKS-R3205)

```

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU   BKS-R3206 V3 10 STATION NUMBER 2
SET PANEL STATUS

PANEL MODE = 2
    1: STAND ALONE    2: MOTHER

PANEL LAYOUT = 2
    1: KEY + NUMBER  SELECT MODE
    2: SOURCE DIRECT SELECT MODE

SET BLOCK NUMBER = 2
MOTHER STATION BLOCK LIST
BLOCK 1 = STATION 11 | BLOCK 6 =
BLOCK 2 = STATION 5  | BLOCK 7 =
BLOCK 3 = STATION 2  | BLOCK 8 =
BLOCK 4 = STATION 3  | BLOCK 9 =
BLOCK 5 =             | BLOCK10 =

Ctrl-E: MENU    Ctrl-D: RETURN

```

設定画面例 (BKS-R3206)

Z: SET PANEL STATUS (BKS-R1607/R1608/ R3209/R3210)

目的

リモートコントロールユニットの各種モードを設定します。
BKS-R1607/R1608/R3209/R3210 は、複数台組み合わせて、
コントロールできるソース/デスティネーション数を拡張す
ることができます。そのための親機・子機設定も、このメ
ニューで行います。(親機は、10 台まで登録できます)

設定内容は下記の通りです。

DISPLAY MODE

STATUS=1 次局のクロスポイントテーブルの状態を表示
PROMPT= 押したボタンを点灯

PROTECT MODE

ON AIR= プロテクト時でもそのパネルからは切り換えを実
行する

NORMAL= プロテクト時の切り換えは不可

PHANTOM PROTECT

PART PROT= プロテクトのかかっていないファントムのみ
を切り換える

FULL PROT= 一つでもプロテクトONの切り換えが含まれ
ている場合、全てのファントム切り換えを行
わない

BUTTON LINK= パネルのプロテクトボタンがONの時は、
全てのファントム切り換えを行わない

PANEL MODE

STAND ALONE= 単体機

MOTHER = 親機

DAUGHTER = 子機

PANEL LAYOUT*1

TYPE + NUM.=X-Y 選択

DIRECT = ダイレクト選択

LEVEL MODE*1

SINGLE= 単一レベル選択

MULTI = 複数レベル選択

DEST SELECTION*2

DISABLE= パネルからのデスティネーション変更を禁止

ENABLE = パネルからのデスティネーション変更を許可

*1: BKS-R3210 のみ対象

*2: BKS-R1607 のみ対象

設定手順

1. メニュー項目「Z」を選択します。
2. “DISPLAY MODE=1”にカーソルが表示されます。
目的のモードにカーソルを移動し(↑, ↓), **Enter**を押すと、入力モードに入ります。
3. 数字キーで選択する番号を入力します。
Enterを押して確定すると、カーソルは次の設定項目に移動します。
デフォルト値を変更しない場合は、何も入力しないで **Enter** を押してください。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU		BKS-R1607 V1.00	STATION NUMBER 7
SET PANEL STATUS			
DISPLAY MODE = 1	1:STATUS	2:PROMPT	
PROTECT MODE = 2	1:ON AIR	2:NORMAL	
PHANTOM PROTECT = 1	1:PART PROT	2:FULL PROT	3:BUTTON LINK
PANEL MODE = 1	1:STAND ALONE	2:MOTHER	3:DAUGHTER
PANEL LAYOUT = *	1:TYPE + NUM	2:DIRECT	*:UNRELATED
LEVEL MODE = *	1:SINGLE	2:MULTI	*:UNRELATED
DEST SELECTION = 1	1:DISABLE	2:ENABLE	*:UNRELATED
BLOCK & MOTHER STATION LIST			
BLOCK 1 =	BLOCK 6 =		
BLOCK 2 =	BLOCK 7 =		
BLOCK 3 =	BLOCK 8 =		
BLOCK 4 =	BLOCK 9 =		
BLOCK 5 =	BLOCK10 =		
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN			

設定画面例

4. 手順2, 3と同じ要領で、各項目の設定を行います。
ただし、“PANEL MODE”(親機・子機の設定)については、下記の手順で設定してください。

親機：

- 1) “PANEL MODE=2”(親機)を選択します。
- 2) **Enter**を押します。
設定画面に下記が表示されます。

SET BLOCK NUMBER = *	
MOTHER STATION BLOCK LIST	
BLOCK 1 =	BLOCK 6 =
BLOCK 2 =	BLOCK 7 =
BLOCK 3 =	BLOCK 8 =
BLOCK 4 =	BLOCK 9 =
BLOCK 5 =	BLOCK10 =

- 3) BLOCK & MOTHER STATION LISTの空いているBLOCK番号を、“*”に入力します。
- 4) **Enter**を押して、設定内容を確定します。

子機：

- 1) “PANEL MODE=3”(子機)を選択します。
- 2) **Enter**を押します。
設定画面に下記が表示されます。

MOTHER STATION ID = ** (The designated ID is not found)	
MOTHER STATION BLOCK LIST	
BLOCK 1 = STATION 6	BLOCK 6 =
BLOCK 2 =	BLOCK 7 =
BLOCK 3 =	BLOCK 8 =
BLOCK 4 =	BLOCK 9 =
BLOCK 5 =	BLOCK10 =

- 3) BLOCK & MOTHER STATION LISTの親機のSTATION IDを、“*”に入力します。
- 4) **Enter**を押します。
正しく入力されると、親機の機種名が次のように表示さ

MOTHER STATION ID = 6	(BKS-R1607)
-----------------------	-------------

れます。

5. **Ctrl** - **E**を押すと、2次局のメニュー画面に変わります。
Ctrl - **D**を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

1. 親機・子機の設定をしたユニットについても、それぞれ個別に各種モードの設定を行う必要があります。
2. 親機・子機の設定は、必ず親機を先に設定してください。
3. 親機・子機の設定は、“PANEL MODE”の設定だけでは完了しません。
忘れずに親機側のブロック番号設定、および子機側のSTATION ID (MOTHER ID) 設定を行ってください。

参考

V1.10のBKSシリーズより、チェックサムが表示されます。

プログラムデータが同じかどうかをチェックする方法として、バージョン表示の他にこのチェックサムがあります。(主にPGM CHECKSUMを使用します。)

表示されるチェックサムは3通りです。

BOOT CHECKSUM=D039

ROMを立ち上げるためのプログラムエリアのチェックサムです。

PGM CHECKSUM=630F

実際のプログラムのあるエリアのチェックサムです。

ROM CHECKSUM=FF68

ROM全体のチェックサムです。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU

BKS-R3210 V1 10

STATION NUMBER 6

SET PANEL STATUS

DISPLAY MODE = 1 1:STATUS 2:PROMPT

PROTECT MODE = 2 1:ON AIR 2:NORMAL

PHANTOM PROTECT = 1 1:PART PROT 2:FULL PROT 3:BUTTON LINK

PANEL MODE = 1 1:STAND ALONE 2:MOTHER 3:DAUGHTER

PANEL LAYOUT = 2 1:TYPE + NUM. 2:DIRECT *:UNRELATED

LEVEL MODE = 1 1:SINGLE 2:MULTI *:UNRELATED

DEST SELECTION = * 1:DISABLE 2:ENABLE *:UNRELATED

BLOCK & MOTHER STATION LIST

BLOCK 1 = | BLOCK 6 =

BLOCK 2 = | BLOCK 7 =

BLOCK 3 = | BLOCK 8 =

BLOCK 4 = | BLOCK 9 =

BLOCK 5 = | BLOCK10 =

BOOT CHECKSUM=D039 PGM CHECKSUM=630F ROM CHECKSUM=FF68

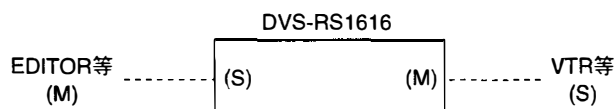
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN

設定画面例

Z: SELECT CONNECTION (DVS-RS1616 のみ)**目的**

DVS-RS1616では、1～32の各9ピンコネクターの接続先がコントロールする側 (M) か、あるいはコントロールされる側 (S) にかよって、本メニューの設定をする必要があります。接続先が (M) の時は (S) に、(S) の時は (M) に設定します。

(S) に設定した場合は、自動的に終端されます。

**設定手順**

1. メニュー項目「Z」を選択します。
2. カーソルキーで、設定する端子番号を選択します。
3. **[Enter]** を押すと、設定状態が変化します (“M” → “S” → “M”)。
4. **[S]** (TABLE SET) を押すと、現在表示している内容を共通テーブル領域に書き込みます。
5. **[Ctrl] - [E]** を押すと表示を終了し、2次局のメニュー画面に変わります。

SELECT CONNECTION		DVS-RS1616 V3.01 STATION NUMBER 5	
OUTPUT (INPUT)		INPUT	
TERMINAL DIRECTION	TERMINAL DIRECTION	TERMINAL DIRECTION	TERMINAL DIRECTION
01 (17) : M	09 (25) : M	01 : S	09 : S
02 (18) : M	10 (26) : M	02 : S	10 : S
03 (19) : M	11 (27) : M	03 : S	11 : S
:	:	:	:
:	:	:	:
08 (24) : M	16 (32) : M	08 : S	16 : S
S:TABLE SET			
Ctrl-E:RETURN TO MENU			

設定画面例

注意

[S] を押さないと、変更は無効になります。

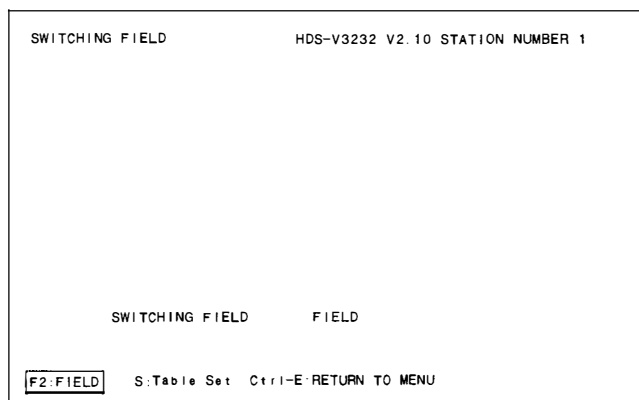
Z: SWITCHING FIELD (HDS-V3232 のみ)

目的

本メニューは、HDS-V3232の切り換えフィールドをコントロールターミナルから設定するときに使用します。

設定手順

1. メニュー項目「Z」を選択します。
2. **Ctrl** - **F1** を押すと表示を終了し、2次局のメニュー画面に変わります。



設定画面例

注意

もし **S** を押さないと、電源をOFFにしたとき、データが消去されます。

ファンクションキーの操作方法

F2 : FIELD(クロスポイント切り換えフィールドを設定するモードです。)

1. **F2** を押すと、画面上の“SWITCHING FIELD”の項目にカーソルが移動します。
2. **Enter** を押すと、設定状態が変化します。
(ODD → EVEN → FIELD → ASYNC → ODD …)
本体内の全ての信号切り換えフィールドは、ここで設定された内容になります。

注意

RS-422AとS-BUSを同時使用する場合は、以下の点に注意して、SWITCHING FIELDの設定を行ってください。

- ① S-BUSとCARTプロトコルの同時使用時: ODD
- ② S-BUSとPRODUCTION SWITCHERプロトコルの同時使用時: FIELD

なお、CARTプロトコルとPRODUCTION SWITCHERプロトコルを同時に使用する場合は、CART側の切り換えタイミングが正しく行われませんのでご注意ください。

また、その他の組み合わせにおいても、SWITCHING FIELDの設定が混在する場合は、切り換えタイミングが保証できません。信号の切り換えタイミングについては、「5-8.信号の切り換えタイミング」を参照してください。

5-3. モニター系1次局の設定項目 (BKDS-V3292Bのみ)

モニター系S-BUS上に接続された機器の設定を行います。

```

SET MONITOR FUNCTION          DVS-V6464B Monitor Bus I/F V2.10

MODIFICATION COMMAND

F: SET ACTIVE UNIT NUMBER

M: SELECT MONITOR FUNCTION (COMBINED)

R: CALL SECONDARY STATION

Ctrl-E: RETURN TO MENU

```

モニター系1次局のメニュー画面

モニター機能の設定手順

1. 1次局のメニュー項目「R」を選択し、モニター系1次局に設定された2次局を呼び出します。
2. 2次局のメニュー項目「M」を選択し、モニター系1次局のメニュー画面にします。
3. メニュー項目「F」および「M」の設定を行います。
4. メニュー項目「R」を選択し、モニター系2次局を呼び出します。
5. モニター系2次局の各メニュー項目の設定を行います。
6. **Ctrl** - **Z** を押して、モニター系1次局のメニュー画面に戻ります。
7. 手順4から6を繰り返し、全てのモニター系2次局の設定を行います。
8. **Ctrl** - **D** を押して、1次局のメニュー画面に戻ります。

注意

モニター系S-BUSデータリンクが複数あるシステムでは、手順1から8を繰り返し、全てのデータリンクの設定を行います。

F: SET ACTIVE UNIT NUMBER

目的

モニター系S-BUSのデータリンク上に接続された機器を有効にし、通信を行えるようにします。

設定手順

1. メニュー項目「F」を選択します。
2. カーソルキーで通信を有効にする2次局を選択します。
3. **Enter** を押すと、表示されている設定状態が変化します（“E” → “ブランク” → “E”）。“E”が表示されている2次局のみが有効となります。
“M”の表示は1次局を示します。
4. **Ctrl** - **E** を押すと、モニター系S-BUSのメニュー画面に戻ります。

注意

2次局数が多い場合には反応速度が遅くなりますので、未接続の2次局のステーション番号は無効にしてください。
“*”は範囲以外を示しています。

```

ENABLE ACTIVE UNIT FOR STATION NUMBER  DVS-V6464B Monitor Bus I/F V2.10

      1 2 3 4 5   6 7 8 9 10  1112131415  1617181920
      +
001-020  M E E E E   E E E E E   E E E E E   E E E E E
021-040  E E E E E   E E E E E   E E E E E   E E E E E
041-060  E E E E E   E E E E E   E E E E E   E E E E E
061-080  E E E E E
081-100
101-120
121-140
141-160
161-180
181-200
201-220
221-240
241-254

                                * * * * *

                                CTRL-E RETURN TO MENU

```

設定画面例

注意

1. 1次局のステーション番号は、CPU基板上のDIPスイッチの設定にかかわらず1となります。
2. 2次局のステーション番号は、DIPスイッチの設定値になります。標準S-BUSおよびモニター系S-BUSにおいて、ステーション番号は重複しないように設定してください。
設定可能な2次局のステーション番号は2～254です。

M:SELECT MONITOR FUNCTION

目的

入力モニターと出力モニターを直列に接続するか、独立にするかを設定します。

入力モニター系と出力モニター系を、それぞれ別のモニターでモニターしたい時はSEPARATEDモード、入力モニター系と出力モニター系を1台のモニターでモニターしたい時は、COMBINEDモードに設定します。

設定手順

1. **[M]** を押すと、設定内容が切り換わります。
COMBINED:直列接続
SEPARATED:独立
2. **[Ctrl] - [E]** を押すと、モニター系S-BUSのメニュー画面に戻ります。

R:CALL SECONDARY STATION

目的

モニター系S-BUSの2次局を呼び出します。

設定手順

1. メニュー項目「R」を選択します。
2. 数字キーで2次局のステーション番号を入力し、**[Enter]** と押します。
3. モニター系2次局のメニュー画面が表示されます。

5-4. モニター系2次局の設定項目 (BKDS-V3292Bのみ)

M: SET AVAILABLE MONITOR LINE

```

SET MONITOR FUNCTION      DVS-V6464B Monitor Bus I/F V2 10 STATION NUMBER 23

MODIFICATION COMMAND

M: SET AVAILABLE MONITOR LINE INPUT= ( ENABLE ) OUTPUT= ( ENABLE )

Ctrl-Z: RETURN
    
```

モニター系2次局のメニュー画面
(DVS-V3232B/V6464B)

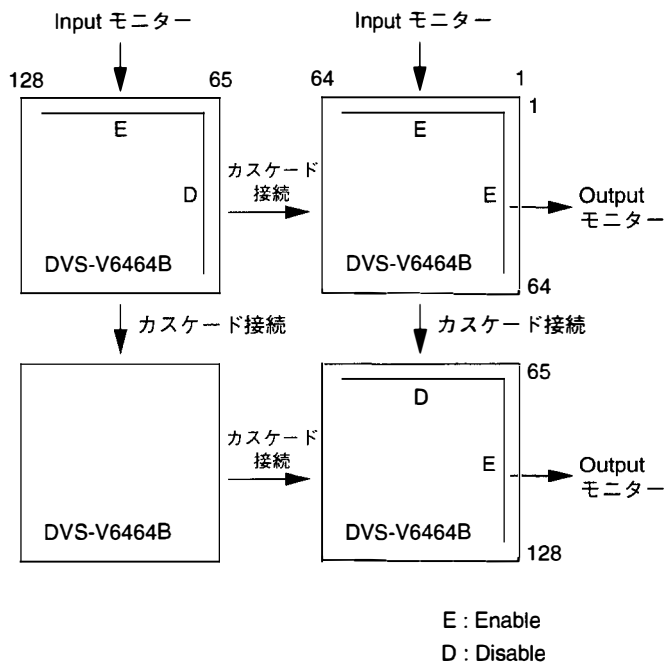
目的

入力モニターと出力モニターを有効または無効に設定します。

設定手順

1. モニター系2次局のメニュー項目「M」を選択します。
2. カーソルキーでINPUT/OUTPUTを選択し、**[Enter]**を押すと設定内容が切り換わります。 (“ENABLE” → “DISABLE” → “ENABLE”)
3. **[Ctrl] - [Z]**を押すと、モニター系1次局のメニュー項目に戻ります。

ENABLE, DISABLE の設定例



注意

カスケード接続部のモニター系はDISABLEに設定して下さい。ENABLEになっていると正しいモニターができない場合があります。

L: COPY TABLE DATA <MONITOR MENU>

目的

本メニューは、既に設定されたりモートコントロールユニットから設定内容を複写する時に使用します。Ver.3.00以上のBKS-R3204, BKS-R3205が対象です。

設定手順

1. **[L]**を押します。このキーは、メニュー画面から入ることは勿論、他の設定状態で押しても有効です。
2. 画面にメッセージ “Station Number ?” が表示されますので、コピー元のステーション番号を入力します。
3. **[Enter]**を押すとコピーが実行され、メニュー設定画面に戻ります。
(再度 **[Ctrl] - [E]** を押すと、モニター系2次局のメニュー画面に戻ります。)
4. **[Ctrl] - [Z]**を押すと、モニター系1次局のメニュー画面に戻ります。

```

MONITOR SYSTEM SETUP MENU      BKS-R3204 V3 10 STATION NUMBER 6

Station Number ?

Ctrl-E: MENU      Ctrl-Z: RETURN
    
```

設定画面例

「SET PANEL TABLE」で設定されたデータがコピーされます。

N:SET PANEL TABLE (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210) <MONITOR MENU>**目的**

本メニューは、それぞれのソース/デスティネーション選択ボタンに、どのソース/デスティネーション名称を選択するかを設定します。

なお、MONITOR機能のときは、リモートコントロールユニットのボタン色はソース、デスティネーション共にグリーンとなります。

設定手順

- メニュー項目「N」を選択します。
- カーソルキーでボタン番号を選択します。
- Enter**を押すと、名称の入力モードになります。名称を入力する前に**Enter**を押すと、入力モードがキャンセルされます。
- 1次局メニューが「J:NAME STYLE (Type+ Num)」(「タイプ+番号」名称モード)のときは、タイプ名称(0~Fの番号で選択)→番号の順でソースとデスティネーション名称を入力します。
 - 1次局メニューが「J:NAME STYLE (DESCRIP. NAME)」(ディスクリプション名称モード)のときは、**Ctrl** - **N**を押すたびに入力モードを切り換えます。

画面に“Ctrl-N:Type + Num”と表示されている場合は、**Ctrl** - **N**で「タイプ名称+番号」名称モードに移ることを意味します。

ディスクリプション名称入力モード:

アルファベットキーと数字キーでディスクリプション名称を文頭から7文字まで直接入力します。

「タイプ+番号」名称入力モード:

a)と同様に行います。

注意

端子番号にディスクリプション名称が設定されている場合は、「タイプ+番号」名称で入力しても、ディスクリプション名称を優先的に表示します。

- Enter**を押すと、入力した名称が確定します。
- Ctrl** - **E**を押すと、モニター系2次局のメニュー画面に戻ります。
Ctrl - **Z**を押すと、モニター系1次局メニュー画面に戻ります。
Ctrl - **D**を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

MONITOR SYSTEM SETUP MENU BKS-R1607 V1 00 STATION NUMBER 3			
SET PANEL TABLE (SOURCE)		CONTROL DESTINATION = OUT001	
01 KEY=IN001	02 KEY=IN002	03 KEY=IN003	04 KEY=IN004
05 KEY=IN005	06 KEY=IN006	07 KEY=IN007	08 KEY=IN008
09 KEY=.	10 KEY=.	11 KEY=.	12 KEY=.
13 KEY=.	14 KEY=.	15 KEY=.	16 KEY=.
17 KEY=IN009	18 KEY=IN010	19 KEY=IN011	20 KEY=IN012
21 KEY=IN013	22 KEY=IN014	23 KEY=IN015	24 KEY=IN016
25 KEY=.	26 KEY=.	27 KEY=.	28 KEY=.
29 KEY=.	30 KEY=.	31 KEY=.	32 KEY=.
SET PANEL TABLE (DESTINATION)			
01 KEY=.	02 KEY=.	03 KEY=.	04 KEY=.
05 KEY=.	06 KEY=.	07 KEY=.	08 KEY=.
09 KEY=OUT001	10 KEY=OUT002	11 KEY=OUT003	12 KEY=OUT004
13 KEY=OUT005	14 KEY=OUT006	15 KEY=OUT007	16 KEY=OUT008
17 KEY=.	18 KEY=.	19 KEY=.	20 KEY=.
21 KEY=.	22 KEY=.	23 KEY=.	24 KEY=.
25 KEY=OUT009	26 KEY=OUT010	27 KEY=OUT011	28 KEY=OUT012
29 KEY=OUT013	30 KEY=OUT014	31 KEY=OUT015	32 KEY=OUT016
0=IN	1=OUT	2=.	3=.
4=.	5=.	6=.	7=.
8=.	9=.	A=.	B=.
C=.	D=.	E=.	F=.
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-N:Type + Num			

設定画面例

注意

- BKS-R3204/R3205/R3206の設定では、8ボタンを1組として、あらかじめメニュー項目「Z:SET PANEL STATUS」で設定します。“KEY=-----”が表示されているボタンには、名称を入力することができません。
- BKS-R1607/R1608/R3209/R3210の設定では、各ボタン(KEY)にソースかデスティネーションのどちらか一方のみ設定してください。
一つのボタンに重複して設定すると、誤動作の原因となります。
- ソース/デスティネーション選択ボタンにディスクリプション名称を設定するときは、あらかじめ当該リモートコントロールユニットに割り当てられたディスクリプション名称グループの中から選択してください。
グループ中に存在しない名称を入力すると、**Enter**を押しても確定されません。その場合は、1次局から希望するディスクリプション名称を含んだグループを転送してください。

参考

V1.10以上のBKS-R1607では、16個のボタンのうち任意のボタンをTAKEボタンとして設定することができます。

これにより前面パネルのSELECTORつまみで選んだ名称をTAKEすることができます。

(最大入力512×出力512)

設定方法は、ソース側でTAKEにしたいKEYを選び、**[T]** ボタンを押します。

SONY ROUTING SYSTEM SETUP MENU				BKS-R1607 V1 10 STATION NUMBER 12			
SET PANEL TABLE (SOURCE)		CONTROL		DESTINATION =		OUT244	
01 KEY=SRC004	02 KEY=SRC005	03 KEY=SRC006	04 KEY=SRC001				
05 KEY=SRC002	06 KEY=SRC003	07 KEY=SRC007	08 KEY=SRC008				
09 KEY=SRC009	10 KEY=SRC010	11 KEY=SRC013	12 KEY=SRC014				
13 KEY=.	14 KEY=	15 KEY=	16 KEY=TAKE				
SET PANEL TABLE (DESTINATION)							
01 KEY=.	02 KEY=	03 KEY=	04 KEY=				
05 KEY=	06 KEY=	07 KEY=	08 KEY=.				
09 KEY=.	10 KEY=	11 KEY=	12 KEY=				
13 KEY=OUT001	14 KEY=OUT012	15 KEY=OUT003	16 KEY=				
0=SRC	1=OUT	2=2	3=3	4=4	5=5	6=6	7=7
8=8	9=9	A=A	B=B	C=C	D=D	E=E	F=F
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Ctrl-N:DESCRIP. NAME T:TAKE							

設定画面例

S: DISPLAY DESCRIPTION NAME <MONITOR MENU>

目的

1次局より転送されたディスクリプション名称のグループ及び名称の確認を行います。

確認手順

1. 次ページを見る場合は **[Enter]** または **[SPACE]** を押します。
2. 前ページを見る場合は **[BS]** または **[DEL]** を押します。
3. **[Ctrl] - [E]** を押すと、2次局のメニュー画面に戻ります。
[Ctrl] - [D] を押すと、1次局のメニュー画面に戻ります。

MONITOR SYSTEM SETUP MENU				BKS-R3206 V3 10 STATION NUMBER 16			
GROUP No. = 1							
No.	Terminal Name	Description Name		No.	Terminal Name	Description Name	
1	DST- 001	OUT001	London	2	DST- 002	OUT002	NewYork
3	SRC- 001	IN001	Berlin	4	SRC- 002	IN002	Moscow
5	SRC- 003	IN003	Tokyo	6	SRC- 004	IN004	Cairo
7	SRC- 005	IN005	Berling	8	SRC- 006	IN006	Madrid
9	SRC- 007	IN007	Toronto	10	DST- 005	OUT005	Paris
11	DST- 008	OUT008	Rome	12	DST- 012	VTR012	OUT012
13	DST- 013	VTR013	OUT013	14	DST- 014	VTR014	OUT014
15	DST- 015	VTR015	OUT015	16	DST- 016	SONY016	OUT016
17	DST- 017	VTR017	OUT017	18	DST- 018	VTR018	OUT018
19	DST- 019	VTR019	OUT019	20	DST- 020	VTR020	OUT020
21	DST- 021	VTR021	OUT021	22	DST- 022	VTR022	OUT022
23	DST- 023	VTR023	OUT023	24	DST- 024	VTR024	OUT024
25	DST- 025	VTR025	OUT025	26	DST- 026	VTR026	OUT026
27	DST- 027	VTR027	OUT027	28	DST- 028	VTR028	OUT028
29	DST- 029	VTR029	OUT029	30	DST- 030	VTR030	OUT030
31	DST- 031	VTR031	OUT031	32	DST- 032	VTR032	OUT032
33	DST- 033	VTR033	OUT033	34	DST- 034	VTR034	OUT034
35	DST- 035	VTR035	OUT035	36	DST- 036	VTR036	OUT036
37	DST- 037	VTR037	OUT037	38	DST- 038	VTR038	OUT038
39	DST- 039	VTR039	OUT039	40	DST- 040	VTR040	OUT040
Ctrl-E:MENU				Ctrl-D:RETURN			
				Ctrl-H:Pg-Up			
				Ctrl-M:Pg-Dn			

設定画面例

注意

V1.10以上のBKS-R1607/R1608/R3209/R3210は、1次局から転送された160個のディスクリプション名称を、ブロック番号とは無関係に、端子番号順に入力512×出力512の範囲で登録することができます。160個以上の名称を使用する場合は、複数のブロックに分けて1次局から送信してください。

画面操作は次のとおりです。

ソース側からデスティネーションを見る :  キー
 デスティネーション側からソースを見る :  キー
 前ページへ送る :  キー
 次ページへ送る :  キー

MONITOR SYSTEM SETUP MENU

BKS-R3210 V1 10

STATION NUMBER 6

SOURCE

name	Description	name	Description
1 IN001	CAM001	2 IN002	CAM002
3 IN003	CAM003	4 IN004	CAM004
5 IN005	VTR005	6 IN006	VTR006
7 IN007	VTR007	8 IN008	VTR008
9 IN009	ONAIR01	10 IN010	ONAIR02
11 IN011	ONAIR03	12 IN012	ONAIR04
13 IN013	STADIO1	14 IN014	STADIO2
15 IN015	STADIO3	16 IN016	STADIO4
17 IN017	MONI001	18 IN018	MONI002
19 IN019	IN019	20 IN020	IN020
21 IN021	IN021	22 IN022	IN022
23 IN023	IN023	24 IN024	IN024
25 IN025	IN025	26 IN026	IN026
27 IN027	IN027	28 IN028	IN028
29 IN029	IN029	30 IN030	IN030
31 IN031	IN031	32 IN032	IN032

Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Right:DESTINATION Left:SOURCE

設定画面例

MONITOR SYSTEM SETUP MENU				BKS-R3210 V1 10		STATION NUMBER 6	
DESTINATION							
name		Description		name		Description	
1	OUT001	DST001		2	OUT002	DST002	
3	OUT003	DST003		4	OUT004	DST004	
5	OUT005	DST005		6	OUT006	DST006	
7	OUT007	DST007		8	OUT008	DST008	
9	OUT009	OUT009		10	OUT010	OUT010	
11	OUT011	OUT011		12	OUT012	OUT012	
13	OUT013	OUT013		14	OUT014	OUT014	
15	OUT015	OUT015		16	OUT016	OUT016	
17	OUT017	OUT017		18	OUT018	OUT018	
19	OUT019	OUT019		20	OUT020	OUT020	
21	OUT021	OUT021		22	OUT022	OUT022	
23	OUT023	OUT023		24	OUT024	OUT024	
25	OUT025	OUT025		26	OUT026	OUT026	
27	OUT027	OUT027		28	OUT028	OUT028	
29	OUT029	OUT029		30	OUT030	OUT030	
31	OUT031	OUT031		32	OUT032	OUT032	
Ctrl-E:MENU Ctrl-D:RETURN Right:DESTINATION Left:SOURCE							

設定画面例

Z: SET PANEL STATUS (BKS-R1607/R1608/R3204/R3205/R3209/R3210) <MONITOR MENU>

目的

リモートコントロールユニットの各種モードを設定します。BKS-R1607/R1608/R3209/R3210は、複数台組み合わせ、コントロールできるソース/デスティネーション数を拡張することができます。そのための親機・子機設定も、このメニューで行います。(親機は、10台まで登録できます)

設定内容は下記の通りです。

DISPLAY MODE

STATUS=1次局のクロスポイントテーブルの状態を表示
 PROMPT=押したボタンを点灯

PROTECT MODE

ON AIR=プロテクト時でもそのパネルからは切り換えを実行する

NORMAL=プロテクト時の切り換えは不可

PHANTOM PROTECT

PART PROT=プロテクトのかかっているファントムのみを切り換える

FULL PROT=一つでもプロテクトONの切り換えが含まれている場合、全てのファントム切り換えを行わない

BUTTON LINK=パネルのプロテクトボタンがONの時は、全てのファントム切り換えを行わない

PANEL MODE*3

STAND ALONE=単体機

MOTHER = 親機

DAUGHTER = 子機

PANEL LAYOUT*1

TYPE + NUM.=X-Y選択

DIRECT = ダイレクト選択

LEVEL MODE*1

SINGLE=単一レベル選択

MULTI = 複数レベル選択

DEST SELECTION*2

DISABLE=パネルからのデスティネーション変更を禁止

ENABLE = パネルからのデスティネーション変更を許可

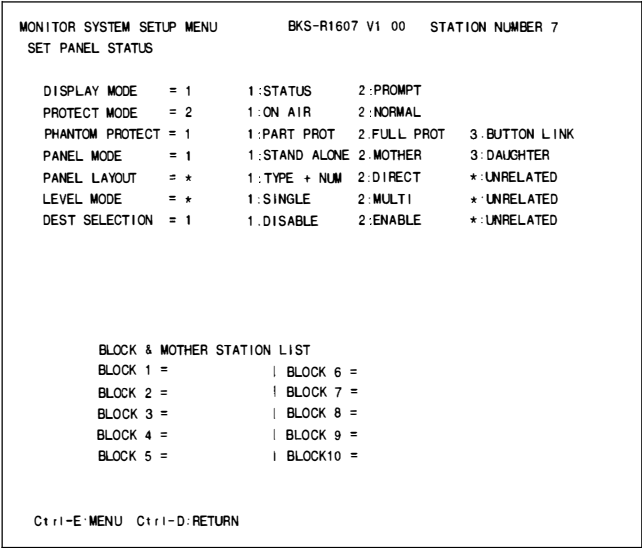
*1: BKS-R3210のみ対象

*2: BKS-R1607のみ対象

*3: モニタ S-BUS では、親子設定する必要がないため、常に STAND ALONE=単体機で使用してください。

設定手順

- 1. メニュー項目「Z」を選択します。
- 2. “DISPLAY MODE=1” にカーソルが表示されます。
目的のモードにカーソルを移動し (↑, ↓), **Enter** を
押すと、入力モードに入ります。
- 3. 数字キーで選択する番号を入力します。
Enter を押して確定すると、カーソルは次の設定項目
に移動します。
デフォルト値を変更しない場合は、何も入力しないで
Enter を押してください。

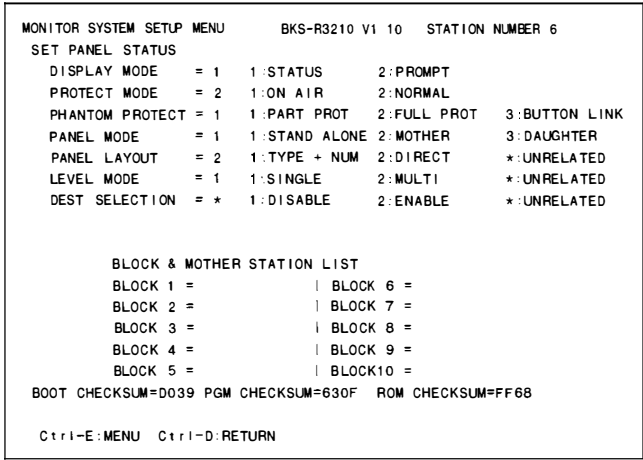


設定画面例

参考

V1.10のBKSシリーズより、チェックサムが表示されま
す。
プログラムデータが同じかどうかをチェックする方法と
して、バージョン表示の他にこのチェックサムがありま
す。(主に PGM CHECKSUM を使用します。)
表示されるチェックサムは3通りです。

- BOOT CHECKSUM=D039
ROM を立ち上げるためのプログラムエリアのチェッ
クサムです。
- PGM CHECKSUM=630F
実際のプログラムのあるエリアのチェックサムです。
- ROM CHECKSUM=FF68
ROM 全体のチェックサムです。



設定画面例

5-5. テーブルデータのバックアップについて

コントロールターミナルで設定したテーブルデータは、CPU 基板上の RAM にメモリーされます。しかし、万一データが破損したり消失したときに備えて、設定したデータのバックアップを取ることを推奨します。

ソニーのルーティングスイッチャーシステム制御用ソフトウェア BZR-1000 (IBM PC 互換機対応) または BZR-10 を使用すれば、簡単にデータのバックアップを取ることができます。

詳細については、BZR-1000 および BZR-10 に付属のオペレーションマニュアルをご覧ください。

5-6. データ消失時の対応

DVS-V3232B/V6464B の場合

動作確認の際に、エラー No. インジケータが“00”を表示しているにもかかわらず、CPU 基板上の LED (D7) が点灯しない場合は、全てのテーブルデータが消失したことを示しています。

まず第 1 に、CPU 基板上の COR1 の設定状態を確認してください。

OFF 側の場合：ON 側に設定します。

ON 側の場合：リチウム電池 (BT1) の不良が考えられます。BT1 の電圧を測定し、2 V 以下の時は新しい電池と交換してください。電池の交換については、販売担当にご相談ください。

次に、以下の手順でセットを初期化します。

1. CPU-149 基板上の COR1 を ON 側に切り換えます。
2. テストスイッチ (S3) を“D”に設定し、リセットスイッチ (S5) を押します。
3. テストスイッチ (S3) を“0”に設定し、リセットスイッチ (S5) を押します。
4. コントロールターミナルのメニュー画面を呼びだし、メニュー項目「T:SET CLOCK」を選択して現在の時刻を設定します。

BKPF-R70 の場合

動作確認の際に、エラー No. インジケータが“00”を表示しているにもかかわらず、CPU 基板上の LED (D2) が点灯しない場合は、全てのテーブルデータが消失したことを示しています。

リチウム電池 (BT1) の電圧を測定し、2 V 以下の時は新しい電池 (CR2025) と交換してください。電池の交換については、販売担当にご相談ください。

HDS-V3232 の場合

動作確認の際に、エラー No. インジケータが“00”を表示しているにもかかわらず、CPU 基板上の LED (D13) が点灯しない場合は、全てのテーブルデータが消失したことを示しています。

まず第 1 に、CPU 基板上の CN5 の設定状態を確認してください。

OFF 側の場合：ON 側に設定します。

ON 側の場合：リチウム電池 (BT1) の不良が考えられます。BT1 の電圧を測定し、2 V 以下の時は新しい電池と交換してください。電池の交換については、販売担当にご相談ください。

次に、以下の手順でセットを初期化します。

1. CPU-251 基板上の CN5 を ON 側に切り換えます。
2. テストスイッチ (S2) を“D”に設定し、リセットスイッチ (S8) を押します。
3. テストスイッチ (S2) を“0”に設定し、リセットスイッチ (S8) を押します。
4. コントロールターミナルのメニュー画面を呼びだし、メニュー項目「T:SET CLOCK」を選択して現在の時刻を設定します。

5-7. テーブルデータの初期化

テーブルデータを初期化する場合は、次に示す5つの方法があります。どの方法を行うかによって、初期化の対象となる項目が異なりますのでご注意ください。

5-7-1. 初期化の手順と対象項目

DVS-V3232B/V6464B の場合

初期化手順	対象となるメニュー項目
1 CPU-149 基板のテストスイッチ (S3) を “D” に設定する 2. リセットスイッチ (S5) を押す	1 次局および 2 次局の全項目
2 1. CPU-149 基板のテストスイッチ (S3) を “C” に設定する 2. リセットスイッチ (S5) を押す	「W:SYSTEM STATUS LOG」
3 1 次局のメニュー項目「K:RESET TO DEFAULT TABLE」を選択し、 [Y] を押す	以下の 4 項目を除く 1 次局の全項目 ・「H:SET GLOBAL PHANTOM」 ・「N:SET DESCRIPTION NAME GROUP」 ・「O:SET TIE LINES」 ・「W:SYSTEM STATUS LOG」
4 2 次局のメニュー項目「K:RESET TO DEFAULT TABLE」を選択し、 [Y] を押す	クロスポイントデータを除く 2 次局の全項目
5 2 次局のメニュー項目「U:SELECT REMOTE PROTOCOL」を選択し、 [F2] (DEFAULT) を押す	「U:SELECT REMOTE PROTOCOL」

BKPF-R70 の場合

初期化手順	対象となるメニュー項目
1 CPU-256 基板のテストスイッチ (S5) を “D” に設定する 2. リセットスイッチ (S1) を押す	1 次局および 2 次局の全項目
2 1. CPU-256 基板のテストスイッチ (S5) を “C” に設定する 2. リセットスイッチ (S1) を押す	「W:SYSTEM STATUS LOG」
3 1 次局のメニュー項目「K:RESET TO DEFAULT TABLE」を選択し、 [Y] を押す	以下の 4 項目を除く 1 次局の全項目 ・「H:SET GLOBAL PHANTOM」 ・「N:SET DESCRIPTION NAME GROUP」 ・「O:SET TIE LINES」 ・「W:SYSTEM STATUS LOG」
4 2 次局のメニュー項目「K:RESET TO DEFAULT TABLE」を選択し、 [Y] を押す	クロスポイントデータを除く 2 次局の全項目
5 2 次局のメニュー項目「U:SELECT REMOTE PROTOCOL」を選択し、 [F2] (DEFAULT) を押す	「U:SELECT REMOTE PROTOCOL」

HDS-V3232 の場合

初期化手順	対象となるメニュー項目
1 CPU-251 基板のテストスイッチ (S2) を “D” に設定する 2. リセットスイッチ (S8) を押す	1 次局および 2 次局の全項目
2 1. CPU-251 基板のテストスイッチ (S2) を “C” に設定する 2. リセットスイッチ (S8) を押す	「W:SYSTEM STATUS LOG」
3 1 次局のメニュー項目「K:RESET TO DEFAULT TABLE」を選択し、 [Y] を押す	以下の 4 項目を除く 1 次局の全項目 ・「H:SET GLOBAL PHANTOM」 ・「N:SET DESCRIPTION NAME GROUP」 ・「O:SET TIE LINES」 ・「W:SYSTEM STATUS LOG」
4 2 次局のメニュー項目「K:RESET TO DEFAULT TABLE」を選択し、 [Y] を押す	クロスポイントデータを除く 2 次局の全項目
5 2 次局のメニュー項目「U:SELECT REMOTE PROTOCOL」を選択し、 [F2] (DEFAULT) を押す	「U:SELECT REMOTE PROTOCOL」

注意

テーブルデータの初期化を行っても、時計の時刻については初期化されません。

5-7-2. 初期化実行後のデフォルト値

	項目	デフォルト値
1 次局	「B :SET SOURCE/DEST TYPE」	TYPE: 0=IN, 1=OUT, 2=F=なし NAME: IN001-IN512, OUT001-OUT512
	「E :SET LEVEL TABLE」	全デスティネーションの全レベルは ENABLE レベル名称: 1, 2, 3, ..., 7, 8
	「F :SET ACTIVE UNIT NUMBER」	DVS-V3232B: STATION 2- 33 ENABLE DVS-V6464B: STATION 2- 65 ENABLE
	「H :SET SOURCE/DEST TYPE」	設定なし
	「J :NAME STYLE」	TYPE + Num (「タイプ + 番号」名称モード)
	「L :SET PHYSICAL ASSIGNMENT」	仮想端子番号 = 物理端子番号
	「M :SET INHIBIT TABLE」 「N :SET DESCRIPTION NAME GLOUP」 「O :SET TIE LINES」 「P :CHANGE PASSWORD」	設定なし
	「S :SELECT INDICATION COLOR」	OFF
	「U :SELECT CONTROL MODE」	全チャンネル: DIRECT
	「V :SELECT WARNING DISPLAY」	OFF
	「W :SYSTEM STATUS LOG」	LOG なし
	「Z :SET UNIT DETECTABLE」	全ステーション: OFF
2 次局	「A :SET UNIT LOCATION」	OFFSET なし
	「U :SELECT REMOTE PROTOCL」	CART+, UA2= 10000000, 端子番号は 1 対 1
	「Z :SELECT SDI FORMAT」	入出力はすべて 4:2:2 フォーマット, SWITCHING FIELD=FIELD
	クロスポイントデータ	接続は入出力 1 対 1

注意

HDS-V3232 には、1 次局メニュー項目「S」がありません。また、2 次局メニュー項目「Z」は SWITCHING FIELD のみです。

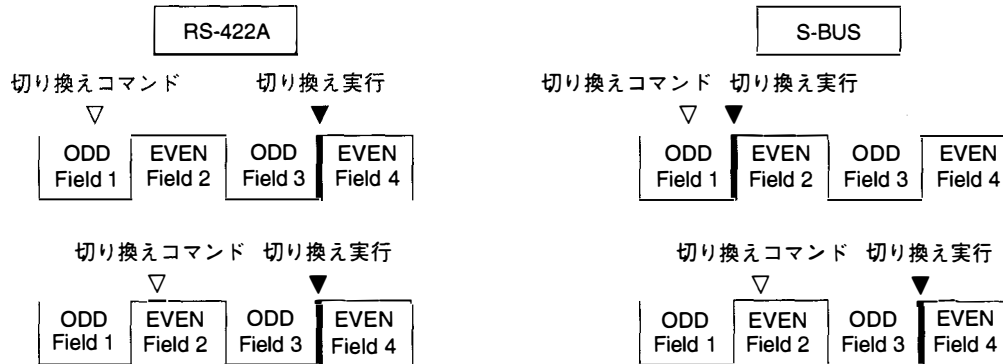
5-8. 信号の切り換えタイミング

DVS-V3232B/V6464B および HDS-V3232 は、コントロールターミナルから信号を切り換えるフィールド (SWITCHING FIELD) を設定することができます。SWITCHING FIELD の設定は、2 次局のメニュー項目「Z」で行い、4 つのモード (ODD, EVEN, FIELD, ASYNC) から任意の 1 つを選択します。

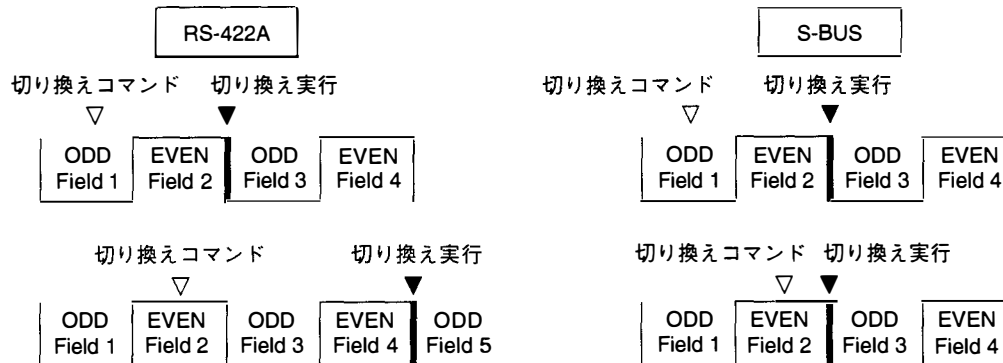
信号が切り換わるタイミングは、RS-422A と S-BUS のどちらで制御するかにより異なります。

以下に、RS-422A と S-BUS のタイミングチャートを SWITCHING FIELD のモード設定ごとに示します。

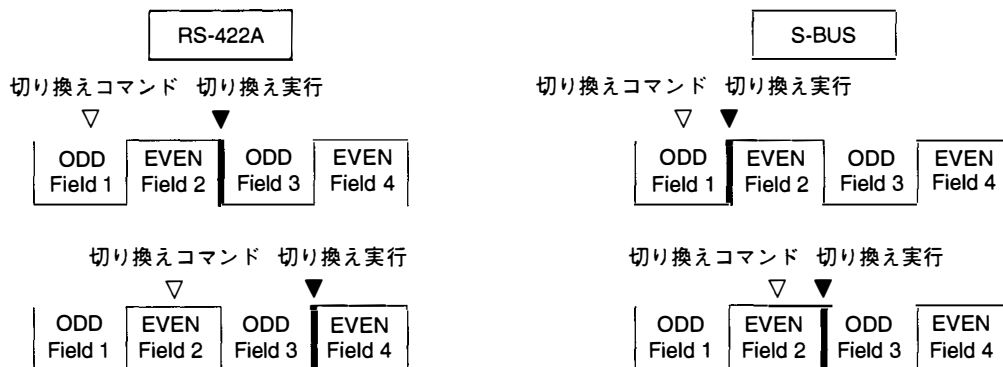
・ SWITCHING FIELD = EVEN に設定したとき



・ SWITCHING FIELD = ODD に設定したとき



・ SWITCHING FIELD = FIELD に設定したとき



・ SWITCHING FIELD = ASYNC に設定したとき

制御方式やプロトコルに関係なく、切り換えコマンドを受信次第、信号の切り換えが実行されます。

第6章 動作確認

6-1. 概要

ルーティングシステムの設定がすべて終了した後、システムが正常に動作することを確認してください。

各ルーティングスイッチャーは、システムの接続や機器のステータスをチェックする自己診断機能を搭載しています。この自己診断機能は、機器の電源を投入するリセットすると自動的に確認動作を開始します。もし、不具合や異常が検出された場合には、以下に示す4種類の方法でエラーの発生と内容を表示します。

1. ステータス表示ランプ
2. システムステータス画面 (*)
3. エラー No. インジケータ
4. 基板上の LED

また、エラーの詳細や発生原因を追求するための手段として、テストモードやISR機能を用意しています。

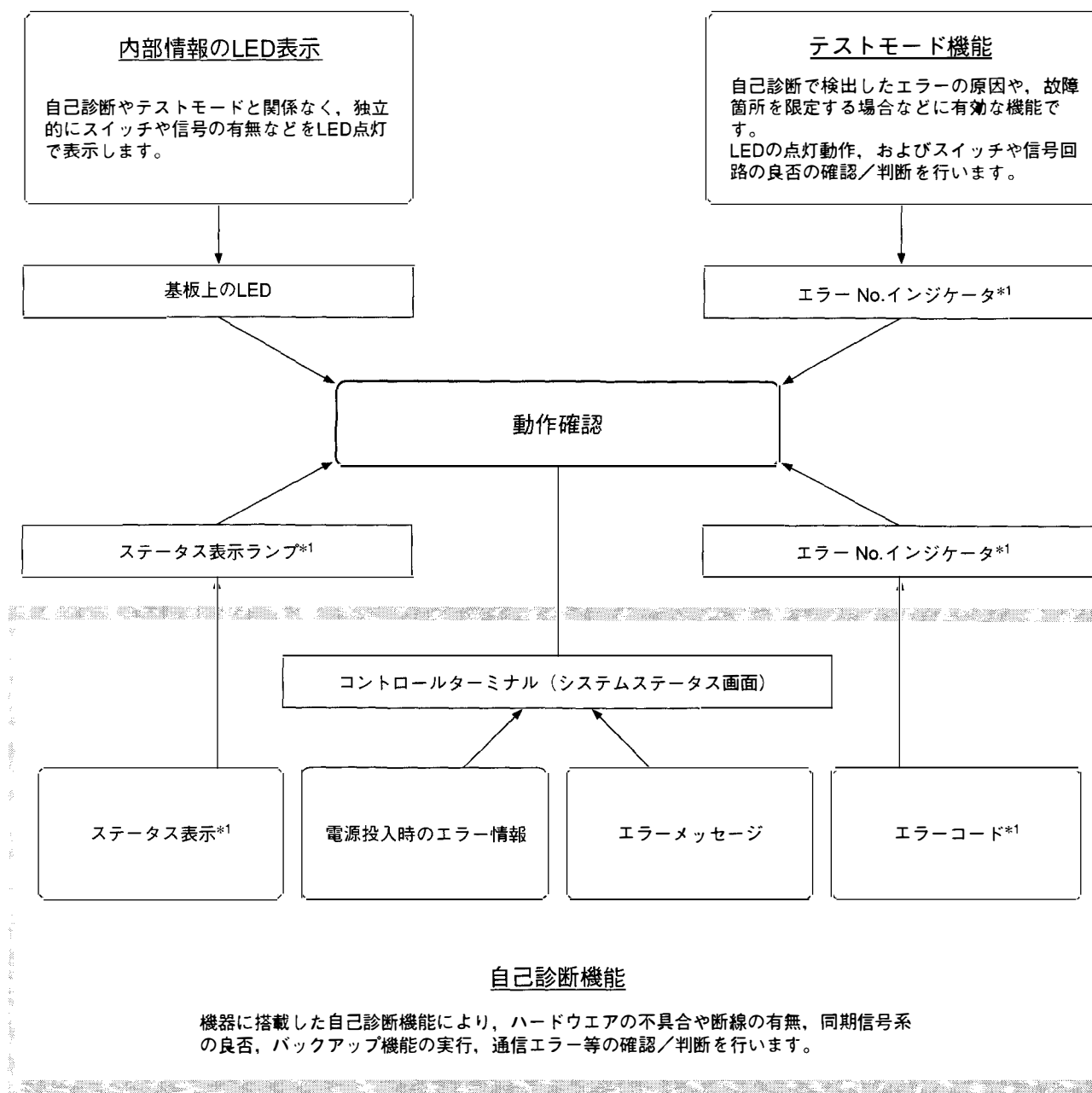
本章では、システム運用時に行う動作確認の構成と概要、および「2. システムステータス画面」に表示されるエラーメッセージの詳細について説明しています。

なお、「1. ステータス表示ランプ」や「3. エラー No. インジケータ」、ISR機能の詳細については、各機器に付属のオペレーションマニュアルやインストレーションマニュアルを参照してください。また、「4. 基板上のLED」と「テストモード」については、メンテナンスマニュアルを参照してください。

※: 「2. システムステータス画面」は、S-BUS制御システムの1次局に接続したコントロールターミナルに表示する診断機能を意味します。

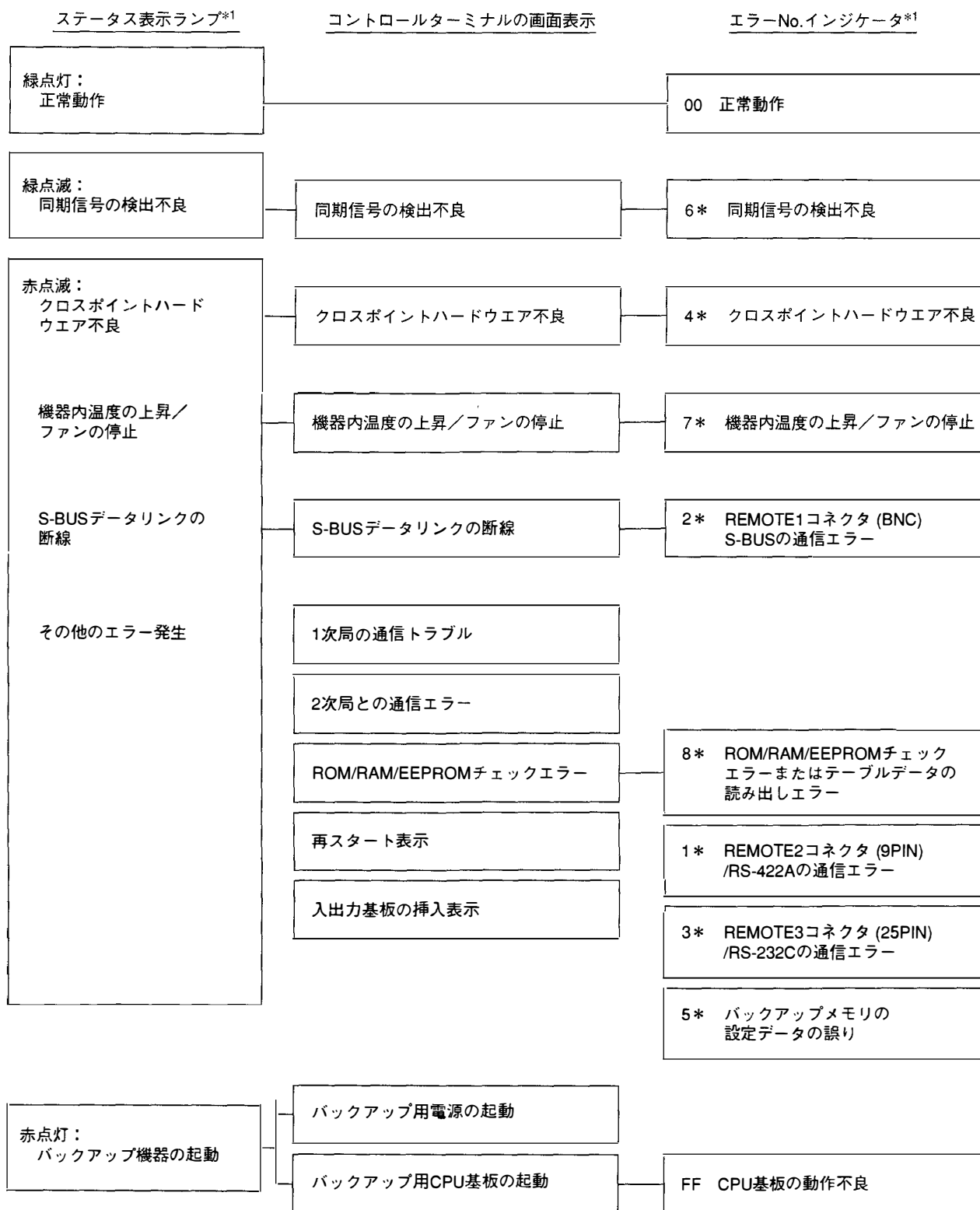
6-2. 動作確認の構造

ルーティングスイッチャーの動作確認とエラー表示の組み立ては次のとおりです。



*1 : HDS-V3232 には、ステータス表示ランプおよびエラー No. インジケータによる診断機能がありません。

6-3. 自己診断項目相関図



*1: HDS-V3232 には、ステータス表示ランプおよびエラー No. インジケータによる診断機能がありません。

6-4. 機種別診断項目

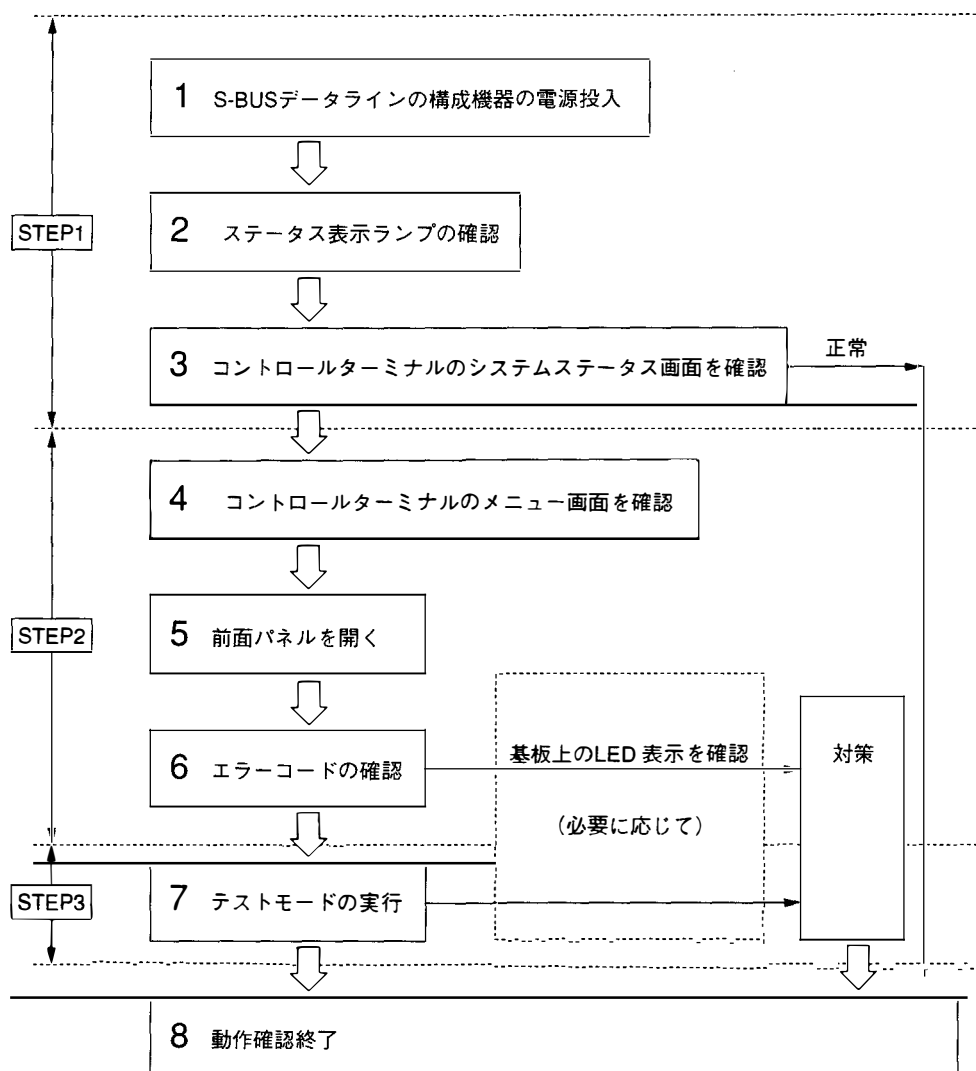
自己診断項目	表示方法			搭載機種			
	ステータス 表示ランプ*1	ステータス 画面	エラー No. インジケータ*1	DVS-V1616	DVS-V3232B DVS-V6464B HDS-V3232	DVS-A3232	DVS-RS1616 DVS-TC3232 BVS-V3232 BVS-A3232
正常動作の確認	○	—	○	○	○	○	○
同期信号の検出	○	○	○	○	○	○	○
タイミングジェネレータの 同期信号検出	—	—	○	—	—	○	—
タイミングジェネレータの 同期信号ロック機能	—	—	○	—	—	○	—
クロスポイント ハードウェアの良否	○	○	○	○	○	○	○
機器内温度 / ファンの 駆動状態	○	○	○	○	○	○	○
S-BUS データリンクの 断線有無	○	○	○	○	○	○	○
2 次局との通信状態	—	○	—	—	○	—	—
ROM/RAM/EEPROM の チェック	—	○	○	○	○	○	○
再スタート表示	—	○	—	○	○	○	○
入出力基板の挿入表示	—	○	—	—	○*2	○	○
入出力基板の未挿入表示	—	○	—	○	○*2	○	○
REMOTE 2/RS-422A の 通信状態	—	—	○	○	—	○	○
REMOTE 3/RS-232C の 通信状態	—	—	○	○	—	○	○
バックアップメモリ 設定データ	—	—	○	○	○	○	○
バックアップ用電源の起動	○	○	—	—	○	○	○
バックアップ用 CPU 基板の 起動	○	○	○	—	○	○	○
CPU 基板の動作	○	○	○	—	○	○	○
タイマーストップ	—	○	—	—	○	—	—

*1: HDS-V3232 には、ステータス表示ランプおよびエラー No. インジケータによる診断機能がありません。

*2: HDS-V3232 は、入出力基板が 1 枚も装着されていない場合のみ、入出力基板の挿入／未挿入を表示します。

6-5. 動作確認のプロセス

ルーティングシステムの設置終了後、下記手順にしたがってシステムおよび構成機器の動作確認を行います。動作確認のプロセスは、3つの階層構造になっています。STEP2以降のプロセスは、STEP1でエラーが検出された場合のみ行います。もしSTEP1で異常がなければ、その段階で確認プロセスは終了します。しかし、STEP1でエラーが検出されたときは、その表示内容で原因が判明する場合を除き、STEP2以降のチェックを行って不良箇所や原因を追求する必要があります。対策や処置の方法については、各機器に付属のオペレーションマニュアルやメンテナンスマニュアルを参照してください。



6-6. コントロールターミナルによる動作確認

コントロールターミナルで動作確認を行う場合、目的によって2種類の表示モードを選択することができます。ひとつはシステムステータス画面、もうひとつはメニュー画面の「W」メニューです。

システムステータス画面は、システムの電源投入後に1次局が自動的に行う自己診断の結果を表示します。また、S-BUSデータリンク上の各局が発信してきたエラーメッセージをリアルタイムで表示します。そのため、システム運用中のモニターとして使用できます。

過去のシステムステータスを確認したいときは、メニュー画面を開き、メニュー項目「W:SYSTEM STATUS LOG」を選択します。このメニューでは、メモリーの中からシステムステータスだけを取り出して、エラー内容や対象局、発生時刻などを表示します。したがってエラーメッセージのチェックおよびエラーの該当局や発生時間の割り出し用として使用されます。

参考

コントロールターミナルは、システムのエラーを常時チェックし、これをメモリー表示できるため、システムの動作監視用としてたいへん有効です。したがって初期設定が完了したあとも、引き続きこのコントロールターミナルを接続しておくことを推奨します。

6-6-1. 電源投入時のシステムステータス画面

1次局の電源投入時には、1次局の自己診断の結果およびROMのチェックサム値などが下図のように表示されます。

自己診断の結果が正常であればその項目に“OK”を表示し、異常が発見された場合にはその項目を反転表示します。

SONY Digital Routing System DVS-V6464B V2.10		
ITEM		
①.....	ROM CHECK SUM	8A65
②.....	RAM READ AND WRITE	OK
③.....	REFERENCE SIGNAL	OK
④.....	S-BUS LINK TERMINATE	OK
⑤.....	REAL TIME CLOCK	
STARTED		
1993.02.03-22.15 STARTED BY DVS-V6464B Ver2.10 IN STATION 1		
1993.02.03-22.15 S-BUS LINK DISCONNECTED TO CHANNEL B		
1993.02.03-22.15 MISSING REFERENCE SIGNAL IN STATION 1		
1993.02.03-22.15 POWER SUPPLY UNIT B DOWN IN STATION 1		

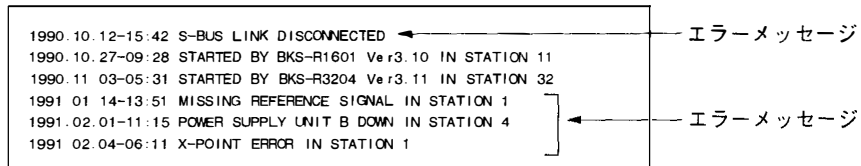
電源投入時のシステムステータス画面例

表示内容

- ① 1次局のCPU基板上にあるROMのチェックサム値。
- ② 1次局におけるRAMの読出し／書き込み動作の良否。
- ③ 1次局における同期信号の検出結果。
- ④ S-BUSデータリンクにおける75Ω終端の有無。
- ⑤ REAL TIME CLOCK ICの発振停止検出

6-6-2. システム運用中のシステムステータス画面

システムステータス画面では、S-BUSデータリンク上にメッセージ電文が出力されたとき、その電文に発生日時を付加し表示します。システム運用中にエラーが発生すると、エラーメッセージを表示します。



運用中のシステムステータス画面例

6-6-3. メニュー項目「W:SYSTEM STATUS LOG」

エラーメッセージだけの再チェックを行いたいときや、エラー内容の詳細および発生時刻の確認をする場合は、メニュー画面の「W:SYSTEM STATUS LOG」を選択します。1次局のRAMにメモリーしてあるすべてのエラー情報を、自由に呼び出すことができます。

操作手順

1. 1次局の電源をONにすると、自動的にシステムステータス画面が立ち上がります。
2. **Ctrl** - **X** を押すとメニュー画面に変わります。
パスワードが設定されている場合にはその入力要求が表示されます。そのときは数字キーおよびアルファベットキーでパスワードを入力し、**Return** または **Enter** を押してください。
3. メニュー項目「W」を選択します。
4. すべてのエラー内容を1画面に表示できない場合は、表示画面の下に“-- more --”が表示されます。
SPACE を押すと、次のエラー内容が表示されます。
すべてのエラー内容の表示が終了すると、“-- end --”が表示されます。
5. **Ctrl** - **E** を押すとメニュー画面に戻ります。
6. さらに **Ctrl** - **X** を押すとシステムステータス画面に戻ります。

6-6-4. エラーメッセージの内容と対策

コントロールターミナルに表示されるエラーメッセージは、エラー内容によって11通り用意されています。しかし機種によっては、エラー検出できないものや文章の一部が異なる場合もあります。メッセージやその対応方法についての詳細は、各機器に付属のオペレーションマニュアルを参照してください。標準的なメッセージとその対応方法は次のとおりです。

X-POINT ERROR IN STATION ***

内容：クロスポイント・ハードウェア不良

表示中のステーションに接続されているクロスポイントの信号の有無を比較した結果、入力信号があるのに出力信号がない場合や、入力信号がないのに出力信号がある場合、または入／出力基板が正しく挿入されていないときに表示されます。

対応：ステーション***のクロスポイントが不良です。入出力基板が正しく取り付けられているか確認してください。

TEMPERATURE RISE OR FAN STOP IN STATION ***

内容：表示中のステーションの機器内の温度が上昇、またはファンが停止した場合に表示されます。

対応：速やかにステーション***の電源を切り、ショートや漏電の有無、ファン周辺のメカ部品の不具合等の有無を確認してください。

MISSING REFERENCE SIGNAL IN STATION ***

内容：本体のCPU基板のSYNC/ASYNC切り換えスイッチが同期切り換えモード (SYNC) に設定されている場合で、REF IN コネクタにリファレンスビデオ信号が入力されていない場合に表示されます。

対応：ステーション***のREF IN コネクタに同期信号を接続してください。

注意

無入力の場合は、CPU基板のSYNC/ASYNC切り換えスイッチを「ASYNC」側に設定してください。同期切り換えモード (SYNC) でリファレンスが入力されていないときは、クロスポイントの切り換えは自動的に非同期切り換えモード (ASYNC) として動作します。

CHANGED OVER TO BACKUP POWER SUPPLY IN STATION ***

内容：動作中の電源出力が低下し、予備電源側に切り換わったときに表示されます。

対応：ステーション***のメイン電源を取り外し、修理または新品交換を行ってください。


```

DIFFERENT CHECK SUM= 2222 IN STATION ***

```

↑
——— チェックサム値

内容：本機のリセット後にROMのチェックサムおよびRAMの書き込みテストを行った結果、不具合が発生している場合に表示されます。

対応：該当するROMを交換してください。

注意

ROMを交換した場合にもこのエラーが表示されますが、異常ではありません。

コントローラターミナルからメニュー項目「J:RECALL MAIN TABLE」を行い、再度該当する機器のリセットを行うと、正常に動作します。

```

S-BUS LINK DISCONNECTED

```

内容：S-BUS データリンクがどこかで断線している場合に表示されます。

対応：S-BUSラインと各ステーションの接続状態、および未使用のS-BUS端子やS-BUSラインの末端が75Ωで終端されているか確認してください。

断線箇所を調べるにはメニュー項目「R:CALL SECONDARY STATION」を用いて、応答の有無をチェックする方法があります。

注意

未使用のS-BUS端子は必ず75Ωで終端してください。

断線を検出すると、1次局側で自動的に75Ω終端を行い、断線位置の手前の局との通信が再開されます。この場合、接続されている部分でも一部通信できない局があります。

```

CHANGED OVER TO BACKUP CPU IN STATION ***

```

内容：動作中のCPU基板に不具合が発生し、バックアップ用の副CPU基板に切り換わったときに表示します。

対応：主CPU基板を取り外し、修理または新品交換してください。

```

STARTED BY *** - ***** Ver *** IN STATION ***

```

内容：瞬時の停電などにより再スタートしたときに発生します。電源を入れたときにも発生します。

STATION *** FAILURE (DISCONNECTED OR POWER DOWN)

内容：メニュー項目「F」で設定された局との通信ができなくなると表示します。

対応：ステーション***のステータス表示ランプをチェックし、症状に応じた処置をとってください。

VALID INPUT OR OUTPUT BOARD IN STATION ***

内容：ステーション***に入出力基板が挿入されると表示されます。

INVALID INPUT OR OUTPUT BOARD IN STATION ***

内容：ステーション***から入出力基板が取り出されると表示されます。

付録

機能別メニュー項目一覧

機能	内容	メニュー項目	S-BUS データ リンク上の種別
基本設定	テーブルデータの初期化	K : RESET TO DEFAULT TABLE	1次局
	パスワードの設定/変更	P : CHANGE PASSWORD	
	現在時刻の登録	T : SET CLOCK	
	警告表示の有無	V : SELECT WARNING DISPLAY	
	タイプ名称の設定	B : SET SOURCE/DEST TYPE	
	名称モードの選択	J : NAME STYLE	
	デスティネーション名称の設定	C : SET DESTINATION NAME	
	ソース名称の設定	D : SET SOURCE NAME	
	ディスクリプション名称 Gp の設定	N : SET DESCRIPTION NAME GROUP	
	レベルテーブルの設定	E : SET LEVEL TABLE	
	アクティブユニットの設定	F : SET ACTIVE UNIT NUMBER	
	テーブルデータバックアップ	G : UPDATE BACKUP CONTROLLER	
	物理端子名称の割り付け	L : SET PHYSICAL ASSIGNMENT	
	2次局の呼び出し	R : CALL SECONDARY STATION	
	ロケーションの設定	A : SET UNIT LOCATION	2次局
	テーブルデータバックアップ	G : UPDATE BACKUP CONTROLLER	
	テーブルデータの複写	L : COPY TABLE DATA	2次局
	複数台使用モードの設定	Z : SET PANEL STATUS	(リモート
	パネルボタンの割り付け	N : SET PANEL TABLE	コントロール
	選択可能なデスティネーション設定	O : SET AVAILABLE DESTINATION	ユニット)
クロスポイントを無効にする機能		M : SET INHIBIT TABLE	1次局
グローバルファントム機能		H : SET GLOBAL PHANTOM	1次局
ローカルファントム機能	2次局のファントム設定	H : SET PHANTOM TABLE	2次局
プロテクト機能	プロテクトの設定	C : SET DESTINATION NAME	1次局
シークレット機能	シークレットの設定	D : SET SOURCE NAME	1次局
タイライン管理	タイライの設定	O : SET TIE LINES	1次局
RS-422A 9 ピン制御	コントロールモードの選択	U : SELECT CONTROL MODE	1次局
	2次局の呼び出し	R : CALL SECONDARY STATION	
	プロトコル選択	U : SELECT REMOTE PROTOCOL	2次局

機能	内容	メニュー項目	S-BUS データ リンク上の種別
モニター機能	2次局の呼び出し	R : CALL SECONDARY STATION	1次局
	モニター系1次局の呼び出し	M : SET MONITOR FUNCTION	2次局
	アクティブユニットの選択	F : SET ACTIVE UNIT NUMBER	モニター系
	モニターモードの選択	M : SELECT MONITOR FUNCTION	1次局
	モニター系2次局の呼び出し	R : CALL SECONDARY STATION	
	入出力モニターの設定	M : SET AVAILABLE MONITOR LINE	モニター系
	パネルボタンの割り付け	N : SET PANEL TABLE	2次局
	設定データの複写	L : COPY TABLE DATA	
	ディスクリプション名称の確認	S : DISPLAY DESCRIPTION NAME	
	パネルテーブルの設定	Z : SET PANEL STATUS	
その他	入出力範囲の確認	A : DISPLAY CONTROL AREA	1次局
	クロスポイントの変更	Q : CHANGE CROSSPOINT	
	表示色の指定	S : SELECT INDICATION COLOR	
	ログファイルの表示	W : SYSTEM STATUS LOG	
	S-BUS データの表示	X : DISPLAY S-BUS COMMUNICATION	
	テーブルデータの表示	Y : DISPLAY TABLE DATA	
	2次局の通信チェック	Z : SET UNIT DETECTABLE	
	テーブルデータの初期化	K : RESET TO DEFAULT TABLE	2次局
	ハードウェアの状態表示	V : DISPLAY UNIT STATUS	
	テーブルデータの表示	Y : DISPLAY TABLE DATA	
	信号フォーマットの切り換え設定	Z : SELECT SDI FORMAT	